群馬県前橋市

上泉下中峯遺跡
kamiizumi-shimonakamine site

荻窪公園県道南ゾーン公園造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

赤城山南麓における奈良・平安時代遺跡群

並ぶ掘立柱建物跡と氷室の可能性がある円形有段遺構の検出

墨書土器「厨」の出土

北東上空から　平野部に群馬県庁を望む

2021.3
前橋市教育委員会

群馬県前橋市

上泉下中峯遺跡 kamiizumi-shimonakamine site

荻窪公園県道南ゾーン公園造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

赤城山南麓における奈良・平安時代遺跡群

並ぶ掘立柱建物跡と氷室の可能性がある円形有段遺構の検出

墨書土器「厨」の出土

1号土坑出土須恵器坏底外面の墨書「厨」

2021.3

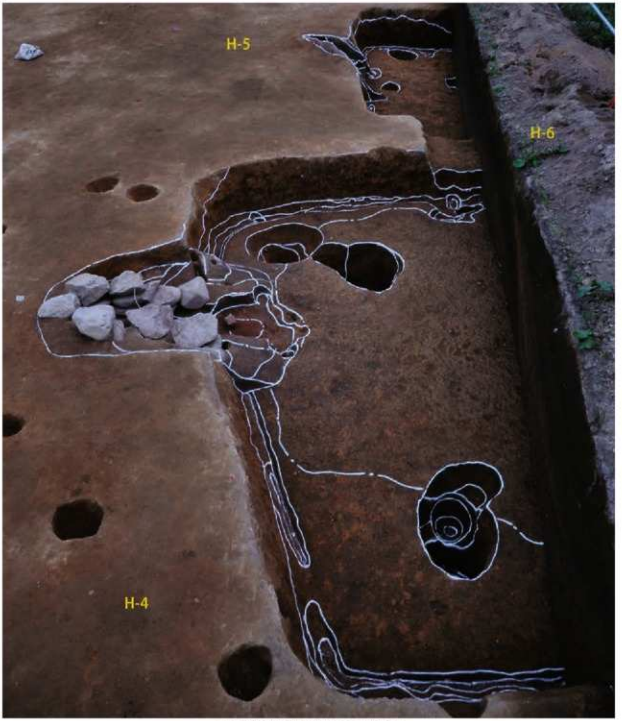
前橋市教育委員会

全景（上が北）

全景（北西上空から）伊勢崎市方面を望む。

全景（北調査区・北から）

全景（南調査区・東から）



4号竪穴建物跡調査状況（北から）
南側に隣接してほぼ同時期の5号竪穴建物跡がある。6号竪穴建物跡は別時期。

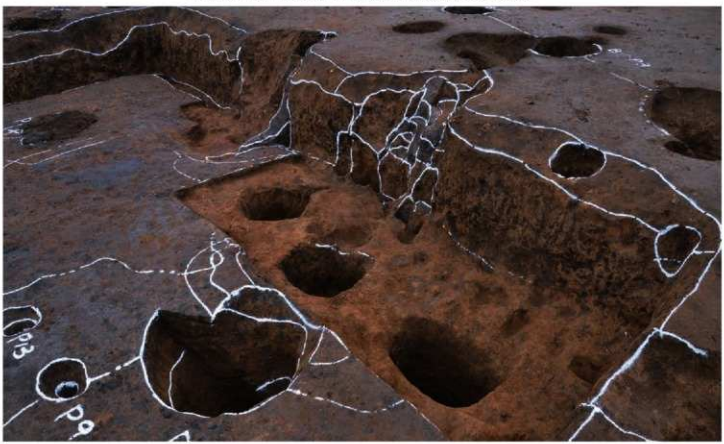
4号竪穴建物跡の土層断面（東から）
南側（西側）から旧表土とロームが流れ込んでいる。5号竪穴建物を開鑿した際の発生土を処理したものか。

4号竪穴建物跡　竈検出状況（西から）　袖部は破壊され、構築土が大きく広がっていた。

4号竪穴建物跡　竈煙道部完掘（西から）　石組による立派な煙道部。この中の埋土中に使用時の煙道が確認された。

11 号竪穴建物跡　遺物出土状態（北西から）
焼失遺物。炭化材の遺りは今一つだが、床面中央は赤く焼けていた。床面右壁寄りには根太痕？

11 号竪穴建物跡　土層堆積状態（南西から）
12 号竪穴建物跡（向かって右側）方向から埋め戻されたかのような状況。



11 号竪穴建物跡　竈と貯蔵穴の関係　（東から）
本建物跡北壁には 3 箇所 3 時期の竈。貯蔵穴もそれに対応して 3 箇所確認された。

12 号竪穴建物跡　調査状況（南東から）　一辺 8 m を超える大形竪穴建物跡。

12 号竪穴建物跡の柱穴断面

床面で確認した柱穴を掘り下げると、複数の穴が重なった状況で掘り上がった。底面に遺された柱圧痕や土層断面から、最低 3 回の建て替えを想定できるが、竈・貯蔵穴は 2 箇所 2 時期であった。連続か断続かはともかく、改修を重ねながら使用されたことを示している。

3～10 号掘立柱建物跡調査状況（北東から）

3～10 号掘立柱建物跡（黄色）・1 号柵列（赤色）調査状況（南西から）

1号土坑（円形有段遺構・南から）

1号土坑　土層断面（北から）
下層は風成堆積のローム土、中位から上は自然堆積。

1 号土坑　中位遺物出土状況（北から）
複数個体の長頸壺を含む土器が、馬頭と大量の礫と共に出土した。

1 号土坑　遺物集合

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感ぜられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国府、国分僧寺、国分尼寺など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する上泉下中峯遺跡は、本市中央部赤城山南麓の上泉町にあります。周辺でも多くの発掘調査が行われ、集落跡を中心とした様々な遺構や貴重な遺物が見つかっています。今回の調査は、荻窪公園県道南ゾーン公園造成工事に伴い実施されました。調査の結果、奈良・平安時代の集落跡が検出されました。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進めることができました。また、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和３年３月

前橋市教育委員会
教育長　吉　川　真由美

例　言

1. 本書は、群馬県前橋市の荻窪公園県道南ゾーン公園造成工事に先立つ上泉下中峯遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、前橋市（建設部：公園緑地課）の委託を受け、前橋市教育委員会事務局文化財保護課の指導・助言のもと、山下工業株式会社（代表取締役　山下 尚）文化財事業部が実施した。
3. 発掘調査から報告書刊行までの作業は、前橋市の費用負担で実施した。
4. 発掘調査の要項は、次のとおりである。

遺跡所在地　群馬県前橋市上泉町 2342-1、2344-1、2345
遺跡略称　2D31　調査面積　1,084㎡
期間　【現地調査】令和２年 ７月 30 日～令和２年 10 月 ７日
【整理】　令和２年 10 月 19 日～令和３年 ２月 28 日
調査担当者　永井智教（山下工業株式会社 文化財事業部調査技術員）
調査員　外山政子（元 榛名町史編纂室）

5. 遺構写真は、永井・外山が撮影し、空撮は清水龍太、遺物写真は青木ゆかり・川邉みずき、遺物集合写真は原 誠二が撮影した。
6. 遺構測量及び平面図作成は、田中隆明（タナカ設計）が行った。
7. 現地調査作業員は、以下のとおり。（五十音順）

石関 清　岩崎のぞみ　樺澤礼子　斎藤茂二　中野光雄　野村高久
畠山孝四郎　樋下田千鶴　広瀬敏彦　村田勝司　和田 進　渡辺寿美子

8. 整理作業は、永井指示のもと石塚久則・青木利文を中心に、青木(ゆ)・川邉・樺澤・岡田 萌・谷藤龍太郎・富田和美・樋下田が行った。
9. 本書の執筆については、Ⅰが前橋市教育委員会事務局（文化財保護課 小峰 篤）、Ⅱ－３が岡田、Ⅵが高橋 敦（株式会社古生体研究所）、他は永井である。
10. 本書の編集は、永井監修のもと川邉・谷藤が行った。
11. １号土坑出土の獣骨については、樋泉岳二氏（早稲田大学）に鑑定して頂いた。
12. 発掘調査資料及び出土遺物は、一括して前橋市教育委員会が保管している。
13. 調査及び報告書の作成にあたっては、下記の諸氏・機関からご助言・ご協力賜った。（五十音順・敬称略）

有山径世　池田敏宏　伊藤順一　出浦 崇　川田馨秋　知久裕昭　中村岳彦　中山 晋　深澤敦仁　深澤みどり
野村 満　前原 豊　山崎芳春　山本良太　三浦京子　茂木孝行　横澤真一　株式会社コクドリサーチ　株式会社甲セオリツ

凡　例

1. 遺跡、全体図における X・Y 値は、日本測地系の座標値、挿図中の北は座標北である。
2. 挿図中で用いる遺構等の略称は、以下のとおりである。

【竪穴建物跡】H　【掘立柱建物跡】B　【柵列跡】V　【土坑】D　【溝跡】W　【井戸跡】I　【ピット】P

3. 遺構図は 1/600・1/300・1/100・1/60・1/40 を紙面に合わせて使い分け、各挿図中に明記した。
4. 遺物実測図は土器 1/3・石製品（玉）1/2、遺物写真は実測図に準じた。
5. 遺構図・遺物図の網掛けについては、個々の図中に凡例を明示した。
6. 本書で用いる火山噴出物の略称と年代については以下のとおりである。

【浅間山Ｂ軽石】 As-B　天仁元年（1108）　【浅間山Ｃ軽石】 As-C　３世紀末～４世紀初頭

7. 遺構図の網掛けについては、凡例を右に明示した。 ▨ 平面：被熱による赤化。断面：石の断面

目　次

巻頭1　全景（上が北）
全景（北西上空から）
全景（北調査区・北から）
全景（南調査区・東から）

巻頭2　4号竪穴建物跡調査状況（北から）
4号竪穴建物跡の土層断面（東から）

巻頭3　4号竪穴建物跡　竈検出状況（西から）
4号竪穴建物跡　竈煙道部完掘（西から）

巻頭4　11号竪穴建物跡　遺物出土状態（北西から）
11号竪穴建物跡　土層堆積状態（南西から）
11号竪穴建物跡　竈と貯蔵穴の関係（東から）

巻頭5　12号竪穴建物跡　調査状況（南東から）
12号竪穴建物跡の柱穴断面

巻頭6　3～10号掘立柱建物跡調査状況（北東から）
3～10号掘立柱建物跡（黄色）・1号棚列（赤色）
調査状況（南西から）

巻頭7　1号土坑（円形有段遺構・南から）
1号土坑　土層断面（北から）

巻頭8　1号土坑　中位遺物出土状況（北から）
1号土坑　遺物集合

はじめに
例言・凡例・目次
Ⅰ　調査に至る経緯…… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境…… 1
1　遺跡の位置　2　地理的環境　3　上泉下中峯遺跡　歴史的環境
Ⅲ　調査の方針と経過…… 7
1　調査の範囲と基本方針　2　調査経過
Ⅳ　基本層序…… 7
Ⅴ　検出された遺構と遺物…… 9
①　竪穴建物跡　②　掘立柱建物跡　③　棚列跡
④　土坑　⑤　溝跡　⑥　井戸跡
⑦　ピット
Ⅵ　上泉下中峯遺跡から出土した炭化材の樹種…… 51
Ⅶ　成果と問題点…… 55
1　改修を重ねた竪穴建物跡　2　円形有段遺構についての補足
3　「厨」墨書と掘立柱建物跡群　4　上泉下中峯遺跡の竈について
参考文献
写真図版・報告書抄録

挿図目次

Fig.1　遺跡の位置
Fig.2　調査地点と現住の調査…… 2
Fig.3　周辺遺跡…… 4
Fig.4　遺跡全体図…… 6
Fig.5　北調査区…… 13
Fig.6　南調査区…… 14
Fig.7　1・2・3号竪穴建物跡…… 15
Fig.8　1・2号竪穴建物跡竈…… 16
Fig.9　3・5号竪穴建物跡竈…… 17
Fig.10　4・5・6号竪穴建物跡…… 18
Fig.11　4号竪穴建物跡竈…… 19
Fig.12　7・8号竪穴建物跡…… 20
Fig.13　9・10号竪穴建物跡…… 21
Fig.14　6・10号竪穴建物跡竈…… 22
Fig.15　11号竪穴建物跡（1）…… 23
Fig.16　11号竪穴建物跡（2）…… 24
Fig.17　11号竪穴建物跡（3）…… 25
Fig.18　12号竪穴建物跡（1）…… 26
Fig.19　12号竪穴建物跡（2）…… 27
Fig.20　12号竪穴建物跡（3）…… 28
Fig.21　13・20・21号竪穴建物跡…… 29
Fig.22　14・19・15号竪穴建物跡…… 30
Fig.23　1・2号掘立柱建物跡…… 31
Fig.24　3・4号掘立柱建物跡…… 32
Fig.25　5～10号掘立柱建物跡と1号棚列…… 33
Fig.26　1号土坑…… 34
Fig.27　出土遺物（1）…… 35
Fig.28　出土遺物（2）…… 36
Fig.29　出土遺物（3）…… 37
Fig.30　出土遺物（4）…… 38
Fig.31　出土遺物（5）…… 39
Fig.32　出土遺物（6）…… 40
Fig.33　出土遺物（7）…… 41
Fig.34　出土遺物（8）…… 42
Fig.35　出土遺物（9）…… 43
Fig.36　出土遺物（10）…… 44
Fig.37　出土遺物（11）…… 45
Fig.38　出土遺物（12）…… 46
Fig.39　炭化材…… 53
Fig.40　上泉下中峯遺跡と「上泉・荻窪遺跡群」…… 54
Fig.41　上泉下中峯遺跡の竈構築手順と焼土
塊のトンネル施設（1）…… 58
Fig.42　上泉下中峯遺跡の竈構築手順と焼土
塊のトンネル施設（2）…… 59
Fig.43　H-4竪穴建物の石組みと煙道の様子（1）…60
Fig.44　H-4竪穴建物の石組みと煙道の様子（2）…61

挿表目次

Tab.1　周辺遺跡一覧表…… 5
Tab.2　竪穴建物跡一覧表…… 8
Tab.3　掘立柱建物跡一覧表…… 10
Tab.4　掘立柱建物跡ピット一覧表…… 10
Tab.5　棚列ピット一覧表…… 11
Tab.6　土坑一覧表…… 11
Tab.7　溝跡一覧表…… 11
Tab.8　井戸跡一覧表…… 11
Tab.9　ピット一覧表（1）…… 11
Tab.10　ピット一覧表（2）…… 12
Tab.11　竪穴建物跡出土土器・陶器一覧表（重量比）…43
Tab.12　出土遺物観察表（1）…… 47
Tab.13　出土遺物観察表（2）…… 48
Tab.14　出土遺物観察表（3）…… 49
Tab.15　出土遺物観察表（4）…… 50
Tab.16　出土遺物観察表（5）…… 50
Tab.17　樹種同定結果…… 52

写真図版目次

PL1　南方から見た上泉下中峯遺跡と赤城山
　　南東から見た上泉下中峯遺跡

PL2　上泉下中峯遺跡　調査区垂直（上が北）

PL3　北調査区　垂直（上が北）

PL4　南調査区　垂直（右が南）

PL5　H-1 ～ 3 調査状況（東から・合成）
　　H-1　完掘（西から）
　　H-1　竈　調査状況（南西から）
　　H-2　完掘（西から）
　　H-2　竈　調査状況（北西から）
　　H-3　完掘（西から）
　　H-3　竈　調査状況（西から）

PL6　H-4　完掘（西から）
　　H-4　竈　その 1（確認状況・西から）
　　H-4　竈　その 2（袖部切開・西から）
　　H-4　竈　その 3（煙道部切開・西西から）
　　H-4　竈　その 4（煙道部土層断面・南から）
　　H-4　竈　その 5（完掘・西から）
　　H-4　竈　その 6（左壁石積・南から）
　　H-4　竈　その 7（右壁石積・北から）

PL7　H-5　完掘（西から）
　　H-5　竈（西から）
　　H-6　完掘（南から）
　　H-6　竈（西から）
　　H-7　完掘（西から）
　　H-7　竈　検出状況（西から）

PL8　H-8　完掘（南から）
　　H-9　完掘（南西から）
　　H-10　完掘（北西から）
　　H-10　遺物出土状況（南東から）
　　H-10　竈　遺物出土状況（北西から）
　　H-10　竈　完掘（北西から）
　　H-10　柱穴 P2 断面（南から）
　　H-10　柱穴 P4 断面（南から）

PL9　H-11　完掘（南西から）
　　H-11　遺物・炭化物出土状況（西から）
　　H-11　遺物・炭化物出土状況（南から）
　　H-11　a・b 竈と炭化材の関係（南東から）

PL10　H-11　a 竈　完掘（南東から）
　　H-11　a 竈　土層断面（東から）
　　H-11　a 竈　土層断面（南東から）
　　H-11　a 竈　左袖部外側の被熱状況（南から）
　　H-11　a・b 竈の位置関係（完掘時・南東から）

PL11　H-11　b 竈　完掘（南東から）
　　H-11　b 竈　土層断面（北東から）
　　H-11　c 竈（白線の無い部分・南東から）
　　H-11　a・b・c 竈の位置関係（南から）
　　H-11　a ～ c 竈と a ～ c 貯蔵穴の位置関係（ホリタ段階・東から）

PL12　H-12　調査状況（南東から）
　　H-12　a 竈　完掘（南東から）
　　H-12　a 竈（白線有・東から）
　　H-12　a 竈　土層断面（東から）
　　H-12　a 貯蔵穴（P7・南東から）

PL13　H-12　b 竈　調査状況（北から）
　　H-12　b 竈とｂ貯蔵穴（P3・南から）
　　H-12　P1a 土層断面（南から）
　　H-12　P1b・c 土層断面（南から）
　　H-12　P2a・c 土層断面（東から）
　　H-12　P2a・b 土層断面（南東から）
　　H-12　P5 土層断面（南から）
　　H-12　P6 土層断面（東から）

PL14　H-13　完掘（南から）
　　H-13　出土遺物（南東から）
　　H-13　竈　調査状況（南から）
　　H-13　竈　土層断面（西から）
　　H-14・19　調査状況（南から）
　　H-14　貯蔵穴・柱穴調査状況（東から）
　　H-15　完掘（東から）
　　H-16　床面検出状況（西から）

PL15　H-17　完掘（南から）
　　H-18　完掘（東から）
　　H-21　完掘（北西から）
　　H-20・I-1　調査状況（西から）
　　B-1　調査状況（南西から）

PL16　B-2　調査状況（南東から）
　　B-3　完掘（東から）

PL17　B-4　完掘（東から）
　　B-5 ～ 10　調査状況（北東から）

PL18　D-1　完掘（南東から）
　　D-1　土層断面（北西から）
　　D-1　中層遺物出土状況（北西から）
　　D-2　完掘（北東から）

PL19　出土遺物（H-1、H-2、H-3、H-4）

PL20　出土遺物（H-4、H-5、H-6、H-7、H-8、H-9）

PL21　出土遺物（H-10）

PL22　出土遺物（H-10、H-11、H-12）

PL23　出土遺物（H-13、H-14、H-15、H-17、H-18、H-19、B-2、B-4、B-6、B-7）

PL24　出土遺物（D-1）

PL25　出土遺物（P-26、P-46、P-47、P-122、P-206、P-218、P-219、P-230、試掘トレンチ、H-1、H-5、H-7、H-9、H-10、H-11）

PL26　出土遺物（H-11、H-12、H-13、H-14、H-16、D-1）

PL27　D-1 出土　馬歯（室内精査後）
　　調査を終えて

Fig. 1　遺跡の位置

「国土地理院発行　数値地図 1/200000」を改変

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市長　山本 龍（公園緑地課）（以下「前橋市」という。）が施工する荻窪公園県道南ゾーン公園造成に伴い実施されたものである。

当該工事予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地内（前橋市 0056 遺跡・前橋市 0059 遺跡）であることから、試掘確認調査（以下「試掘調査」という。）を令和2年4月21日～22日に実施した。試掘調査の結果、古代の竪穴建物跡等が検出されたため、埋蔵文化財の取り扱いについて前橋市と協議を行った。造成工事計画と試掘調査結果を基に埋蔵文化財保護措置について検討したが、遺構の現状保存は困難であると判断し、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで前橋市と合意した。

同年5月1日付で前橋市より、埋蔵文化財発掘調査・整理業務に係る依頼が、前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）に提出された。市教委では既に他の発掘調査予定があるため、市教委直営による発掘調査実施は困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで前橋市と合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することとなった。同年6月29日付で前橋市と民間調査組織である山下工業株式会社との間で業務委託契約が締結され発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「上泉下中峯遺跡」（遺跡略コード：2D31）の「上泉」は町名を採用し、「下中峯」は旧小字名を採用した。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置

今回発掘調査を実施した上泉下中峯遺跡は、前橋市上泉町内に所在する。群馬県庁の北東約 6.5㎞、標高は 180 mである。平成の市町村合併前から前橋市であった上泉町は、1954 年（昭和 29 年）の前橋市への編入合併以前は、1889 年（明治 22 年）に上泉・江木・堤・亀泉・堀之下・石関・東片貝・西片貝・三俣・幸塚・上沖之郷・下沖之郷・荻窪各村の合併で成立した勢多郡桂萱村であった。なお、今回調査地点西側の小坂子町は前橋市編入合併以前の勢多郡芳賀村に属しており、本遺跡が近・現代には桂萱・芳賀の村界であった点は興味深い。前橋市上泉町北部に相当する今回の調査地点は、前橋市街地の喧騒からも離れ、典型的な赤城山南麓の農村景観を今も保っているが、1973 年には隣接する荻窪町内に清掃工場が設置、2011 年には「道の駅 赤城の恵」開設、2017 年には国道 17 号上武道路が全線開通（それ以前から段階的に供用されていた）、南方の五代町には工業団地、西方の芳賀町には 1970 年代以降住宅・工業団地の造成というように、少しずつではあるが確実に都市化の波が近づいている地域でもある。

2. 地理的環境

調査地点は赤城山南麓では一般的な台地性の南緩斜面上に位置し、傾斜に対して直行する南北方向の開析谷によって形成された谷津田（調査時には造成工事によって埋め立てられていた）に東面することから、南東方向へ穏やかに下っている。遺跡範囲自体はこの東面する谷津を東限に、西は荻窪川によって開析された比較的大規模な谷津で、南は上武道路付近まで、北は県道渋川大胡線で小坂子一本峯遺跡に接している。

遺跡付近は近世以来広く畑地として土地利用されていたようで、水田は狭隘な谷津田が僅かであったことが陸軍迅速測図によって窺われるが、遺跡南端付近を東流する大正用水・遺跡北方約 1.5㎞を同じく東流する群馬用水の開鑿とそれに伴う土地改良事業の実施によって、現在では広く整備された水田の比率も大きい。

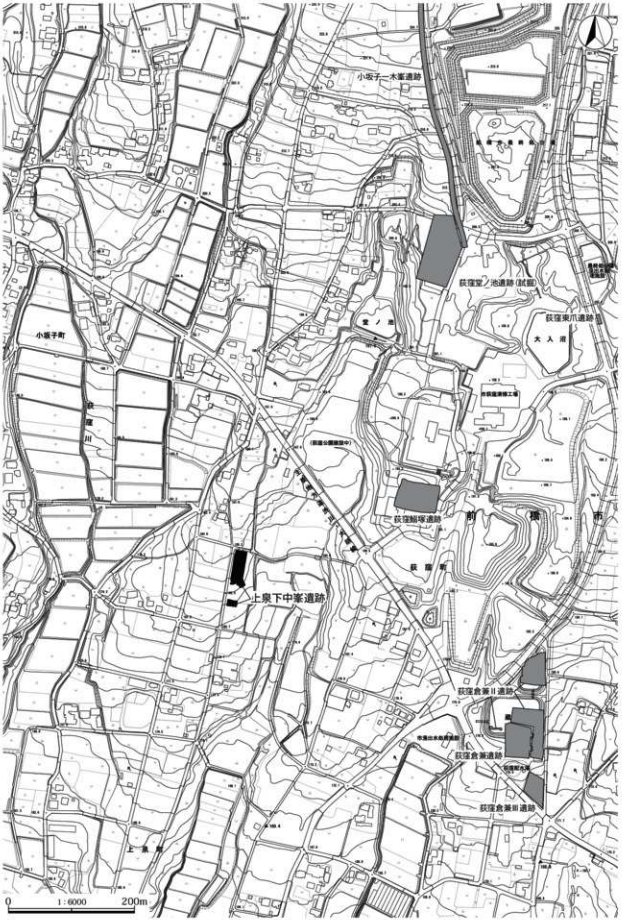


Fig. 2　調査地点と既往の調査

「前橋市遺跡分布地図　2013」を改変

3. 上泉下中峯遺跡　歴史的環境

本遺跡の立地する赤城山南麓は、旧石器時代から中近世にかけて多くの遺跡が分布している。本遺跡では、飛鳥～奈良時代を中心とした遺構群から「扉」墨書土器や掘立柱建物跡・円形有段遺構を検出し、注目される成果を得た。従って本節では、古墳時代後期～奈良・平安時代の周辺の古墳・遺跡を整理しておきたい。

後期古墳　本遺跡の周辺には、5世紀後半から6世紀初頭の時期に形成された初期群集墳である芳賀西部団地遺跡（2）の古墳群、6世紀後半の前方後円墳であるオブ塚古墳（3）（約35m）、7世紀前半の前方後円墳の大日塚古墳（4）（約20m）が知られている。また東方神沢川流域の大室地区には、6世紀初頭の築造である前二子古墳（5）（94m）を皮切りに中二子古墳（6）（111m）、後二子古墳（7）（85m）と大形前方後円墳が継続的に築かれ、周囲の小規模の古墳も含めて大室古墳群が形成されている。

後期後葉・終末期の古墳　7世紀初頭の伊勢山古墳（8）（約60m、墳輪なし）を最後に前方後円墳がみられなくなり、代わりに中小の円墳による群集墳が多く出現するようになる。本遺跡の西側の芳賀東部団地遺跡群（9）では7世紀後半の円墳が4基、南方荒砥川流域の荒砥地区では谷津遺跡（10）で群集墳が確認されている。群集墳は神沢川流域の西大室地区でも確認されており、小稲荷古墳群（11）や、横俵遺跡群の上横俵古墳群（12）・熊の穴古墳群（13）では円墳群が確認され、一部は6世紀に遡る。これらの群集墳の中にあって、本遺跡南方に位置する新田塚古墳（14）（約45m）、神沢川流域の荒砥村70号墳（15）（約30m）、荒砥村68号墳（16）（約34m）、富士山古墳（17）（約36m）は一際規模の大きい円墳で、前方後円墳に代わる存在といえる。このうち小稲荷古墳群の3号墳から出土した湾曲直刀は、山岳信仰の儀礼に使用されたものかとの指摘が報告書でなされており、時代は少し遡るが、5世紀末から6世紀初頭の西大室丸山遺跡（18）や前橋市三夜沢町にある櫃石（地図外）で確認されている巨石祭祀との関連性が窺える。一方で標高の高い地域への古墳の進出も注目され、芝山古墳（19）や桂正田稲荷塚古墳（20）、東公田古墳（21）を例に挙げることができる。本遺跡から寺沢川を挟んで東側には、堀越古墳（22）や獅噛環頭大刀を出土した大胡39号墳（23）、方頭大刀を出土した荒砥川右岸の向原古墳（24）、さらに標高が高い地域では、西大室地区と水系を同じくする神沢川流域の白山古墳（25）において和同開珎や蔵手刀、佐波理鋺が出土しており、典型的な「終末期古墳」といえる。

奈良時代　本遺跡に近接する荻窪倉兼Ⅰ・Ⅱ遺跡（26・27）では8世紀初頭から10世紀の集落が、荻窪鰯塚遺跡(28)では7世紀後半から9世紀にかけての竪穴建物や掘立柱建物が検出されている。また鳥取福蔵寺Ⅰ・Ⅱ遺跡（29・30）でも7世紀中葉から11世紀までほとんど間断なく集落が存在していたことがわかっている。このような長期間に連綿と集落が営まれ続ける一方で、その様相は変化していく。例えば桧峯遺跡（31）では、奈良時代に確認できない掘立柱建物が平安時代になって出現しているが、6世紀中葉から11世紀にわたる集落が確認された芳賀東部団地遺跡群（9）では、東側台地において、8世紀前半の掘立柱建物が早くも検出されており、他の一般集落とは一線を画す存在である。本地域の居住開始当初には開析谷付近の台地高所で建物がみられたが、7世紀後半頃から台地内部にも進出し、8世紀には台地箇所が大きく広がっている。このように律令国家の完成期、またはその直前とみられる時期に一挙に集落が拡大しているが、集落での人々の生活手段は、稲作や畠作、鉄の生産、養蚕、漆の生産といったものが挙げられる。例えば製鉄に関しては、赤城山南麓では製鉄に関係する遺跡が多く、製鉄の技術をもった集団の存在が想定される。周囲の製鉄に関連する遺跡として、荒砥川左岸では上大屋・樋越地区遺跡群の八ヶ峰生産址遺構（32）で製鉄炉や炭窯、須恵器窯が検出され、乙西尾引遺跡（33）では8世紀中葉から9世紀中葉の製鉄炉や木炭生産のための炭窯、鉄塊系遺物を出土する生産関連竪穴建物などの関連施設が検出されている。製鉄以外では、樋越南部遺跡群の東前沖遺跡（34）で調査された竪穴建物の半分あまりから漆痕が確認できる土器群が出土している。竪穴建物は7世紀末から8世紀前半頃に該当するとみられ、これは国家的事業の根幹にかかわる漆加工集団関連の集落ではないかと考えられている。このように本地域の周辺には専門的な技術を持つ集落がみられるようになり、五代木福Ⅰ遺跡（35）の竪穴建物

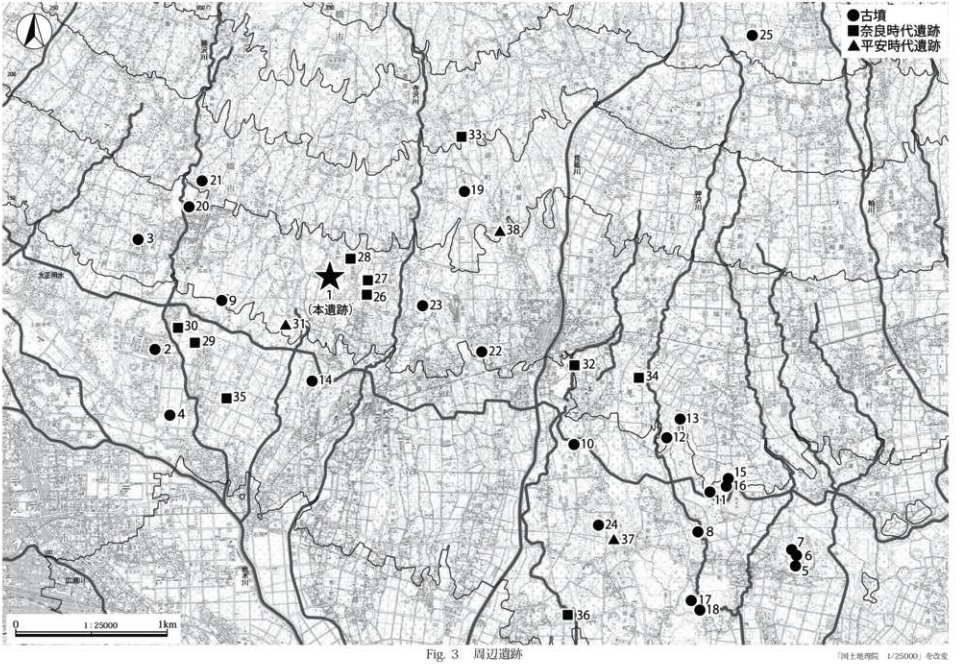


Fig. 3　周辺遺跡

「国土地理院　1/25000」を改変

から出土した土玉・臼玉・銅鈴も注目される。

平安時代　7世紀後半に集落が初現する荻窪鰯塚遺跡（28）と荻窪倉兼Ⅰ・Ⅱ遺跡（26・27）の竪穴建物は少なくなる一方、芳賀東部団地遺跡群（9）では奈良時代に拡大した集落が最盛期を迎え、桧峯遺跡（31）では、奈良三彩小壺や灰釉陶器、匙状鉄製品といった高級品が出土している。五代木福Ⅰ遺跡（35）では瓦塔片を出土するが、寺院関連の遺構は検出されていない。生産に関しては、烏取福蔵寺Ⅰ遺跡（29）において9世紀中頃と思われる精錬鍛冶炉が検出されており、平安時代以前の鉄滓廃棄土坑などが確認されていることから、前代にも精錬・鍛冶関係の集団工人が存在したことが推測される。また荒砥川と神沢川の間に位置する柳久保遺跡群・柳久保水田址（36）では、浅間Ｂ軽石によって埋もれた水田址が検出され、漆器椀や祭祀に用いられたと考えられている墨画土器が出土している。この頃、仏教に関する遺跡や遺物が多く検出されるようになり、例えば8世紀終わり頃から9世紀終わり頃に機能した寺院跡とされる上西原遺跡（37）からは、瓦や瓦塔といった仏教的色彩をおびた遺物などが出土し、伊勢崎市境伊与久の十三宝塚遺跡（地図外）の瓦と同様に国分寺の瓦が出土している。また両遺跡とも寺院跡周辺に多くの建物や生産関連遺構が検出されており、複合的な遺跡であることを示している。他にも堀越中道遺跡（38）では、「立」の墨書土器・焼印や律令制下祭祀に関わるとみられる「五芒星」や「九字」の墨書・刻書土器が出土している。特にこの遺跡では礎石を伴う大形竪穴建物や庇付の掘立柱建物が検出されることから、一般の集落の様相とは異なる特殊性が見て取れる。

Tab.1　周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	種別	備考	No.	遺跡名	種別	備考
1	上栗下中峯遺跡	集落	本遺跡	20	林止田稲荷塚古墳	墳墓	7世紀後半の方墳
2	芳賀西部団地遺跡	墳墓・集落	縄文・古墳時代、中・近世	21	東谷山古墳	墳墓	7世紀後半の円墳
3	オブ塚古墳	墳墓	6世紀後半の前方後円墳	22	堀越古墳	墳墓	古墳時代終末期の円墳
4	大日塚古墳	墳墓	7世紀前半の円墳	23	大沢39号墳	墳墓	古墳時代終末期の円墳
5	前二子古墳	墳墓	6世紀初頭の前方後円墳	24	向原古墳	墳墓	古墳時代終末期の円墳
6	中二子古墳	墳墓	6世紀前半の前方後円墳	25	白山古墳	墳墓	古墳時代終末期の円墳
7	後二子古墳	墳墓	6世紀後半の後円墳	26	荻窪倉兼遺跡	集落	奈良・平安時代
8	伊勢山古墳	墳墓	7世紀初頭の前方後円墳	27	荻窪倉兼Ⅱ遺跡	集落	奈良・平安時代
9	芳賀東部団地遺跡群	集落	古墳・奈良・平安時代	28	荻窪鰯塚遺跡	集落	奈良・平安時代
10	谷津遺跡	墳墓・集落	縄文・古墳時代	29	烏取福蔵寺遺跡	集落・生産	縄文・古墳・奈良・平安時代、中世
11	小福田古墳群	墳墓	7世紀代の円墳	30	烏取福蔵寺Ⅱ遺跡	集落・生産	旧石器・縄文・古墳・奈良・平安時代・中世
12	横俣遺跡群・上横俣古墳群	墳墓	6世紀代の古墳	31	桧峯遺跡	集落	古墳・奈良・平安時代
13	横俣遺跡群・熊の穴古墳群	墳墓	7世紀中葉以降の古墳	32	上大屋・堀越地区遺跡群・八ヶ峰生産址遺構	集落・生産	縄文・奈良・平安時代、近世
14	新山塚古墳	墳墓	7世紀代の円墳	33	乙西尾引遺跡	集落・生産	平安時代
15	荒砥村 79 号墳	墳墓	7世紀代の円墳	34	堀越南部遺跡群・東前沖遺跡	集落	縄文・古墳・奈良・平安時代、中・近世
16	荒砥村 68 号墳	墳墓	7世紀代の円墳	35	五代木福Ⅰ遺跡	集落	縄文・古墳・奈良・平安時代、中・近世
17	笠上山古墳	墳墓	古墳時代終末期の円墳	36	柳久保遺跡群・柳久保水田址	集落・生産	平安時代
18	西大室丸山遺跡	墳墓・祭祀	古墳時代	37	上西原遺跡	寺院	奈良・平安時代
19	笠山古墳	墳墓	古墳時代後半の円墳	38	堀越中道遺跡	集落	縄文・古墳・平安・中世・近世

Fig. 4　遺跡全体図

「前橋市遺跡分布地図　2013」を改変

Ⅲ　調査の方針と経過

1．調査の範囲と基本方針

今回の発掘調査は、造成工事によって切土となる範囲のうち、文化財保護課による確認調査時の遺構検出状況等を勘案して設定された南北２地点の調査区がその対象となった。北側調査区については想定以上の遺構の広がりから、事業課・文化財保護課と調整の上で部分的に拡張したが、反面南側調査区は調査直前の抜根による攪乱が激しく、残存状態は思わしく無かった。

現地調査は重機でローム層上面まで掘削した後、主要遺構周辺に絞って精査する方針でいたが、実際には小規模なピットがほぼ全域に分布している状態で、最終的には数回に分けて全面精査を行った。また、経費面を考慮し、外注による光波測距儀を使用した平面図作成は完掘時に限定するものとして、遺物取り上げや範囲平面図の作成は古典的な平板測量とした。断面図については従前の手実測である。

2．調査経過

７月 30 日～８月４日、バックホウとクローラーダンプを投入して表土除去を実施。機械掘削を追いかけ、同時に鋤簾による遺構確認を開始した。８月７日、北側調査区の西側調査区壁にかかる竪穴建物跡の重複から人力掘削を開始。遺構番号については、基本的に着手順とした。９月１日には調査区拡張のために小型バックホウを搬入。９月 10 日には文化財保護課の内部研修を受け入れ。同月 29 日にはドローンによる簡易空撮を実施した。10 月２日には文化財保護課監督員による完了確認、その後は残務処理を行いながら埋め戻し、原状復帰した。なお、埋め戻しに合わせて、掘立柱建物跡の広がりが予想された北調査区の南西端の表土除去を行い、柱穴のプランの記録作成も行った。

整理作業は現地調査終了と同時に着手、遺物の水洗・注記・接合の後、実測遺物の抽出を行い、年末までには実測図化を終え、年明けから報告書作成へと移行した。令和３年２月末日には印刷業者へ全原稿を引き渡し、同年３月 15 日に本書の刊行をもって全業務は完了した。

Ⅳ　基本層序

調査地点は赤城山南麓、標高 180 ｍの南面斜面に位置し、微視的には東側に南北方向に入る開析谷の影響を受けた東勾配である。風雨の浸食を受けた為か、赤城山南麓では一般的な黒ボク土は残存しておらず、表土下にはソフトロームが露呈してしまう状態ではあったが、遺構自体の保存状態は概ね良好であった。

Ⅰ層　現表土層　　近年までの耕作土で、粘性・しまりを欠く。
Ⅱ層　黄褐色土　　ソフトローム層　細根の侵入によって柔らかい。Ⅰ層との層界は直線的な不整合面。
Ⅲ層　黄褐色土　　ハードローム層　Ⅱ層との層界は波状を呈し、自然攪乱の影響と思われる。
　　Ⅳ層の上をⅢａ、下をⅢｂとする。
Ⅳ層　暗灰褐色土　　ローム層中の暗色帯。粘性強い。
Ⅴ層　灰白色軽石層　いわゆる八崎パミス。１号土坑底面で確認される。

Tab.2　竪穴建物跡一覧表

(深：30cm以上・普：10～30cm・浅：10cm以下)　壁（直・有段・斜）　不明は－。　（　）は残存値を表す。

番号	時期	位置(グリッド)	平面形	規模(m)	長軸方向	壁	柱穴	貯穴(位置/深さ)	切り合い関係等	カマド位置	支脚位置	支脚材	カマド構造材(本体)	カマド計測値	備考
H-1	8c後	D-4	－	5.0×(－)	N－80°－E	深・直	－	南東隅/カマド右/普	H-2を切る	東辺南寄	－	－	粘土（暗褐色・灰色）・焼土構造材	焚口幅 －／燃焼室長 － 焚口高 －／煙道幅 ≒10cm 燃焼室幅≒40cm／煙道長 ≒95cm 煙道形態 刳抜方式 傾斜≒10°～40° 使用材 粘土・土器・石・焼土ブリッジ	粘土貼付後空焚き・袖部地山掘り残し。燃焼室前部壊されている。煙道部に焼土構造材。
H-2	7c前	E-4	－	(3.5)×(－)	N－90°－E	深・直	(2)	南東隅か	H-1・3に切られる	東辺南寄	－	－	粘土（暗褐色・灰色）・焼土構造材	焚口幅 －／燃焼室長 － 焚口高 －／煙道幅 ≒10cm 燃焼室幅 －／煙道長(45cm) 煙道形態 刳抜方式 傾斜≒20°～40° 使用材 粘土・土器・焼土ブリッジ	粘土貼付後空焚き・燃焼室前部壊されている。煙道部に焼土構造材。
H-3	7c後	E-4 F-4	－	5.7×(－)	N－96°－E	深・直	(4)	南東隅/カマド右/深	H-2を切る	東辺南寄	－	－	粘土（灰白色）焼土構造材	焚口幅 －／燃焼室長 － 焚口高 －／煙道幅 ≒10cm 燃焼室幅 －／煙道長 ≒90cm 煙道形態 刳抜方式 傾斜≒10°～30° 使用材 粘土・土器・焼土ブリッジ	粘土貼付後空焚き・袖部地山掘り残し。燃焼室前部壊されている。煙道部に焼土構造材。
H-4	7c末/8c初	H-3	－	5.7×(－)	N－85°－E	深・直	(2)	南東隅/カマド右/深	H-6に切られる	東辺南寄	－	－	粘土（暗褐色・灰色）・石・甕	焚口幅 －／燃焼室長 － 焚口高 －／煙道幅 ≒10cm 燃焼室幅 －／煙道長 ≒105cm 煙道形態 刳抜方式 水平・L字状～10°～90° 使用材 粘土・土器・大型[illegible]石	石設置後空焚き・燃焼室は壊されている。
H-5	8c初	I-3 J-3	－	4.0×(－)	N－90°－E	深・直	(1)	南東隅/カマド右/普	H-6に切られる	東辺南寄	－	－	粘土・甕	焚口幅 －／燃焼室長 － 焚口高 －／煙道幅 ≒10cm 燃焼室幅 －／煙道長 ≒105cm 煙道形態 刳抜方式 傾斜≒15°+40° 使用材 粘土・甕・焼土ブリッジ	粘土貼付後空焚き・燃焼室前部壊されている。煙道部に焼土構造材。
H-6	10c後	I-3	－	3.5×(－)	N－98°－E	普・直	－	－	H-4・5を切る	東辺南寄	－	－	石・粘土・甕・焼土構造材	焚口幅 －／燃焼室長≒45cm 焚口高 －／煙道幅 ≒10cm 燃焼室幅 ≒30cm／煙道長 ≒50cm 煙道形態 ≒10°～20°変換点注意 使用材 粘土・石・甕・焼土ブリッジ	燃焼室前部壊されている・袖芋は生き。煙道入口施設（2石あり）煙道部に焼土構造材。
H-7	7c前	B-5 C-5	台形	3.2×3.0	N－92°－E	普・直	－	南東隅/カマド右/深	D-1に切られる	東辺南寄	－	－	粘土（灰白色）	焚口幅 －／燃焼室長 － 焚口高 －／煙道幅 － 燃焼室幅 －／煙道長(60cm) 煙道形態 刳抜方式 傾斜≒10°～30° 使用材 粘土	粘土貼付後空焚き・燃焼部及び煙道上部は壊されている。
H-8	7c末/8c初	B-7 B-8	－	6.0×(－)	N－104°－E	普・直	(2)	－	－	調査区外	－	－	－	焚口幅 －／燃焼室長 － 焚口高 －／煙道幅 － 燃焼室幅 －／煙道長 － 煙道形態 － 使用材 －	－
H-9	7c末	C-8 C-9	－	5.0×(4.5)	N－70°－E	深・直	(3)	－	－	調査区外	－	－	－	焚口幅 －／燃焼室長 － 焚口高 －／煙道幅 － 燃焼室幅 －／煙道長 － 煙道形態 － 使用材 －	－
H-10	7c中	H-6 I-6	正方形	4.5×4.5	N－117°－E	深・直	4	南東隅/カマド右/深	－	東辺南寄	－	－	甕（袖・焚口天井・煙道）	焚口幅 ≒35cm／燃焼室長≒65cm 焚口高 ≒25cm／煙道幅 ≒10cm 燃焼室幅≒45cm／煙道長 ≒35cm 煙道形態 刳抜方式 傾斜13°～40° 使用材 粘土・甕	粘土貼付け後空焚き・燃焼部内壊されている。煙道入口部に甕胴部設置（空間保持材）。
H-11	7c後/8c初	M-5	正方形	7.0×6.6	N－32°－W	深・有段	4	a貯穴：北東/aカマド右/深 b貯穴：北東隅/bカマド右/深 c貯穴：北東/cカマド右/深	－ － －	北辺 a中央 b東寄 c中央	－	－	北辺 a粘土灰白色 b粘土青灰色 c粘土灰黄褐色	焚口幅 －／燃焼室長 a≒50cm b・c－ 焚口高 －／煙道幅 a≒13cm b≒9cm c－ 燃焼室幅 a推定35cm b・c－／煙道長 a≒50cm b≒65cm c－ 煙道形態 刳抜方式・傾斜 a≒50° b≒55° c－ 使用材 粘土 a焼土ブリッジ b焼土ブリッジ	a～c粘土貼付後空焚き。a-袖基部残 b-煙道部のみ c-袖方のみ。
H-12	8c初	O-7	正方形	8.3×8.0	N－31°－W	深・有段	4	a貯穴：北東隅/aカマド右/深 b貯穴：南西隅/bカマド左/深	－ －	a北辺東寄 b西辺南寄	－	－	a粘土（灰白色） b粘土（灰褐色）	焚口幅 －／燃焼室長 － 焚口高 －／煙道幅 a≒7cm b≒7cm 燃焼室幅 －／煙道長 a≒80 b(40cm) 煙道形態 刳抜方式・傾斜 a≒45° b≒40° 使用材 a焼土ブリッジ	粘土貼付け後空焚 a-燃焼部本体は壊されている。両袖基部残存・煙道残存 b-燃焼部袖方痕跡と煙道部基部のみ残存。
H-13	7c前	C-6	正方形	3.4×3.0	N－12°－E	普・直	－	南東隅/カマド右/普	D-1に切られる	北辺東寄	－	－	粘土・石・甕	焚口幅 －／燃焼室長 － 焚口高 －／煙道幅≒8～10cm 燃焼室幅 －／煙道長(34cm) 煙道形態 刳抜方式・L字 傾斜≒10° 使用材 粘土・甕・石	東壁は素掘りで空焚き・袖・燃焼部は粘土貼付後空焚き。燃焼部は壊されている。煙道部残存・石積りに煙道設置。
H-14	7c後	V-2 V-3	長方形	6.2×4.7	N－11°－W	浅・直	(3)	北東隅/カマド右/深	北カマドか？	北辺中央	－	－	粘土	焚口幅 －／燃焼室長 － 焚口高 －／煙道幅 － 燃焼室幅 －／煙道長 － 煙道形態 － 使用材 粘土	焼土堆積の顕著なところを竈と認定した。
H-15	7c末/8c初	W-1 W-2	－	5.4×(－)	N－87°－E	深・直	(2)	－	－	調査区外	－	－	－	焚口幅 －／燃焼室長 － 焚口高 －／煙道幅 － 燃焼室幅 －／煙道長 － 煙道形態 － 使用材 －	－
H-16	不明	V-1 W-1	長方形	(2.3)×2.0	N－84°－E	－	－	－	床面のみ残存	調査区外	－	－	－	焚口幅 －／燃焼室長 － 焚口高 －／煙道幅 － 燃焼室幅 －／煙道長 － 煙道形態 － 使用材 －	－
H-17	9c	V-4	－	(3.6)×(2.9)	N－88°－E	普・直	－	－	2軒重複	調査区外	－	－	－	焚口幅 －／燃焼室長 － 焚口高 －／煙道幅 － 燃焼室幅 －／煙道長 － 煙道形態 － 使用材 －	－
H-18	9c	W-3 X-3	－	(1.9)×(1.6)	N－92°－E	深・直	－	－	－	調査区外	－	－	－	焚口幅 －／燃焼室長 － 焚口高 －／煙道幅 － 燃焼室幅 －／煙道長 － 煙道形態 － 使用材 －	－
H-19	7c後	W-2 W-3	－	(6.5)×(2.0)	－	深・直	(2)	－	東カマドか？H-14を切る	東辺南寄	－	－	－	焚口幅 －／燃焼室長 － 焚口高 －／煙道幅 － 燃焼室幅 －／煙道長 － 煙道形態 － 使用材 －	焼土堆積の顕著なところを竈と認定した。
H-20	不明	D-7 D-8	長方形	3.3×2.9	N－116°－E	浅・直	－	南東隅/カマド右/深	I-1に切られる	東辺南寄	－	－	－	焚口幅 －／燃焼室長 － 焚口高 －／煙道幅 － 燃焼室幅 －／煙道長 － 煙道形態 － 使用材 粘土	焼土堆積の顕著なところを竈と認定した。
H-21	不明	F-8 G-8	－	－	N－68°－E	深・直	－	－	－	調査区外	－	－	－	焚口幅 －／燃焼室長 － 焚口高 －／煙道幅 － 燃焼室幅 －／煙道長 － 煙道形態 － 使用材 －	－

Ⅴ　検出された遺構と遺物

今回の発掘調査において、北側・南側両調査区から確認された遺構は縄文、古墳後期～奈良・平安、中近世と多岐にわたるが、主体となるのは古墳時代後期～奈良時代にかけての竪穴建物跡と掘立柱建物跡、土坑である。詳細は遺構一覧表に譲り、ここでは遺構種別ごとにその概要を説明する。

①竪穴建物跡　23 軒確認され、床面のみ確認の 2 軒（H-16・20）、出土遺物僅少で時期判定不能 2 軒（H-18・19）、調査区外検出で未調査 2 軒（H-22・23）を除き、古墳時代後期（7 世紀初頭）～奈良時代（8 世紀後半）16 軒（H-1 ～ 5・7 ～ 15・20・21）、平安時代（9 世紀後半）1 軒（H-6）という内訳となる。平安時代については、遺物が少量だが中近世の溝跡や井戸跡に混入しており、調査区西方に遺構群の中心があるものと考えられる。

竪穴建物跡の特徴として、7 世紀後半の 4 軒（H-11・12・13・14）が北竈であるが、7 世紀前半と 8 世紀以降は東竈で、東方至近の荻窪倉兼Ⅲ遺跡でも同じ傾向であることを踏まえれば、上泉・荻窪遺跡群（仮称）特有の現象であると考えられる。竪穴部規模は大（8 m）・中（6 m前後）・小（4 m以下）あり、大・中サイズのものは竈と貯蔵穴の付け替え、柱穴の重複、壁周溝が壁から離れる等の特徴があり、改修を重ねながら複数時期に亘って使用されていた可能性が指摘できる。同様の傾向は荻窪倉兼Ⅲ遺跡の 8 世紀代の竪穴建物跡でも普遍的に確認されることから、この特徴についても上泉・荻窪遺跡群では普遍的な現象であると言えるだろう。個々の竪穴建物の使用方法に限らず、集落の性格を考える上でも重要な要素と言えるだろう。

②掘立柱建物跡　建物として認定できたものは全て北側調査区にあり、南端調査区外に続く。従って掘立柱建物跡の分布は、南北調査区間を含む調査区外と予想される。掘立柱建物跡は、竪穴建物跡と対になるような B-1・2 と、軸を合わせて並ぶ B-3 ～ 10 の大きく 2 タイプがある。前者は小規模な柱穴だが西側に庇ないしはそれに類する構造をもつ特徴を共有し、単純に軸方向から B-1 と H-10、B-2 と H-4 が対応するならば 7 世紀後半～末の時期が想定される。これに対し軸を揃えた B-3 ～ 10 は、B-4 が 7 世紀後半の H-11 埋没後に設営されている点、B-4 ～ 10 が互いに重複関係にあることから 7 世紀末以降と想定され、出土遺物を見る限り 8 世紀前半代に収まるだろう。なお、B-4 は 2 種の柱間で 2 × 4 間の側柱建物、B-7 は 2 × 2 間の総柱建物で、柱穴は大きく深い。なお、B-3・8 ～ 10 は調査区外にかかり、建物構造は不明であった。

③柵列跡　整理段階で 1 条を想定したもので、北側調査区南端の掘立柱建物跡群の北側に、同一方向で 6 基のピットが一列に並んでいる。遮蔽を意図したものと推定されるが、柱穴も小さく恒久的施設であったとは思い難い。

④土坑　5 基確認した。D-1 は大規模な逆円錐形で下位に段をもつ「円形有段遺構」で、出土遺物から 8 世紀前半には廃絶し、周堤状にあったと思われる掘削発生土によって中位まで雑に埋め戻された後、9 世紀前半まで窪地として口を開けていたようだが、底面からの出土遺物は無い。D-2 は縄文時代と推定される陥穴で、底面に 2 本、逆茂木の小穴がある。出土遺物は無い。D-3 は縄文時代の土坑と推定されるが出土遺物は無く、立木痕等の自然遺構である可能性も否定できない。D-4 は H-18 を切っており、平安時代の竪穴建物の一部である可能性がある。D-5 は北側調査区南端の掘立柱建物跡群中にあり、これらに伴う施設の可能性がある。

⑤溝跡　3 条を確認した。全てその覆土に As-B を含んでおり、中近世と判断される。浅く途切れてしまう様子から、畑地の区画溝と推定される。

⑥井戸跡　1 基確認した。H-20 を切っており、覆土に As-B を含むことから中近世と判断される。安全面から完掘できていないが、同時期と思われる溝跡と一連の施設と考えれば、農業用の浅井戸と推定される。

⑦ピット　調査区全域で確認し、附番したものだけで 236 基ある。覆土の特徴から大半は古代と推定され、一部は掘立柱建物跡を構成する柱穴も含まれているが、多くは単独のものである。竪穴建物跡のみで構成される通常の古代集落でこれ程の数のピットが確認されることは稀で、掘立柱建物跡の存在と連動していることは明らかだが、その性格については判然としない。先述のような柵列を構成するものや、掘立柱建物築造時の足場等に伴うものもあるだろう。あるいは植栽に関係するのかも知れない。（永井）

Tab.3　掘立柱建物跡一覧表

番号	時期	面積（㎡）	主軸	備考
B-1	7c代か	23.90	N-40°-E	側柱。西面柱筋2列建て替え？
B-2	7c～8c初か	14.30	N-13°-W	側柱。西側庇（半間）。
B-3	7c～8c初か	—	N-5°-W	
B-4	7c～8c初か	33.90	N-83°-E	側柱。H-11を切る。
B-7	7c～8c初か	8.40	N-4°-W	総柱

Tab.4　掘立柱建物跡ピット一覧表　単位（m）

遺構名	柱穴番号	位置（グリッド）	長軸	短軸	深さ	平面形状	出土遺物	備考
B-1	P 1	F-6	0.45	0.40	0.26	円形		
	P 2	E-6・F-6	0.50	0.25	0.28	不整方形		
	P 3	E-6	0.45	0.27	0.09	不整形		
	P 4	E-7	0.73	0.27	0.27	不整形	土師器：甕破片	
	P 5	E-7	0.37	0.31	0.08	方形		
	P 6	E-8	0.30	0.28	0.11	方形		
	P 7	F-7	0.54	0.25	0.28	不整形		
	P 8	F-7	0.30	0.18	0.11	楕円形		
	P 9	F-7・G-7	0.72	0.35	0.28	不整楕円形		
	P10	F-6	0.40	0.22	0.08	不整形		
	P11	F-6	0.68	0.33	0.13	不整形		
	P12	F-6	0.55	0.32	0.18	不整形		
	P13	F-6	0.38	0.35	0.16	円形		
	P14	E-7	0.36	0.27	0.10	楕円形		
B-2	P 1	H-4	0.50	0.32	0.22	楕円形		
	P 2	G-4	0.50	0.47	0.17	円形		
	P 3	G-4	0.68	0.40	0.19	方形		B-2P4と重複
	P 4	G-4	0.45	0.35	0.21	不整形	土師器：坏破片（Fig.35の87）	B-2P3・B-2P14と重複
	P 5	G-5	0.35	0.34	0.38	円形	土師器：坏破片	
	P 6	G-5	0.45	0.42	0.28	不円形		
	P 7	G-5	0.35	0.35	0.15	方形		
	P 8	G-5	0.40	0.40	0.08	円形		
	P 9	G-5・H-5	0.42	0.30	0.12	楕円形		
	P10	H-5	0.50	0.43	0.14	方形		
	P11	H-5	0.50	0.47	0.38	方形	土師器：甕破片	
	P12	H-4・H-5	0.60	0.52	0.24	方形	土師器：坏破片（Fig.35の88）	
	P13	G-4	0.49	0.44	0.17	不円形		
	P-14	G-4	0.44	0.35	0.30	不方形	土師器：甕破片	B-2P4と重複
	P15（P-79）	H-4	0.52	0.40	0.29	不長方形		
	P16（P-66）	G-4	1.12	0.47	0.44	不整形		
B-3	P 1	L-7	0.35	0.35	0.20	円形		
	P 2	L-7	0.52	0.30	0.42	楕円形		
	P 3	L-6・L-7	0.50	0.45	0.59	不円形		
	P 4	L-6・L-7	1.00	0.30	0.53	不整形		
	P 5	M-7	0.48	0.45	0.22	円形		
	P 6	M-7	0.56	0.32	0.37	楕円形		
	P 7	M-7	0.45	0.44	0.28	円形		
B-4	P 1	L-4	0.80	0.55	0.42	不整形	土師器：坏破片（Fig.35の89）・貝巣穴痕泥岩	
	P 2	L-4・L-5	0.58	0.52	0.37	円形	土師器：甕破片・坏破片（Fig.35の90）	
	P 3	L-5	0.55	0.53	0.40	方形		P-160・P-163と重複
	P 4	L-5	0.84	0.65	0.48	楕円形		P-164と重複
	P 5	L-6	0.55	0.50	0.40	円形	土師器：甕破片	
	P 6	L-6	0.65	0.35	0.32	不整形		
	P 7	M-6	0.56	0.30	0.27	方形		
	P 8	M-4	0.80	0.60	0.42	不整長方形	土師器：甕破片・坏破片	
	P 9	M-4	0.51	0.50	プラン検出のみ	方形	P 9付近　土師器：甕破片	
	P10(H-11P11)	M-5	0.30	0.27	0.03	円形		H-11P11と重複。深さはH-11の床面から計測
B-5	P 1	L-2	0.54	0.50	0.61	円形か	土師器：坏破片（Fig.35の91、92）	B-8P2・B-9P2と重複
	P 2	L-3	0.80	0.52	0.39	不整楕円形		B-6P2・P-122と重複、旧P-123
	P 3	L-3	0.59	0.48	0.71	不整楕円形	須恵器：甕破片・土師器：坏破片	B-6P2と重複
	P 4	L-3	0.72	0.54	0.66	不整楕円形		
	P 5	L-4	（0.84）	0.54	0.15	不整形		B-5P6・B-7P1と重複、旧P-143
	P 6	L-3・L-4	0.80	0.75	0.67	不整形		B-5P5・B-7P4・P-140と重複、旧P-142
	P 7	L-3・M-3	不明	〈0.81〉	プラン検出のみ	不明		B-5P8・B-6P3・B-7P6と重複、旧P-141
	P 8	L-3・M-3	不明	不明	プラン検出のみ	不明		B-5P7と重複
	P 9	L-3・M-3	0.77	（0.30）	プラン検出のみ	不明		B-7P6と重複
B-6	P 1	L-2	〈0.60〉	0.46	0.56	不整形		B-9P2と重複
	P 2	L-3	〈0.92〉	〈0.53〉	0.61	不整楕円形	須恵器：甕破片・土師器：坏破片	B-5P2（旧P-123）・B-5P3と重複
	P 3	L-3	0.69	0.64	0.63	不円形	土師器：坏破片・甕破片	B-5P7（旧P-141）・B-7P6・P-139と重複
	P 4	M-3	0.54	0.47	プラン検出のみ	円形		
B-7	P 1	L-4	0.70	〈0.52〉	0.78	楕円形	土師器：甕破片	B-5P5（旧P-143）・P-144と重複
	P 2	M-4	0.65	0.54	プラン検出のみ	不正方形		
	P 3	M-4	〈0.75〉	0.28	プラン検出のみ	不整形		
	P 4	L-3	〈0.60〉	0.59	0.76	不整形	土師器：坏破片（Fig.35の93）	B-5P6（旧P-142）・P-140と重複
	P 5	M-3	0.53	0.47	プラン検出のみ	円形		
	P 6	L-3・M-3	0.92	0.70	プラン検出のみ	方形		B-5P7（旧P-141）・B-5P9・B-6P3と重複
	P 7	M-3	0.60	0.50	プラン検出のみ	不整形		
	P 8	M-3	0.57	0.50	プラン検出のみ	不円形		
B-8	P 1	L-2	0.39	0.34	0.31	不整形		P-118と重複
	P 2	L-2	不明	0.58	0.51	不整形		B-5P1・B-9P3と重複
	P 3	L-2・3・M-2・3	1.13	0.65	プラン検出のみ	不整楕円形		B-9P4と重複
B-9	P 1	L-2	0.37	0.29	0.31	不整形		
	P 2	L-2	不明	0.51	0.33	円形か		B-5P1・B-6P1と重複
	P 3	L-2	不明	0.21	プラン検出のみ	不明		B-8P2と重複
	P 4	M-2	0.90	0.90	プラン検出のみ	不円形		B-8P3・B-10P2と重複
B-10	P 1	L-2	0.85	〈0.70〉	プラン検出のみ	楕円形		
	P 2	M-2	〈0.70〉	0.60	プラン検出のみ	楕円形		B-9P4と重複

〈 〉は推定値（ ）は残存値を表す。

Tab.5　柵列ピット一覧表　単位（m）

柱穴番号	位置（グリッド）	時期	長軸	短軸	深さ	平面形状	出土遺物	備考
P-118	L-2	―	0.77	0.47	0.28	不整形	―	整理段階で認定
P-124	L-3	古代	0.50	0.50	0.36	方形	須恵器：甕破片	整理段階で認定
P-129	L-3	―	0.40	0.35	0.33	楕円形	―	整理段階で認定
P-131	L-3	―	0.50	0.38	0.29	楕円形	―	整理段階で認定
P-138	L-4	―	0.35	0.24	0.27	不整楕円形	―	整理段階で認定
P-151	K-4・L-4	―	0.34	0.30	0.13	楕円形	―	整理段階で認定

Tab.6　土坑一覧表　単位（m）

番号	位置（グリッド）	時期	長軸	短軸	深さ	平面形状	出土遺物	備考
D-1	C-5・C-6	古代	3.45	3.28	2.75	円形	須恵器：甕（Fig.36の97）・長頸壺（Fig.37の101～104）・短頸壺破片（Fig.36の99・Fig.37の100）・椀（Fig.37の111・112）・坏（Fig.37の106～110）・蓋破片（Fig.37の105） 土師器：鉢（Fig.36の95）・壺（Fig.36の96）・坏破片（Fig.36の94） 縄文土器：浅鉢破片 被熱石・凝灰岩質泥岩・砥石・獣骨・小礫	H-7・H-13を切る
D-2	F-5・F-6	縄文	2.06	1.20	1.13	長方形	―	P2カ所、深さ（0.43、0.33）陥穴
D-3	I-5	縄文	1.24	1.08	0.27	円形	―	自然遺構か。
D-4	X-3・X-4	古代	2.35	0.34	0.14	不整形	―	大半調査区外、２基重複、H-18を切る。
D-5	M-4	古代	1.02	0.85	0.27	不整形	土師器：甕破片	Pと重複、深さ（0.24）

Tab.7　溝跡一覧表　単位（m）

番号	位置（グリッド）	時期	主軸方向	規模	出土遺物	備考
W-1	K-4・K-5	中近世	N-98°-E	長さ：19.20 m途中消失 上幅：0.66 m 下幅：0.37 m 深さ：0.12 m	―	H-20と重複、B混土。
W-2	D-6・E-6・J-6	中近世	N-2°-E	長さ：14.20 m 上幅：0.82 m 下幅：0.55 m 深さ：0.07 m	―	途中消滅、北端で東へ緩やかに曲がる。 H-10、H-13と重複。
W-3	N-5・O-5	中世	N-5°-E	長さ：4.60 m 上幅：0.83 m 下幅：0.57 m 深さ：0.10 m	須恵器：甕破片 土師器：甕破片、坏破片	H-11を切る。

Tab.8　井戸跡一覧表　単位（m）

番号	位置（グリッド）	時期	長軸	短軸	深さ	平面形状	出土遺物	備考
I-1	D-7	中近世	1.20	1.07	0.76	円形	須恵器：甕破片・坏破片 土師器：甕破片・坏破片・縄文土器片？	H-20を切る。

Tab.9　ピット一覧表（1）　単位（m）

番号	位置（グリッド）	時期	長軸	短軸	深さ	平面形状	出土遺物	備考
P-1	A-5	―	0.30	(0.27)	0.12	不円形	―	
P-2	B-5	―	0.20	0.20	0.10	円形	―	
P-3	B-5	―	0.50	0.35	0.13	不整楕円形	―	P-4と重複
P-4	B-5	―	0.43	0.38	0.22	円形	―	P-3と重複
P-5	A-5・B-5	―	0.41	0.35	0.18	円形	―	P-6と重複
P-6	A-5	―	0.59	0.37	0.21	不整楕円形	―	P-5と重複
P-7	A-5	―	0.32	(0.29)	0.15	円形	―	
P-8	A-4	―	0.42	0.35	0.11	円形	―	
P-9	A-5	―	0.35	0.34	0.16	円形	―	
P-10	A-4・B-4	―	0.47	0.40	0.12	円形	―	
P-11	B-4	―	0.37	0.35	0.09	方形	―	
P-12	B-5	―	0.48	0.48	0.19	不整方形	―	P-13と重複
P-13	B-5	―	0.50	0.48	0.18	方形	―	P-12と重複
P-14	B-4・B-5	―	0.32	0.28	0.15	円形	―	
P-15	B-4	―	0.31	0.25	0.35	不整方形	―	P-16と重複
P-16	B-4	―	0.30	0.30	0.15	不整方形	―	P-15と重複
P-17	B-4・B-5	―	0.29	0.25	0.22	円形	―	
P-18	B-4	古代	0.28	0.27	0.22	方形	土師器：甕破片・坏破片・小礫	
P-19	B-4	―	0.54	0.53	0.22	楕円形	土師器：甕破片	
P-20	C-5	―	0.24	0.20	0.28	不整方形	―	
P-21	C-4	―	0.24	0.21	0.19	円形	―	
P-22	C-4	―	0.29	0.28	0.55	不整円形	―	
P-23	C-4	―	0.49	0.40	0.07	不整楕円形	―	
P-24	D-4	―	0.27	0.24	0.14	円形	―	
P-25	D-4	―	0.34	0.22	0.20	楕円形	―	
P-26	D-4・D-5	古代	0.45	0.42	0.49	不整楕円形	土師器：甕破片・坏破片（Fig.38の113）	P-27と重複
P-27	D-5	―	(0.35)	0.36	0.37	不整楕円形	―	P-26と重複
P-28	D-4	―	0.42	0.34	0.18	不整楕円形	―	
P-29	D-5	―	0.35	0.27	0.17	不整円形	―	
P-30	D-5	―	0.52	0.30	0.43	楕円形	―	
P-31	C-5・D-5	―	0.23	0.23	0.02	円形	―	
P-32	D-5	―	0.28	0.27	0.27	不円形	―	
P-33	D-5	―	0.28	0.27	0.22	不円形	―	
P-34	D-5	―	0.44	0.35	0.15	楕円形	―	
P-35	D-5・D-6	―	0.37	0.37	0.32	方形	―	
P-36	D-6	―	0.19	0.18	0.02	円形	―	
P-37	E-5	―	0.23	0.20	0.20	円形	―	
P-38	E-5	―	0.32	0.26	0.14	不整方形	―	
P-39	E-5	―	0.17	0.14	0.06	円形	―	
P-40	E-5	―	0.23	0.22	0.24	円形	―	
P-41	E-5	―	0.34	0.29	0.20	楕円形	―	
P-42	E-5	―	0.28	0.26	0.14	円形	―	
P-43	D-7	―	0.32	0.30	0.09	円形	―	H-20と重複
P-44	D-8	―	0.44	0.36	0.15	楕円形	―	
P-45	E-8	―	0.40	0.38	0.49	方形	―	
P-46	E-8・F-8	古代	0.47	0.37	0.42	楕円形	土師器：甕破片・坏破片（Fig.38の114）	
P-47	F-8	―	0.34	0.27	0.54	不整円形	須恵器：甕破片（Fig.38の115）・土師器：甕破片	H-21と重複
P-48	F-8	―	0.28	0.27	0.52	円形	―	H-21と重複
P-49	F-8・G-8	―	0.33	0.33	0.55	円形	―	H-21と重複
P-50	G-6	―	0.26	0.25	0.21	不整円形	―	
P-51	E-4	―	0.47	0.34	0.40	不整方形	―	P-52と重複
P-52	E-4	―	0.72	0.57	0.18	円形	―	P-51と重複
P-53	F-4	古代	0.37	(0.31)	0.34	円形	須恵器：甕破片・坏破片	P-54と重複
P-54	F-4	―	0.40	0.30	0.38	不整楕円形	―	P-53・P-56と重複
P-55	F-4	―	(0.50)	0.45	0.12	不円形	―	P-54と重複
P-56	F-4・F-5	―	0.37	0.30	0.12	不整楕円形	―	
P-57	F-5	―	0.21	0.13	0.10	楕円形	―	
P-58	F-4	―	0.33	0.27	0.09	方形	―	
P-59	F-4	―	0.38	0.33	0.11	円形	―	
P-60	F-3・F-4	―	0.33	0.30	0.10	円形	―	
P-61	F-3	―	0.35	(0.32)	0.09	不整円形	―	
P-62	G-3	―	0.33	0.30	0.42	方形	―	
P-63	G-3	―	0.36	0.30	0.07	楕円形	―	
P-64	G-3・G-4	―	0.25	0.21	0.11	楕円形	―	
P-65	G-4	―	0.26	0.25	0.30	円形	―	
P-66	G-4	―	1.12	0.47	0.44	不整形	―	
P-67	G-4	―	0.29	0.22	0.09	円形	―	
P-68	G-4	―	0.41	0.40	0.29	円形	―	
P-69	G-3	―	0.45	0.32	0.23	楕円形	―	
P-70	G-3・G-4	―	0.40	0.36	0.16	方形	―	
P-71	G-3	―	0.30	0.24	0.19	方形	―	
P-72	G-4	―	0.34	0.26	0.15	不整楕円形	―	
P-73	G-4	―	0.25	0.22	0.18	円形	―	
P-74	G-4	―	0.22	0.21	0.11	円形	―	
P-75	H-4	―	0.35	0.27	0.20	楕円形	―	
P-76	H-4	―	0.22	0.18	0.10	楕円形	―	
P-77	H-4	―	0.23	0.18	0.40	楕円形	―	
P-78	H-4	―	0.31	0.26	0.15	楕円形	―	
P-79	H-4	―	0.52	0.40	0.29	不整長方形	―	
P-80	H-4	―	0.28	0.22	0.24	楕円形	―	
P-81	I-4	―	0.32	0.32	0.11	方形		

〈 〉は推定値（ ）は残存値を表す。

Tab.10　ピット一覧表（2）　単位（m）

番号	位置（グリッド）	時期	長軸	短軸	深さ	平面形状	出土遺物	備考
P-82	I-4	–	0.40	0.31	0.14	不整円形	–	
P-83	J-5	–	0.26	0.20	0.35	楕円形	–	
P-84	I-6	–	0.26	0.24	0.20	不整方形	–	
P-85	I-6	–	0.43	0.40	0.11	円形	–	
P-86	I-6	–	0.30	0.26	0.19	不整方形	–	
P-87	I-7	–	0.40	0.32	0.11	楕円形	–	
P-88	I-7	–	0.45	0.30	0.16	楕円形	–	
P-89	I-7・J-7	–	0.37	0.35	0.41	円形	–	
P-90	I-7・J-7	–	0.62	0.45	0.20	不整楕円形	–	
P-91	J-6	–	0.27	0.25	0.25	円形	–	
P-92	J-6	–	0.48	0.36	0.28	不整円形	–	
P-93	J-6	–	0.42	0.37	0.24	不整円形	–	
P-94	J-7	–	0.32	0.28	0.32	不整円形	–	
P-95	J-7	–	0.28	0.28	0.44	円形	–	
P-96	J-6	–	0.34	0.26	0.25	不整楕円形	–	
P-97	J-7	–	0.27	0.26	0.51	不整方形	–	
P-98	J-7	–	0.28	0.23	0.33	楕円形	–	
P-99	J-6・K-6	–	0.32	0.27	0.27	不整楕円形	–	
P-100	K-6	–	0.40	0.27	0.35	不整楕円形	–	
P-101	K-6	–	0.25	0.20	0.16	不整楕円形	–	P-102 と重複
P-102	K-6	–	0.36	0.32	0.14	不整方形	–	P-101 と重複
P-103	K-6	–	0.47	0.41	0.31	楕円形	–	
P-104	K-6	–	0.42	0.33	0.58	楕円形	–	
P-105	K-6	–	0.28	0.25	0.18	円形	–	
P-106	K-5	–	0.35	0.26	0.35	不整楕円形	–	
P-107	K-5	–	0.32	0.28	0.08	不整円形	–	
P-108	K-5	–	0.34	0.27	0.15	不整楕円形	–	P-109 と重複
P-109	K-5	–	0.27	0.20	0.11	楕円形	–	P-108 と重複
P-110	K-5	–	0.27	0.25	0.30	不整方形	–	
P-111	K-3	–	0.30	0.18	0.07	楕円形	–	
P-112	K-3	–	0.48	0.31	0.14	不整楕円形	–	
P-113	K-3	–	0.28	0.18	0.18	楕円形	–	P-114 と重複
P-114	K-3	–	0.35	0.30	0.06	不整楕円形	–	P-113 と重複
P-115	J-3	–	0.26	0.19	0.09	楕円形	–	W-1 と重複
P-116	K-3	–	0.30	0.24	0.20	楕円形	–	
P-117	K-2	–	0.37	0.37	0.30	方形	–	
P-118	L-2	–	0.23	0.17	0.27	不整形	–	V-1 柱穴、S-8P1 と重複
P-119	L-2	古代	0.48	(0.39)	0.27	不整円形	土師器：須恵片	
P-120	L-3	–	0.25	0.20	0.11	楕円形	–	
P-121	L-3	–	0.25	0.23	0.11	円形	–	
P-122	L-3	古代	0.76	0.46	0.44	不整形	須恵器：須恵片（Fig.38 の 116） 土師器：須恵片	
P-123	欠番	S-5P2 柱穴に変更						
P-124	L-3	古代	0.50	0.50	0.36	方形	須恵器：須恵片	V-1 柱穴
P-125	K-3・L-3	–	0.48	0.40	0.36	不整方形	土師器：須恵片・坏破片	
P-126	K-3	–	0.22	0.18	0.17	円形	–	
P-127	K-3	–	0.27	0.24	0.27	円形	–	
P-128	K-3・L-3	–	0.63	0.35	0.27	不整楕円形	–	
P-129	L-3	–	0.40	0.35	0.33	楕円形	–	V-1 柱穴
P-130	L-3	–	0.60	0.50	0.39	不整楕円形	–	
P-131	L-3	–	0.50	0.38	0.29	楕円形	–	V-1 柱穴
P-132	K-3	–	0.50	0.28	0.38	楕円形	–	
P-133	K-3	–	0.28	0.18	0.18	楕円形	–	
P-134	K-3	–	0.75	0.60	0.36	不整方形	–	
P-135	K-4	–	0.37	0.22	0.20	不整楕円形	–	
P-136	K-4	–	0.40	0.30	0.26	不整楕円形	–	
P-137	L-4	–	0.36	0.28	0.28	楕円形	–	
P-138	L-4	–	0.35	0.24	0.27	不整楕円形	–	V-1 柱穴
P-139	L-3	–	不明	0.55	0.75	不整形	–	S-5P7・P-140 と重複
P-140	L-3	–	不明	0.66	0.46	不整形	–	S-5P6・S-7P4・P-139 と重複
P-141	欠番	S-5P7 柱穴に変更						
P-142	欠番	S-5P6 柱穴に変更						
P-143	欠番	S-5P5 柱穴に変更						
P-144	L-4	–	0.75	0.53	0.39	不整円形	–	S-7P1 と重複
P-145	L-4	–	0.50	0.45	0.41	円形	–	
P-146	L-4	–	0.45	0.30	0.21	不整方形	–	
P-147	L-4	–	0.38	0.30	0.39	不整楕円形	–	
P-148	L-4	–	0.53	0.37	0.23	不整楕円形	–	
P-149	L-4	–	0.32	0.26	0.26	楕円形	–	
P-150	L-4	–	0.22	0.22	0.19	円形	–	
P-151	K-4・L-4	–	0.34	0.30	0.13	楕円形	–	V-1 柱穴
P-152	K-4	–	(0.40)	0.30	0.08	楕円形	–	P-153 と重複
P-153	K-4	–	0.20	0.18	0.21	円形	–	P-152 と重複
P-154	K-4	–	0.32	0.25	0.35	円形	–	
P-155	K-4	–	0.35	0.30	0.22	楕円形	–	
P-156	K-4	–	0.25	0.22	0.16	円形	–	
P-157	L-4・L-5	–	0.65	0.50	0.37	不整方形	–	
P-158	L-4・L-5	–	0.36	0.30	0.28	楕円形	–	
P-159	L-5	–	0.30	0.27	0.26	円形	–	
P-160	L-5	–	0.20	0.20	0.20	方形	–	S-4P3 と重複
P-161	L-5	–	0.45	0.45	0.48	円形	–	
P-162						欠番		

番号	位置（グリッド）	時期	長軸	短軸	深さ	平面形状	出土遺物	備考
P-163	L-5	–	0.85	0.37	0.39	不整形	–	
P-164	L-5	–	0.35	0.23	0.28	楕円形	–	S-4P4 と重複
P-165	L-5	–	0.51	0.40	0.30	不整形	–	
P-166	L-5	–	0.32	0.30	0.26	方形	–	
P-167	L-6	–	0.35	0.32	0.45	円形	–	
P-168	L-6	古代	(0.60)	0.40	0.17	方形	土師器：須恵片	H-11 と重複
P-169	K-5・K-6	–	0.55	0.45	0.14	不整楕円形	–	
P-170	L-6	–	0.28	0.23	0.37	楕円形	–	
P-171	L-6	–	0.29	0.27	0.10	円形	–	
P-172	L-6	–	0.54	0.24	0.10	不整楕円形	–	
P-173	M-6	–	0.33	0.23	0.28	楕円形	–	
P-174	M-6	–	0.25	0.23	0.27	不整方形	–	P-175 と重複
P-175	M-6	–	0.91	0.54	0.09	不整形	–	P-174 と重複
P-176	M-6	–	0.24	0.22	0.09	円形	–	
P-177	M-6	–	0.33	0.28	0.15	円形	–	
P-178	M-6	古代	0.86	0.58	0.16	不整形	須恵器：鉢・坏破片、土師器：坏破片	
P-179	M-6	古代	0.54	0.38	0.25	不整楕円形	土師器：須恵片・坏破片	H-11 重複
P-180	L-6	–	0.26	0.25	0.47	不整方形	–	
P-181	K-6	–	0.32	0.28	0.17	楕円形	–	
P-182	K-7	–	0.29	0.22	0.17	楕円形	–	
P-183	L-7	–	0.29	0.27	0.07	円形	–	
P-184	K-7・L-7	–	0.38	0.32	0.40	不整形	–	
P-185	K-7・L-7	–	0.18	0.15	0.18	楕円形	–	P-186 と重複
P-186	L-7	–	0.30	0.22	0.18	不整楕円形	–	P-185 と重複
P-187	K-7・L-7	–	0.23	0.17	0.06	楕円形	–	
P-188	L-7	–	0.34	0.34	0.15	円形	–	
P-189	N-7	–	0.37	0.37	0.37	方形	–	H-12 と重複
P-190	N-7・N-8	–	0.53	0.40	0.49	不整楕円形	–	
P-191	N-8	–	0.58	(0.20)	0.22	楕円形	–	
P-192	N-7・N-8	–	0.68	0.52	0.62	不整形	–	H-12 と重複
P-193	O-8	–	0.53	0.40	0.39	不整形	–	H-12 と重複
P-194	M-4	–	0.47	0.32	0.63	不整形	–	H-11 と重複
P-195	V-2	–	0.53	0.33	0.35	不整楕円形	–	P-196 と重複
P-196	U-2	–	0.62	0.60	0.51	円形	–	P-195 と重複
P-197	U-2	–	0.46	0.42	0.72	方形	–	
P-198	U-2	古代	0.43	0.42	0.32	方形	土師器：須恵片	
P-199	U-2	古代	0.42	0.42	0.50	楕円形	土師器：須恵片・坏破片	P-200 と重複
P-200	U-2	–	0.58	0.42	0.59	楕円形	–	P-199 と重複
P-201	U-2	–	0.40	0.37	0.55	方形	–	
P-202	U-2	–	0.30	0.26	プラン確認のみ	楕円形	–	
P-203	U-2	古代	0.63	0.53	0.48	方形	土師器：須恵片	
P-204	U-3	–	0.71	0.52	プラン確認のみ	不整形	–	P-205 と重複
P-205	V-3	古代	0.47	0.38	0.39	不整楕円形	須恵器：坏破片 土師器：坏破片	P-204 と重複
P-206	V-3	古代	1.35	0.43	0.82	不整形	土師器：須恵片・坏破片（Fig.38 の 117、118）・小礫	
P-207	V-3	古代	0.64	0.47	0.21	楕円形	土師器：須恵片・坏破片・小礫	
P-208	V-4	–	0.50	0.38	プラン確認のみ	不整形	–	
P-209	V-4	–	0.42	0.35	プラン確認のみ	楕円形	–	
P-210	V-4	–	0.35	0.32	0.45	円形	–	
P-211	W-3	–	0.65	0.38	0.47	不整楕円形	–	
P-212	W-3	古代	0.50	0.42	0.33	円形	土師器：須恵片	
P-213	W-3	–	0.47	0.43	0.48	円形	–	
P-214	W-4	–	0.62	0.28	0.49	楕円形	–	P-215 と重複
P-215	W-5	古代	0.51	0.37	0.19	楕円形	土師器：須恵片・坏破片	P-214 と重複
P-216	W-5	–	0.51	0.45	0.80	円形	–	
P-217	W-5	–	0.80	0.67	0.69	不整方形	–	
P-218	W-5	古代	1.18	0.97	0.57	不整形	須恵器：鉢破片 土師器：坏破片（Fig.38 の 119）	
P-219	W-3	古代	1.20	0.62	0.59	不整方形	土師器：坏破片（Fig.38 の 120）	
P-220						欠番		
P-221						欠番		
P-222						欠番		
P-223						欠番		
P-224						欠番		
P-225						欠番		
P-226						欠番		
P-227						欠番		
P-228						欠番		
P-229						欠番		
P-230	W-2	–	1.00	0.70	0.80	不整形	石：Fig.38 の 121	H-19 の柱穴
P-231	W-2	–	0.78	0.30	0.83	楕円形	–	2 基重複
P-232	W-2	古代	0.55	0.40	0.35	楕円形	–	H-14 の柱穴
P-233	W-2	–	0.50	0.47	0.41	円形	–	H-14 の柱穴
P-234	W-2	–	0.38	0.35	0.24	方形	–	
P-235	G-5	–	0.34	0.33	0.73	不整形	–	
P-236	G-5	–	0.40	0.27	0.03	楕円形	–	

（　）は推定値（　）は残存値を表す。

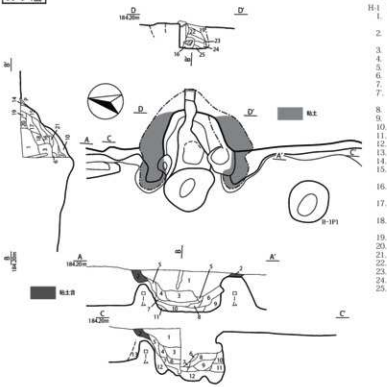
A
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
X=46820
X=46800
X=-63160
X=-63140
0
1:250
5m

Fig. 5　北調査区

Fig. 6　南調査区

Fig. 7　1・2・3号竪穴建物跡

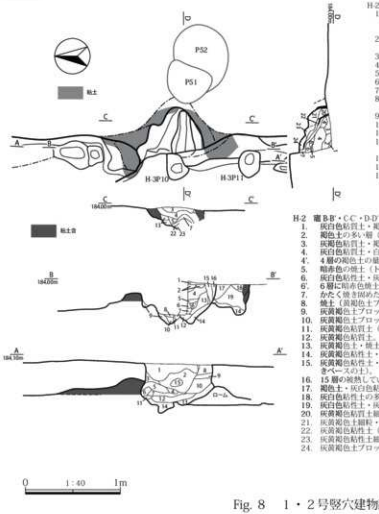
H-1 竈



H-1 竈

1. 灰黄褐色土・暗褐色土・灰白色粘質土の混合土。バミスを含む（細粒の均質な土）。燃焼室後～煙道上部の裾覆土。
2. 灰白色粘質土・暗褐色粘質土・黒色粘質土（カマド構築材の主材、ブロック状）。
3. 灰褐色土・灰白色粘質土小ブロック・焼土ブロック（均質で細粒）。
4. 灰黄褐色土（焼土混じり）。柔らかく均質な土。
5. 灰黄褐色土・焼土ブロック・暗褐色土。柔らかく均質な土。
6. 灰黄褐色土・焼土ブロック・暗褐色土（暗褐色土が多い）。
7. 灰黄褐色土。やや粘性あり。煙道土台の土か。
7. 灰黄褐色土。やや粘性あり。煙道土台の土か。黄褐色土ロームブロックがえる→空焚き後の補填土台。
8. 灰黄褐色粘質土・暗褐色土ブロック、焼土ブロックを含む（充填土）。
9. 焼土ブロックの多い灰黄褐色土。
10. 暗褐色土・ロームブロックの混合土。内側に焼土面（擬方→充填土）。
11. 暗褐色土・ロームブロックの混合土。内側に焼土面（擬方→充填土）。
12. 暗褐色土・黄褐色土ブロック。
13. 黄褐色土（ローム）・黒色土がのる。袖芯の上面の土。表面が赤化。
14. 焼土化した灰褐色粘質土（空焚き時煙道用1外側ラインと合致）。
15. 灰褐色土・焼土粒・暗褐色土。土体は細粒の柔らかい土（煙道空間の流入土。一部天井や側面の土も崩落している）。
16. 焼土化した暗褐色粘質土・灰褐色粘質土（H-2などと同様のトンネル状施設と考える）。
17. 灰黄褐色粘質土・褐色土・焼土ブロック、かたくしまる土（煙道天井をカバーする土→充填土と考える）。
18. 暗黒色粘質土・灰褐色粘質土・灰黄褐色粘質土（プリッジ状の構造物をカバーする土）。粘性あり、かたい。
19. 焼土化した灰褐色粘質土。空焚き時の天井部（残している）。
20. 灰黄褐色粘質土・焼土粒、かたくしまる土（使用時天井材か）。
21. 灰黄褐色粘質土・褐色土・焼土ブロック（煙道天井及び側面の崩落土）。
22. 灰黄褐色土・褐色土。やや柔らかい土（充填土）。
23. 灰黄褐色粘質土・暗褐色土の混合土。しまった土（充填土）。
24. 灰黄褐色粘質土・暗褐色土の柔らかい土（充填土）。
25. 灰黄褐色土。焼土粒を含む（充填土）。

H-2 竈



H-2 竈 A-A'

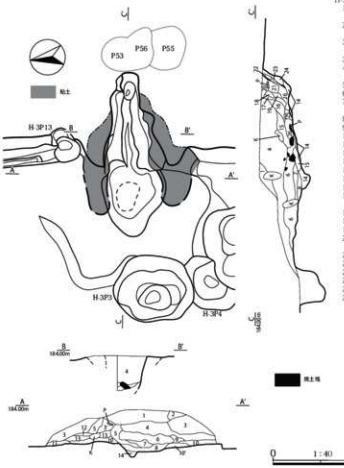
1. 灰白色粘性土・灰黄褐色土・バミス・焼土粒の混合土（カマド構築材のうちの充填土→赤化（被熱ラインの内側に特別な土が入っている））。
2. 灰白色粘性土・焼土粒・白色粘性土・褐色土（煙道空間の周りを構成する土）。
3. 灰白色粘性土主体の灰褐色土。
4. 2層の褐色土が混合する層（煙道空間の土台を構成する土）。
5. 灰白色粘性土・焼土・灰黄褐色土（煙道空間の土台を構成する土）。
6. 黄褐色土ブロック・褐色土（煙道空間の土台を構成する土）。
7. 灰褐色土・褐色土・焼土粒の混合土（煙道空間の土台を構成する土）。
8. 灰黄褐色土・灰白色土・褐色土の混合土・バミス（擬方とその充填土、内側に空焚きライン）。
9. 暗褐色土・バミス・（擬方とその充填土、内側に空焚きライン）。
10. 灰黄褐色土・灰白色土・褐色土の混合土。焼土粒を含む。
11. 灰白色粘性土・暗褐色土。
12. 焼土ブロックを多量に含む褐色土・焼土粒の混合で赤褐色を呈する。上面がバリバリ（空焚きの後たたいた土か）。
13. 黄褐色土ブロック・褐色土。カマド擬方の土。
14. 黄褐色土ブロック・褐色土。柔らかい土。カマド擬方の土。
15. 灰白色土・灰黄褐色土・焼土粒・灰を含む炭化物。

H-2 竈 B-B'・C-C'・D-D'

1. 灰白色粘質土・褐色土ブロック（カマド裾覆の土）。
2. 褐色土の多い層（カマド裾覆の層）。
3. 灰褐色粘質土・褐色粘質土。
4. 灰白色粘質土・白色粘性土・褐色土・焼土粒。
4'. 4層の褐色土の量が多い。
5. 暗赤色の焼土（トンネル状の構造物天井材）。
6. 灰白色粘性土・灰黄褐色粘性土。
6'. 6層に暗赤色焼土ブロックがえる。
7. かたく焼き固めた焼土（灰白色粘性土・黒褐色粘性土の混合土の焼土化したもの）。
8. 焼土（黄褐色土ブロック主体の土が赤化したもの）。
9. 灰黄褐色土ブロック・灰黄褐色土ブロック・褐色土の混合土（擬方の整地面）。
10. 灰黄褐色土ブロック・灰黄褐色土ブロック（煙道を作る為の擬方か）。
11. 灰黄褐色粘質土（煙道構造物の下部）。
12. 灰黄褐色粘質土。
13. 灰黄褐色土・焼土粒・褐色土の混合土→空焚き後の充填土。
14. 灰黄褐色粘性土・黄褐色粘性土・褐色土（擬方後の充填土）。
15. 灰黄褐色粘性土・灰白色粘性土・褐色土が被熱して焼土化した層（擬方後の充填土、空焚きベースの土）。
16. 15層の被熱していない層。
17. 褐色土・灰白色粘性土・黄褐色粘性土の混合土。
18. 灰白色粘性土の多い層。
19. 灰白色粘性土・灰褐色粘性土・黄褐色土ブロック（袖材の主体土）。
20. 灰黄褐色粘質土細粒。
21. 灰黄褐色土細粒・暗褐色土。柔らかい土。
22. 灰黄褐色粘性土（煙道周りの土）。
23. 灰黄褐色粘性土細粒（煙道周りの土）。
24. 灰黄褐色土ブロック（煙道側壁の土）。

Fig. 8　1・2号竪穴建物跡竈

H-3 竪

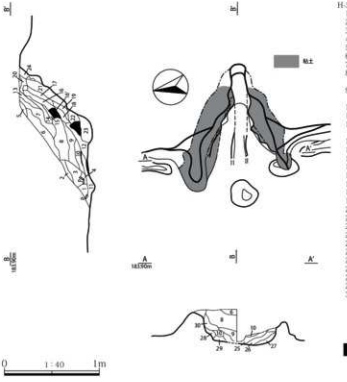


H-3 竪
1. 灰黄褐色土・パミス・灰褐色土、焼土小ブロックを含む（建物覆土及びカマド上面被覆の土）。
2. 灰褐色土・焼土ブロック・暗褐色土（建物覆土及びカマド上面被覆の土）→カマド崩落由来の土。
3. 灰黄褐色土・褐色土・暗褐色土・パミス（建物覆土及びカマド上面被覆の土）→カマド崩落由来の土。
3'. 灰黄褐色土の黒い帯（3と共に廃の構成土か）。
4. 灰黄褐色土・暗褐色粘質土・灰白色粘質土・焼土ブロック（カマド構築材の崩壊土→燃焼室の廃部）。
5. 暗褐色土・灰黄褐色土の混合土（建物及びカマド構築材の崩壊土）。
6. 灰黄褐色土・灰白色粘質土・炭化物、きめの細かい土。
7. 灰黄褐色土・焼土ブロック・灰白色粘質土・焼土粒・炭化物（この下が火床（使用時））。
8. 灰黄褐色土・焼土粒、粘性のある細粒の土（下面が空焚き火床面）。
9. 焼土ブロック（カマド内側面の崩壊土か）→空焚き時の右袖残存。
10. 灰褐色土・パミス・暗褐色土、かたくしまる土（右袖、土台の土か）。
10'. 10層に焼土混入。
11. 黄褐色粘性土（ローム）・灰褐色土・パミス（カマド前床及び袖脇の強固の土か）。
12. 灰黄褐色土・褐色土。
13. 灰黄褐色土・褐色土ブロックの混合土。
14. 灰黄褐色土・褐色土、きめの細かい土、8層のベースの土（掘方の土）。
15. 灰黄褐色粘性土を主体とするしまった土（煙道天井部の土）。
15'. 15層に暗褐色土・灰白色土・焼土ブロックが混じる、かたくしまった土（煙道廻りの土）。
17. 灰黄褐色粘性土・黄褐色粘性土・焼土。
18. 灰黄褐色粘性土・灰褐色粘性土・焼土。
19. 灰黄褐色粘性土。
20. 灰白色粘性土・灰黄褐色粘性土・焼土。かたくしまる土（煙道出口を塞ぐようにつめたような、土器片も入れる）。
21. 灰黄色粘性土・灰白色粘性土・焼土・黄褐色土ブロック（煙道側壁の崩落土）。
22. 灰白色粘性土の焼土化したもの（空焚き時及び使用時の煙道外側の土）。
23. 灰白色粘性土・褐色土・焼土（焼黄色）。
24. 灰白色粘性土、掘方の上に充填した土、22 層被熱時に影響を受けた土。
25. 16 層・17 層に近似する（煙道側面の土か）。
26. 灰黄褐色粘性土の細粒、焼土粒を含む、灰、柔らかい土（煙道空間の土）。

焼土塊

0　1:40　1m

H-5 竪



H-5 竪
1. 灰白色粘質土・暗褐色粘質土・黄褐色土細粒（燃焼室崩落にともなう構造材の土）。
2. 灰白色粘質土・暗褐色粘質土・パミス（燃焼室崩落にともなう構造材の土）。
3. 灰白色粘質土・暗褐色粘質土・焼土多（燃焼室崩落にともなう構造材の土）。
4. 灰白色粘質土・暗褐色粘質土・焼土少量（燃焼室崩落にともなう構造材の土）。
5. 灰白色土・灰黄褐色粘性土。
6. 灰黄褐色粘性土・灰褐色粘性土・灰白色粘性土・焼土粒少量（被覆土）。
7. 灰白色・灰黄褐色・灰褐黄色粘性土の混合土、粗色土の混入多い（被覆土）。
8. 灰黄褐色土・灰褐褐色土・灰白色土、各粘性土細粒・焼土粒混合土、かたくしまるとく（被覆土）。
9. 灰白色粘性土主体に灰褐色土・灰褐褐色土・焼土少量含む（煙道天井の土のカバー土）。
10. 灰褐色土・褐色土ブロック中に焼土ブロックあり（煙道天井部のカバーの土）。
11. 灰・炭化物を含む灰黄色土層、柔らかい土（煙道の流入土）。
12. 焼土塊（灰白色及び灰黄褐色粘性土の焼土化した土）＝煙道側面及び天井を構成する土。
13. 灰白色粘性土・暗褐色粘性土の混合土（被覆の土）。
14. 灰黄褐色粘性土細粒・焼土粒細粒（被覆の土、あるいは空焚き天井部の土か）。
15. 灰黄褐色土細粒、柔らかい土。
16. 灰黄褐色粘性土主体、焼土を含む（煙道天井部の土と思われる）。
16'. 焼土塊（トンネル状施設と考える）。
17. 暗褐色土・灰黄褐色土・焼土粒（煙道空間の流入土）。
18. 暗色粘性土・灰黄褐色粘性土ブロック（天井部の崩落土）。
19. 灰黄褐色土・焼土・暗色粘性土（煙道の流入土、18 層の崩落土も含む）。
20. 灰褐色土、粘性のあるかたくしまった土（煙道出口を塞いだ土か）。
21. 灰黄褐色土・灰褐色粘性土の混合土、整地の土。
22. 灰黄褐色土・褐色土を含む（煙道空間の流入土）。
23. 灰黄褐色土細粒（煙道空間の流入土）。
24. 灰黄褐色土・掘方後の充填土。
25. 灰褐色土・灰白色土・灰黄褐色土。
26. 灰黄褐色土・灰・炭化物を含む。
27. 暗褐色土ブロックを多量に含む、灰黄褐色土（空焚きとの関連）。
28. 暗褐色ブロック・褐色土・焼土ブロック。
29. 灰・炭化物を多く含む灰褐色土（空焚きとの関連）。
30. 灰黄褐色土、空焚き後の充填土。

焼土塊

Fig. 9　3・5号竪穴建物跡遺

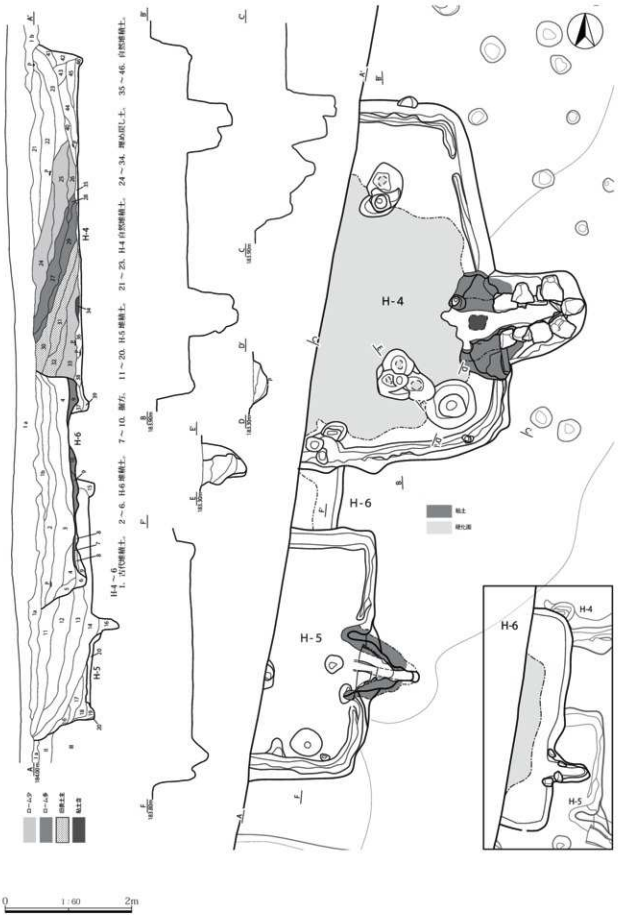
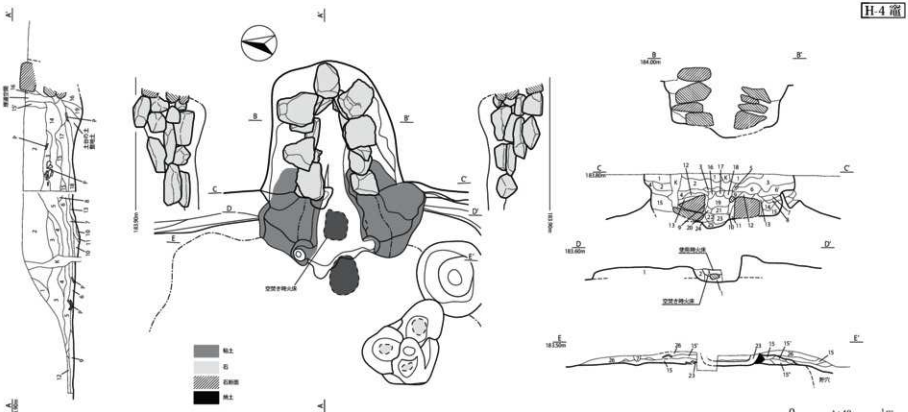


Fig.10　4・5・6号竪穴建物跡

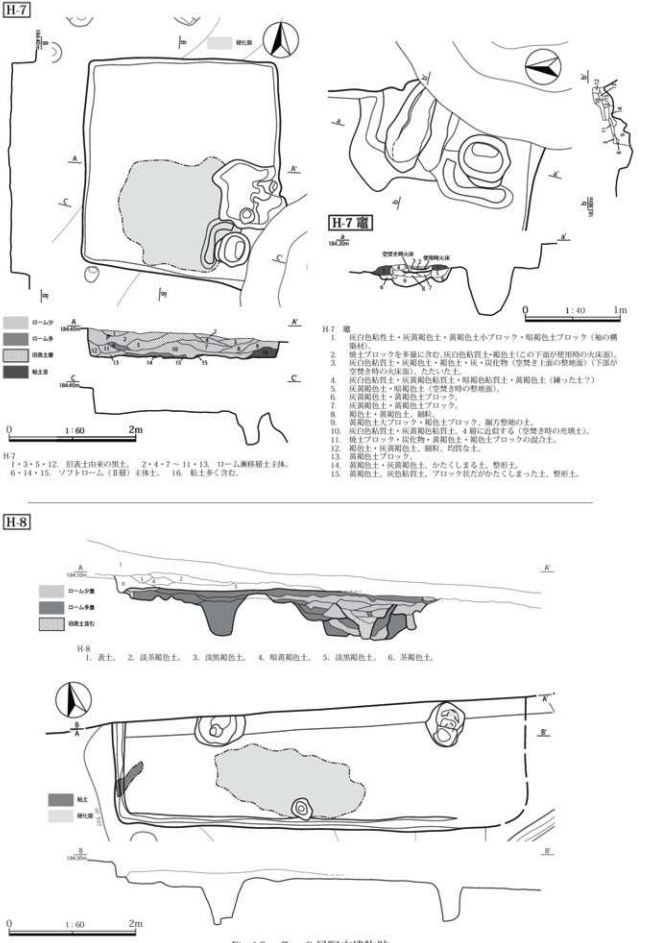


H-4 竈 A-A'
1. 灰黄褐色土・焼土小ブロック（建物流入土）。
2. 灰黄褐色土・焼土小ブロック・炭化物・パミス・暗褐色粘性土→カマド構造材、各粘性土が含まれた様相がみえる。
3. 黄褐色土ブロック・灰褐色土ブロックの混合土。
4. 黄褐色粘性土・灰褐色土・暗褐色土の混合土。
5. 灰白色土・灰黄褐色土・灰・焼土・炭化物の混合土。
6. 暗赤色焼土を主体とする灰色土・粘性のある暗褐色土→この土層が使用面。
7. 6層に近似するが灰色粘質土の土、かたくしまる。
8. 灰黄褐色土・灰褐色土。
9. 灰黄褐色土・灰褐色土の混合土、柔らかい均質な土（使用時の壁体、内部の土由来）。
10. 暗褐色土・黄褐色土・焼土、粘性のつよい土。
11. 10層に焼土ブロックが混入する。
12. 灰黄褐色土・黄褐色土が脈状にかたくしまる。
13. 灰黄褐色土主体でやや粘性のある土。
14. 灰黄褐色土・焼土・暗褐色土・灰白色粘質土ブロックの混合土、かたくしまる。
15. 灰黄褐色土・暗褐色土・炭化物。
15'. 灰黄褐色土に黄褐色ロームブロックが多い層（煙道空間保持の土）。
16. 灰黄褐色土、粘性あり、かたくしまる。
17. 灰・灰黄褐色土・炭化物・焼土粒、柔らかい土（煙道空間の流入土）。
18. 灰・炭化物・焼土・灰黄褐色土、柔らかい土（空焚き時の土を充填か）。
19. 灰黄褐色土・黄褐色土・炭化物→18層に近似する。

H-4 竈 C-C'・E-E'
1. 灰黄褐色土・褐色土・黄褐色土・焼土、細粒、被覆の土。
2. 灰黄褐色土・黄褐色土ブロック・焼土混合土、被覆の土。
3. 灰黄褐色土・黄褐色土・焼土混合土（2層より黄褐色土ブロック小さい）、被覆の土。
4. 灰黄褐色土・灰白色粘質土・暗褐色粘質土、被覆の土。
5. 暗褐色土・灰黄褐色土、被覆の土。
6. 灰黄褐色土・黄褐色土大ブロック、かたくしまる土、被覆の土。
6'. 灰黄褐色土の多い層。
7. 灰黄褐色土・暗褐色土。
8. 灰黄褐色土・暗褐色土・焼土・灰褐色粘質土。
9. 灰黄褐色土・暗褐色粘性土。
10. 灰黄褐色土、粘性あり、かたくしまる。
11. 灰黄褐色粘性土・黄褐色土粒、一部に焼土塊あり。
12. 灰褐色粘性土・黄褐色土粒。
13. 灰褐色粘性土・暗褐色土粒。
14. 暗褐色粘質土・灰黄褐色粘質土。
15. 暗褐色粘質土・灰白色粘質土・灰黄褐色粘性土の混合土、空焚き時燃焼部を形成する土、かたくしまる。
15'. 灰白色粘質土の多い層。
15''. 灰黄褐色土の多い土。
16. 灰黄褐色土・暗赤色粘質土。
17. 灰黄褐色土・灰褐色土。
18. 灰黄褐色土・黄褐色土ブロック。
19. 灰黄褐色土・焼土・暗褐色土・灰白色粘質土ブロックの混合土、かたくしまる。
20. 灰黄褐色土・暗褐色土・炭化物。
21. 灰黄褐色土・暗褐色土・灰白色粘質土。
22. 灰・灰黄褐色土・炭化物・焼土粒、柔らかい土（煙道空間の流入土）。
23. 灰・炭化物・焼土・灰黄褐色土、柔らかい土（空焚き時の土を充填か）。
24. 灰黄褐色土・黄褐色土・炭化物→23層に近似する。
25. 灰黄褐色土・焼土粒。
26. 暗褐色粘質土・黄褐色粘質土大ブロック、全体に粘性のつよい土。

H-4 竈 D-D'
1. 暗褐色粘性土主体の袖土。
2. 灰褐色粘性土。
3. 灰層。

Fig.11　4号竪穴建物跡竈



H-7
1・3・5・12．旧表土由来の黒土．　2・4・7～11・13．ローム漸移層土主体．
6・14・15．ソフトローム（Ⅱ層）主体土．　16．粘土多く含む．

H-7 竈
1．灰白色粘性土・灰黄褐色土・黄褐色土小ブロック・暗褐色土ブロック（袖の構築材）．
2．焼土ブロックを多量に含む．灰白色粘質土・褐色土（この下面が使用時の火床面）．
3．灰白色粘質土・灰褐色土・褐色土・灰・炭化物（空焚き上面の整地面）（下部が空焚き時の火床面）．たたいた土．
4．灰白色粘質土・灰黄褐色粘質土・暗褐色粘質土・黄褐色土（練った土？）
5．灰褐色土・暗褐色土（空焚き時の整地面）．
6．灰黄褐色土・黄褐色土ブロック．
7．灰黄褐色土・黄褐色土ブロック．
8．褐色土・黄褐色土，細粒．
9．黄褐色土大ブロック・褐色土ブロック，掘方整地の土．
10．灰白色粘質土・灰黄褐色粘質土．4層に近似する（空焚き時の充填土）．
11．焼土ブロック・炭化物・黄褐色土・褐色土ブロックの混合土．
12．褐色土・灰黄褐色土，細粒，均質な土．
13．黄褐色土ブロック．
14．黄褐色土・灰黄褐色土，かたくしまる土，整形土．
15．黄褐色土，灰色粘質土，ブロック状だがかたくしまった土，整形土．

H-8
1．表土．　2．淡茶褐色土．　3．淡黒褐色土．　4．暗黄褐色土．　5．淡黒褐色土．　6．茶褐色土．

Fig.12　7・8号竪穴建物跡

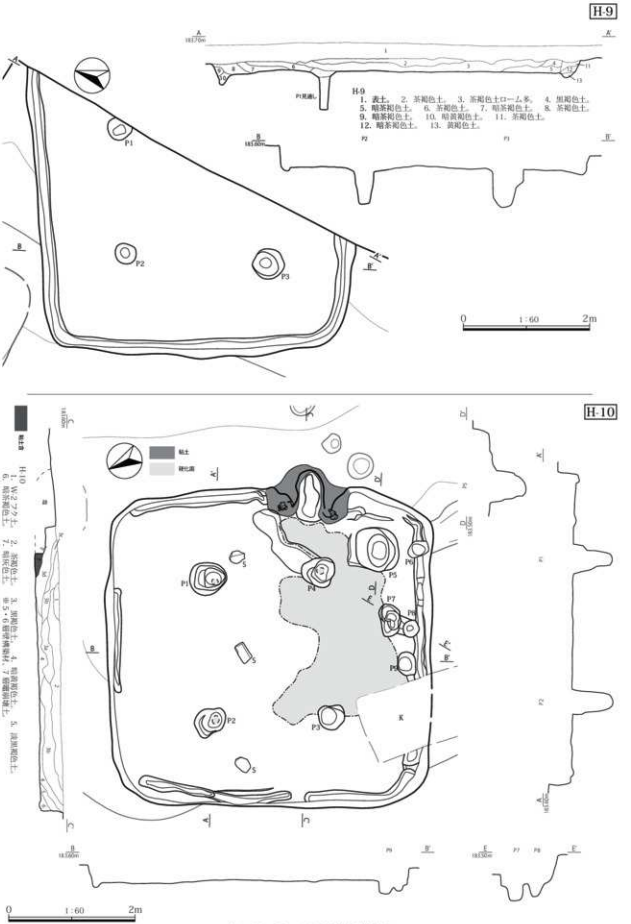
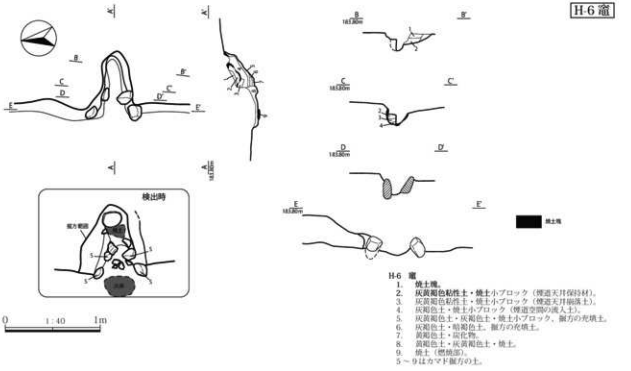
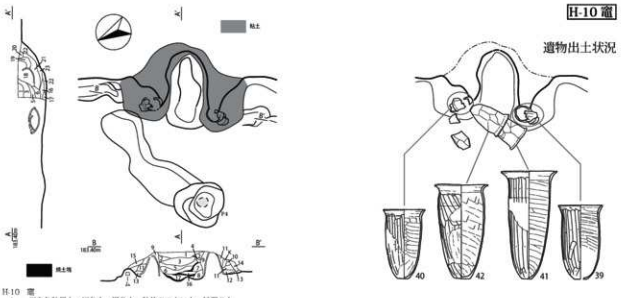


Fig.13　9・10号竪穴建物跡

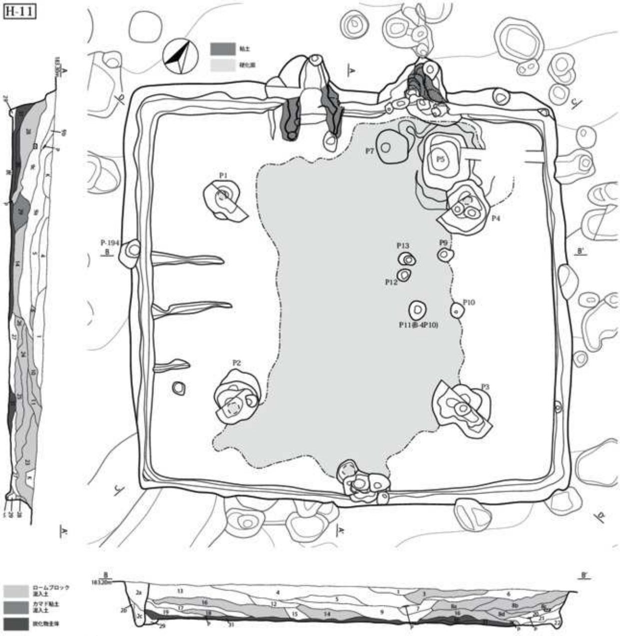


H-6 竈
1. 焼土塊。
2. 灰黄褐色粘性土・焼土小ブロック（煙道天井保持材）。
3. 灰黄褐色粘性土・焼土小ブロック（煙道天井崩落土）。
4. 灰褐色土・焼土小ブロック（煙道空間の流入土）。
5. 灰黄褐色土・灰褐色土・焼土小ブロック。掘方の充填土。
6. 灰褐色土・暗褐色土。掘方の充填土。
7. 黄褐色土・還元物。
8. 黄褐色土・灰黄褐色土・焼土。
9. 焼土（燃焼部）。
5～9はカマド掘方の土。



H-10 竈
1. 灰白色粘質土・灰色土・褐色土。粘性のつよい土。被覆の土。
2. 灰黄褐色粘質土。左右から落ち込むように認められる、構造材、早い段階の崩落土。
3. 灰黄褐色粘質土ブロック・焼土粒。
4. 灰黄褐色粘質土。
5. 灰黄褐色粘質土・焼土（被覆材、天井材の崩落土）。
6. 灰黄褐色粘質土・焼土・炭・設化物の混入する土（使用時の流入土を主体とする層）。
7. 灰黄褐色粘質土・暗褐色土・焼土一使用時の中とみられる。
8. 灰黄褐色粘質土・暗褐色土→13 層に近似する。
9. 灰白色粘質土を主体に灰黄褐色粘質土。
10. 灰黄褐色粘性土ブロック・灰白色土粘性土ブロック。
11. 灰黄褐色粘質土・暗褐色土・焼土ブロック（袖基部の土及び袖芯材をとめる材）、9 層に近似。
12. 灰黄褐色粘質土・灰褐色粘質土（袖基部の土）。
13. 黄褐色土・灰褐色土ブロック（土台、掘方の土）。
14. 灰黄褐色粘性土・焼土ブロック・パミス（崩落の土か）。
15. 灰黄褐色粘性土・褐色土ブロック（袖土）。
16. 赤化（煤化）した焼土塊を含む灰黄褐色土（火床面下の土、充填土）。
17. 褐色土・灰・焼土粒。柔らかい土（火床面下の土、充填土）。
18. 灰白色粘性土・灰黄褐色粘性土・暗褐色粘性土・焼土ブロックの混合土、平坦にたたいた土（煙道天井部を被覆する土。かたくしまる。中に入る土器も補強材）。
19. 灰黄褐色土・灰白色粘性土・暗褐色粘性土の混合土（灰黄褐色土が多い）（煙道周りの土、天井部）。
20. 灰黄褐色土・褐色土・灰白色土ブロック（煙道出口よりの流入土、煙道材が入りこむ）。
21. 灰黄褐色土・灰褐色土・灰黄色土ブロック・炭・柔らかい土（煙道の流入土）。
22. 灰黄褐色粘性土・暗灰黄色粘性土が平坦に入る（掘方後の充填、整地の土）。
23. 灰黄褐色土ブロック・褐色土ブロック・焼土ブロック（煙道下の土）。

Fig.14　6・10号竪穴建物跡竈



H-11
1. W-3 覆土。 2. P-194 覆土。 3・8・10・11・14・16・18・23～26・28・30. ローム多量。
4～7・9・12・13・15・17・19・20～22・27・29. 暗茶褐色土。 31. 炭化物・焼土主体土層。

H-11 P1～4
1. 黒褐色土・根抜き取り。
2. 黒褐色土・ローム多。
3. 暗黄褐色土・ローム多。
4. 茶褐色土・ローム多。
5. 暗黄褐色土・ローム多・貼床。
6. 黄褐色土・ローム主。
7. 黄褐色土・ローム主・柱抜き取り残土。
8. 黒褐色土・炭化物多い・覆土 31 層と同じ。

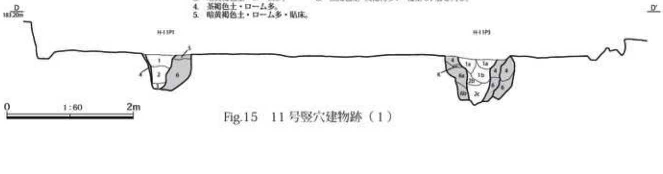


Fig.15 11 号竪穴建物跡（1）

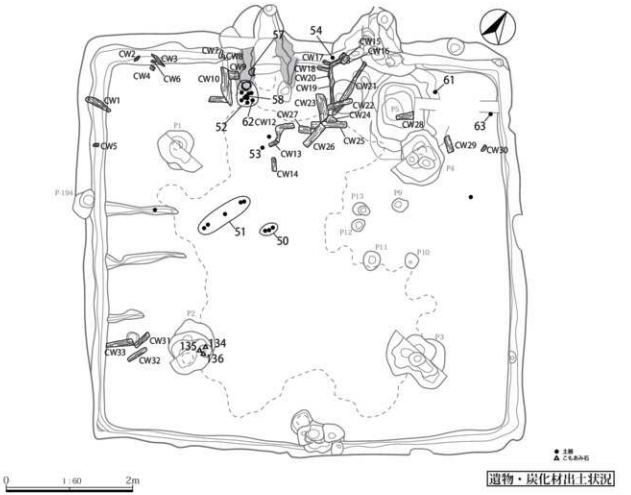
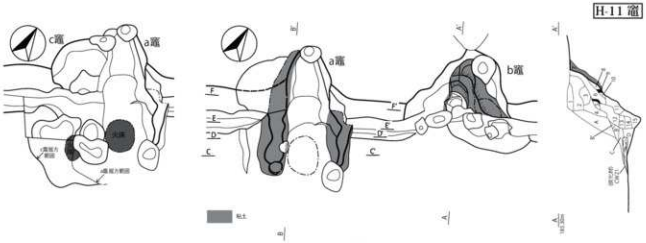
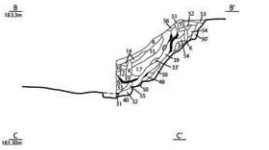


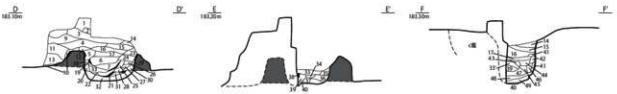
Fig.16　11号竪穴建物跡（2）





H-11　b竈
1.　暗灰褐色土・灰黄褐色土、カマド被覆の土。
2.　灰黄褐色粘性土主体、暗褐色土・焼土小ブロック（煙道空間保持のための土）。
3.　灰黄褐色土・黄褐色土粒・焼土細粒（煙道空間保持のための土）。
4.　2層に近似するが暗褐色土が多い（煙道空間保持のための土）。
5.　黄褐色粘質土の焼土化したもの、9層と同一。
6.　灰黄褐色土・黄褐色土、壁材の土などの混合土（煙道空間の流入土）。
7.　灰白色粘土（掘方に貼付）、上面に被熱痕を認める→（①掘方掘削②粘土貼付③整形④被熱）
8.　灰白色粘土・灰黄褐色粘土・焼土粒の混合土。
9.　スサ入り焼土塊（煙道傾斜変換点に使用する土管状の焼土塊）。
10.　灰黄褐色土、8層に近似する（煙道空間の流入土）。
11.　灰黄褐色土・灰白色土粒・暗褐色土粒多い（煙道空間の流入土）。
12.　灰黄褐色土・黄褐色土・暗褐色土の混合土（煙道空間保持の土）。
13.　灰黄褐色粘質土・褐色土、12層の崩落及び燃焼室内の土、下面に焼土塊あり（火床か）。
14.　焼土塊を含む灰黄褐色土。
15.　灰黄褐色土、細粒で軟質の土。

H-11　b竈
A.　暗褐色土・灰黄褐色土・焼土・炭化物粒・バミス（建物及びカマド上部からの崩落流入土、下部に炭化材、建物内側よりにも炭化材→消失と共に流入）。
B.　灰黄褐色土・焼土粒・炭化物粒。
B'.　灰黄褐色土・焼土粒・炭化物粒、下面に炭化材。
C.　灰黄褐色土・焼土粒・炭化物粒、灰まじりの軟質土、下面に炭化材。
D.　灰黄褐色土・黄褐色土・焼土ブロック、上面に炭化材、壁周溝などの土。



H-11　a竈
1.　暗灰褐色土・灰褐色粘質土・灰黄褐色土・焼土粒・バミス、カマド由来の土、炭化物層形成後。
2.　灰黄褐色土・暗灰褐色土・焼土粒・バミス、カマド由来の土、炭化物層形成後。
3.　灰褐色粘質土・焼土小ブロック・バミス、カマド由来の土、炭化物層形成後。
4.　灰褐色粘質土・焼土ブロック・灰褐色土ブロック、カマド由来の土、炭化物層形成後。
5.　灰褐色粘質土・焼土粒・灰・炭化物＝F-F'では左袖の上部が崩落したように思える、カマド由来の土、炭化物層形成後。
6.　灰褐色粘質土・焼土小ブロック・灰・炭化物ブロック。
7.　灰褐色粘質土・灰・焼土ブロック・炭化物。
8.　焼土（上面が使用時の火床）。
9.　灰褐色土・灰黄褐色粘質土（カマド由来の土）。
10.　炭化物層（キー層）。
11.　灰黄褐色土・灰褐色土・板状の炭化物を多く含む、焼失によって崩落した土（カマド由来だが焼失後の土）。
12.　灰黄褐色土・灰褐色土・炭化物を含む、焼失によって崩落した土（カマド由来だが焼失後の土）。
13.　灰黄褐色土・炭化物（棒状・板状）の層、焼失によって崩落した第一次の層（カマド由来だが焼失後の土）。
14.　黄褐色土大ブロック・褐色土、粘性土、横に積んだような土。
15.　灰白色粘性土・褐色土・黄褐色土・焼土、横に積んだような土。
16.　灰白色土・灰黄褐色粘性土・褐色土・焼土＝ブロックが大きい。
17.　灰白色粘性土・焼土、細粒（板状につぶれた土）。
18.　灰黄褐色粘性土・暗褐色粘性土・焼土ブロック多（20層より暗褐色＝左袖壁のくずれか）。
19.　灰黄褐色粘性土・黄褐色土細粒、7層の一部に近似する。
20.　灰黄褐色粘性土・焼土、上部に黄褐色粘性土、板状にみられる（使用時の燃焼部左側面か）。
21.　黄褐色粘性土の焼土化したもの（この上面が使用時の火床8層）、火床の土。
22.　灰黄褐色粘性土・焼土粒、火床の土。
23.　灰白色土・灰黄褐色粘性土・褐色土・焼土ブロックの混合土、横位の積み土。
24.　灰白色土・灰黄褐色粘性土・焼土、各小ブロックの混合土、横位の積み土。
25.　灰白色粘性土、内側焼土化（使用時の火床～壁の土）、21層の続き。
26.　灰黄褐色粘性土・細粒・灰を含む、横位の積み土。
27.　灰黄褐色粘性土ブロック・灰・褐色土、横位の積み土。
28.　灰黄褐色粘性土細粒・黄褐色粘性土ブロック、横位の積み土。
29.　灰黄褐色粘性土、焼土化（空焚き壁の崩落土）（空焚き後の充填土）。
30.　灰黄褐色粘性土の細粒、空焚きの土台をつくる土（空焚き後の充填土）。
31.　灰褐色粘性土（上面被熱）（空焚き用の土）。
32.　黄褐色粘性土ブロック・灰黄褐色土（整地土）（空焚き用の土）。
33.　灰黄褐色粘性土・灰白色粘性土（上面に焼土化面がみえる→生成過程は不明、33層と一体の土）。
33'.　33層、灰黄褐色粘性土・灰白色粘性土・焼土塊によるかたい土（煙道天井部をつくる土層）。
34.　褐色粘性土・灰黄褐色粘性土・板状につぶれた土。
35.　灰黄褐色粘性土・黄褐色土粒・焼土粒（充填土）。
36.　暗褐色土・灰黄褐色土・灰白色粘性土・焼土（充填土、煙道天井部を作る為の土台の土）。
37.　灰白色粘性土主体、焼土・黄褐色粘性土。
38.　焼土（ブロックか）、煙道構造物の崩落土か。
39.　灰黄褐色土細粒・灰白色粘性土・焼土・小ブロック・灰・炭化物を含む煙道空間の土＝壁・天井部の崩落土も含む。
40.　黄褐色粘質土（地山の土）＝ローム。
41.　灰黄褐色土・褐色土を含む（右壁の被熱土の崩落土）。
42.　灰黄褐色土・褐色土・焼土を含む（右壁の被熱土の崩落土）。
43.　灰黄褐色粘性土・褐色粘性土、粘性のつよいしまる土（天井部補強の充填土）。
44.　灰黄褐色粘性土・褐色粘性土、粘性ややよわい（天井部補強の充填土）。
45.　褐色粘性土・灰黄褐色粘性土・焼土ブロック（天井部補強の充填土）。
46.　灰黄褐色粘性土、41層・42層と同様壁崩落土を含む充填土。
47.　被熱により焼土化した黄褐色粘性土のブロック主体の層、灰褐色土・灰黄褐色土の混合土（空焚き時の壁及び天井材を敷き込んで煙道の土台とした層）。
48.　褐色土・灰黄褐色粘性土・焼土粒（空焚き後の充填土）。
49.　灰褐色土・暗褐色土ブロック・灰黄褐色土ブロックの混合土（空焚き後の充填土）。
50.　灰黄褐色粘性土・黄褐色粘性土・暗褐色粘性土の混合土（掘方後＝空焚き後に貼付けた整地土）。
50'.　黄褐色粘性土が多。
51.　灰黄褐色粘性土・細粒・黄褐色粘性土細粒（煙道空間の周囲補強土）。
52.　灰黄褐色粘性土・細粒（充填土）、空間をセットしてからの充填。
53.　灰黄褐色粘性土・黄褐色粘性土、均質な混合土（充填土）。
54.　暗褐色粘性土・灰黄褐色粘性土。
55.　灰黄褐色粘性土・焼土ブロック、柔らかい土（煙道部からの流入土）。
56.　灰黄褐色粘性土・褐色粘性土・灰白色粘性土（煙道空間の流入土）。

0　1：40　1m

Fig.17　11号竪穴建物跡（3）

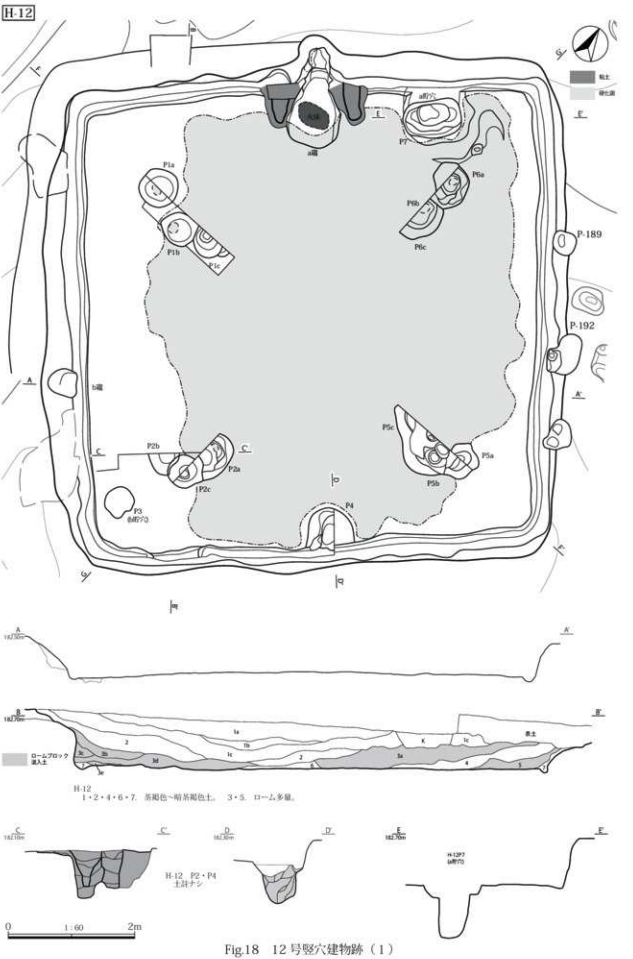
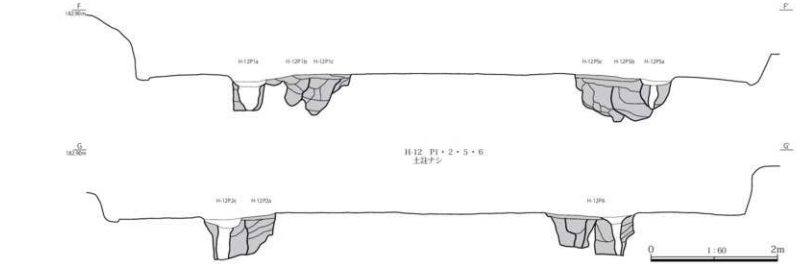
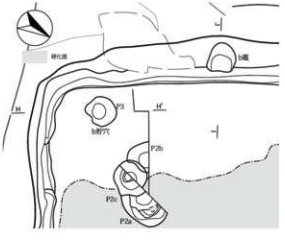
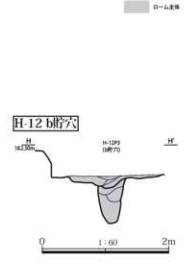


Fig.18　12号竪穴建物跡（1）

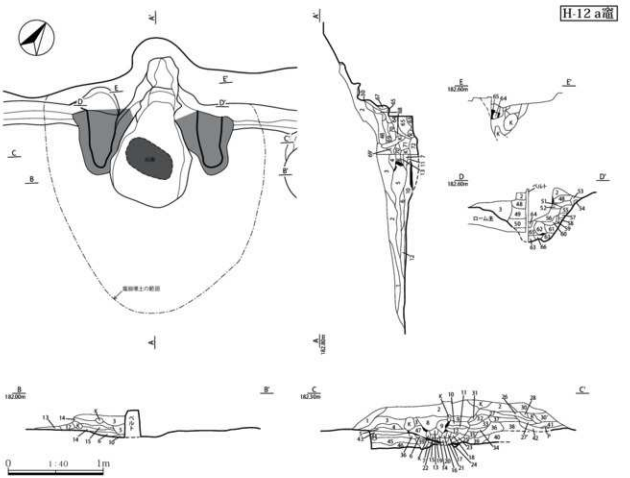






H-12 b竈
1. 灰黄褐色粘性土・暗褐色粘性土・焼土（各土ブロック状）、かたくしまる土。
2. 灰黄褐色粘性土・暗褐色粘性土、均質な細粒土主体、粘性あり、下部に焼土。
3. 灰黄褐色粘性土・褐色土（煙道出口部分の土、粘性のある土、あるいは人で意したものか？）。
4. 暗褐色土主体、灰黄褐色粘性土・焼土粒（煙道空間に流入した土、天井部・側面の崩落も含む）。
5. 灰黄褐色粘性土、かたくしまる土（掘方→充填→空焚きの手順をボヤキー層）。
6. 灰黄褐色粘性土、暗褐色土ブロック、しまった土（貼付土）。
7. 灰黄褐色土・褐色土、柔らかい土、掘方後の整地土。
8. 灰黄色粘性土・褐色土（ロームに貼り付けた土か？整地土？）。
9. 灰白色粘性土・灰黄褐色粘性土・灰褐色粘性土・焼土（土間平田にならす床、強い整地作業ではない）。

Fig. 19　12 号竪穴建物跡（2）



H-12　a竈

1. 灰白色土・灰黄褐色粘性土・黄褐色ブロック・パミス（袖外側の土、壁土、上部からの流入土か）。
2. 灰白色土・灰黄褐色粘性土・褐色土・焼土小ブロック（被覆の土、カマド由来）。
3. 灰白色土・灰黄褐色・暗褐色粘性土ブロック、一部に焼土を認める（袖基部）。
4. 暗褐色粘性土・灰黄褐色粘性土・黄褐色粘性土ブロック、かたくしまる土（袖基部）。
5. 黄褐色粘性土粒・褐色粘性土・焼土粒（袖基部）。
6. 灰白色粘性土・灰黄褐色粘性土の焼土化した層（7 層に連続して空焚き床を構成する）。
7. 黄褐色粘性土の焼土化した土（空焚き時火床）。
8. 灰黄褐色粘性土・褐色粘性土・焼土少量。
9. 灰黄褐色土・灰白色土・焼土各ブロックやや大。
10. 灰白色土・灰黄褐色・褐色土・焼土小ブロック、粘性の強いかたい土。
11. 灰白色土・灰黄褐色粘性土、しっかりした板状の充填土。
12. 灰黄褐色土・灰白色土・褐色土・焼土ブロック、10 層と近似した土。
13. 灰褐色粘性土・焼土粒、比較的混じり気のない土（煙道部天井）。
14. 灰黄褐色粘性土・黄褐色粘性土、かたくしまった土、焼土塊も含む（煙道部天井）。
15. 焼土塊と灰黄褐色土の混合土、かたくしまる（煙道部天井）。
16. 灰黄褐色土・褐色土、ブロック状。
17. 灰黄褐色土・褐色土・焼土、ブロック状。
18. 灰黄褐色粘性土ブロック。
19. 暗褐色土・焼土粒・灰。
20. 焼土・灰白色土・灰黄褐色粘性土・褐色土・暗褐色粘性土小ブロックの混合土（煙道空間の土か）。
21. 灰白色土・灰黄褐色粘性土、かたくしまる土。
22. 褐色土、上面に赤紫色の焼土面あり。
23. 黄褐色粘性土粒・褐色土（YP を含む）。
24. 灰白色粘性土・灰褐色粘性土、かたくしまった整地土。
25. 灰黄褐色粘性土・YP ブロックを含む黄褐色土・褐色粘性土・焼土。
26. 灰白色粘性土・褐色粘性土。
27. 灰白色粘性土・暗褐色粘性土・灰黄褐色粘性土・焼土少量、3 層と似る。
27'. 黄褐色土・パミス多い、崩落土。
28. 灰白色粘性土ブロック。
29. 欠番
30. 灰白色粘性土・褐色土（カマド由来の崩落土）。
30'. 黄褐色土が混じる土（カマド由来の崩落土）。
31. 灰黄褐色粘性土に黄褐色土細粒・褐色土細粒（充填土）。
32. 灰黄褐色粘性土・褐色粘性土・ブロック状の混合土、焼土を含む（充填土）。
33. 灰黄褐色粘性土に灰白色粘性土・黄褐色土がブロック状に混入する（充填土）。
34. 灰白色粘性土・灰黄褐色粘性土・暗褐色粘性土（充填土）。
35. 暗灰褐色土・灰白色粘性土・細ブロック（空焚き時の充填土）。
36. 灰黄褐色粘性土・褐色粘性土主体の土（掘方→充填の土、整地土）（右袖基部の土）。
37. 灰黄褐色粘性土・褐色粘性土（36、38 の上にのせる袖土、31、32、33 を充填後のせた土）。
38. 灰白色粘性土・暗褐色粘性土・黄褐色土小ブロック・右端に炭化物含む（袖、補修時に入ったもの）（右袖基部の土）。
39. 灰黄褐色粘性土・黄褐色粘性土・褐色土の混合土（建物床を掘りこんだ袖下基礎の土）。
40. 灰黄褐色粘性土・暗褐色粘性土・黄褐色土ブロック、上面が建物床面（かたくたたいた土）。
41. 黄褐色土ブロック・褐色土（袖及びカマド脇、壁からの崩落土）（左袖）。
42. 暗褐色土・褐色土・黄褐色土ブロック、床上の土及び床土。
43. 灰黄褐色粘性土・暗褐色粘性土、たたいた土、床土。
44. 黄褐色粘性土ブロック主体・暗褐色土ブロック（下の床－上面がつぶれる）。
45. 暗褐色土・灰黄褐色土の混合土。
46. 灰黄褐色粘性土・褐色土。
47. 暗褐色粘性土・灰白色・灰黄褐色粘性土、36 層に近似。
48. 灰暗褐色土・灰黄褐色土・パミス・黄褐色土・焼土粒（粘性強い）。
49. 粘性のある暗褐色土・灰黄褐色土・焼土粒、充填土、55 層と近似。
50. 暗褐色粘性土・灰黄褐色粘性土・灰白色粘性土・焼土、充填土、60 層と近似。
51. 粘性つよく板状の灰黄褐色土、充填土。
52. 灰黄褐色粘性土、板状、充填土。
53. 黄褐色土・灰黄褐色土・暗褐色土。
54. 暗褐色粘性土。
55. 灰黄褐色粘性土に焼土粒を含む（充填土）。
56. 灰黄褐色土主体の粘性土・暗褐色土・焼土粒を含む、板状につむ（充填土）。
57. 灰黄褐色土・焼土・黄褐色土・混合土（充填土）。
58. 灰黄褐色土・暗褐色土（充填土）。
59. 暗褐色粘性土主体の土、灰黄褐色粘性土を含む（充填土）。
60. 灰白色粘性土・灰黄褐色粘性土（充填土）。
61. 褐色土・焼土大ブロック（空焚き時のグラデーションのかかるもの）・黄褐色土粒（充填整地土）。
62. 灰白色粘性土・灰・灰黄褐色土・焼土（煙道のための整地土）。
63. 灰黄褐色土・黄褐色土ブロック（整地土）。
64. 灰褐色粘性土・暗褐色土・灰黄褐色土の混合土、流入土、壁・天井部よりの崩落土も含む（煙道空間の土）。
65. 焼土粒・灰黄褐色粘性土・黄褐色粘性土（煙道土台及び周辺をまく土）。
66. 63 層に炭化物の入る層。
67. 63 層に暗褐色粘性土が多い層。
68. 灰黄褐色粘性土・灰白色粘性土、65 層のさらに上をおさえる層。
69. 灰黄褐色粘性土・暗褐色粘性土・パミス。
69'. 崩落土か。
70. 灰黄褐色粘性土・灰白色粘性土（天井部）。
70'. 崩落土か。
71. 灰暗色粘性土・焼土大ブロック、天井部及び奥壁の崩落土。
72. 灰暗色粘性土・灰黄褐色土、柔らかい土、天井部などからの崩落土を含む土。

Fig.20　12 号竪穴建物跡（3）

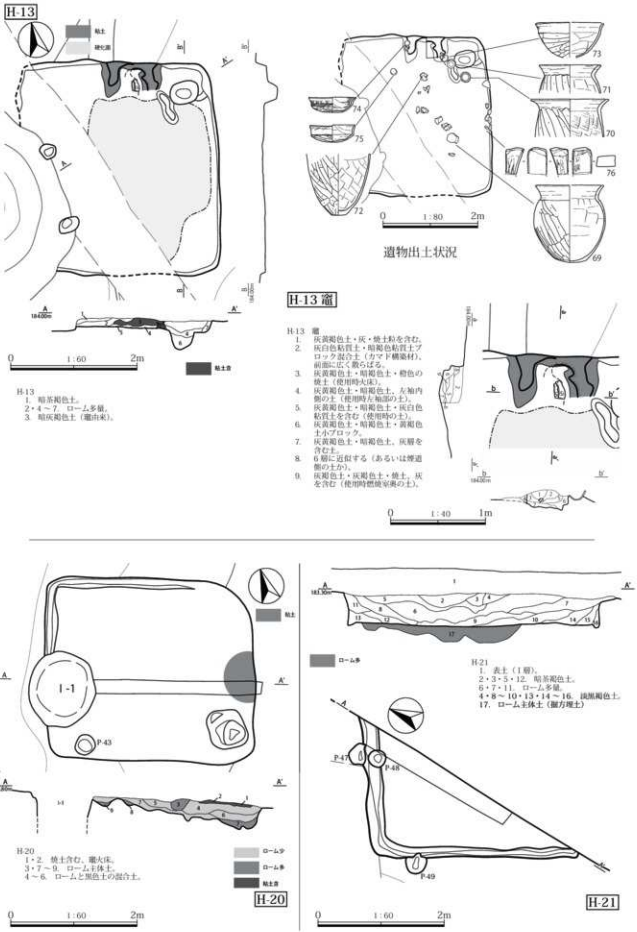
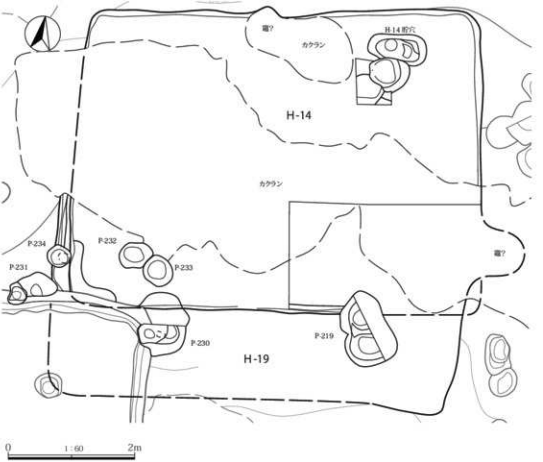


Fig.21　13・20・21 号竪穴建物跡

H-14・19



H-15

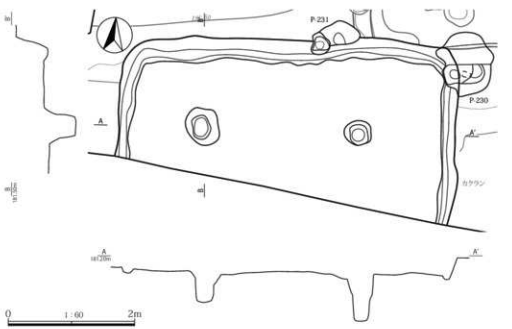


Fig.22　14・19・15 号竪穴建物跡

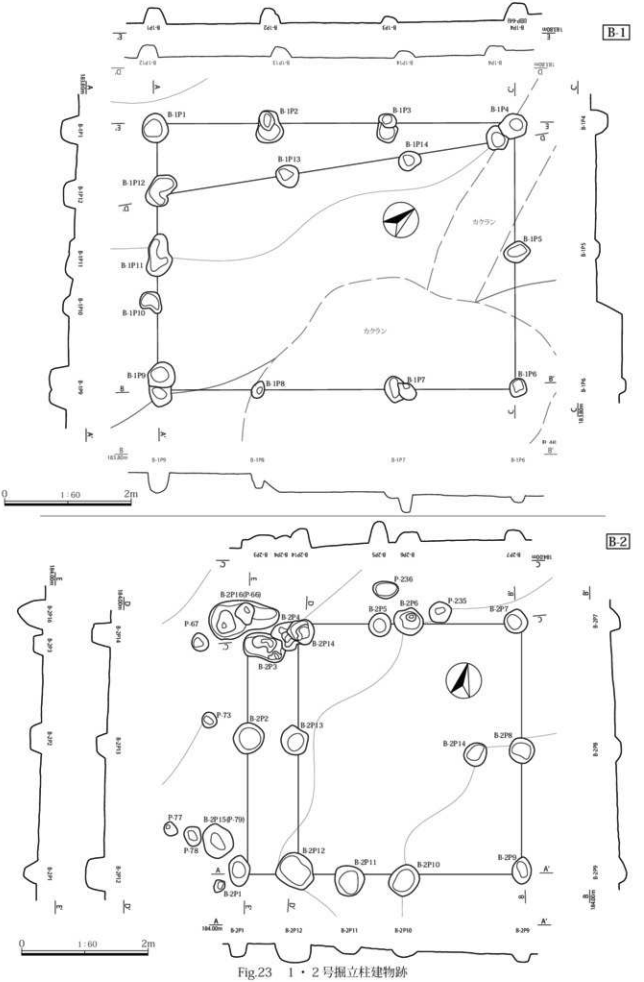


Fig.23　1・2号掘立柱建物跡

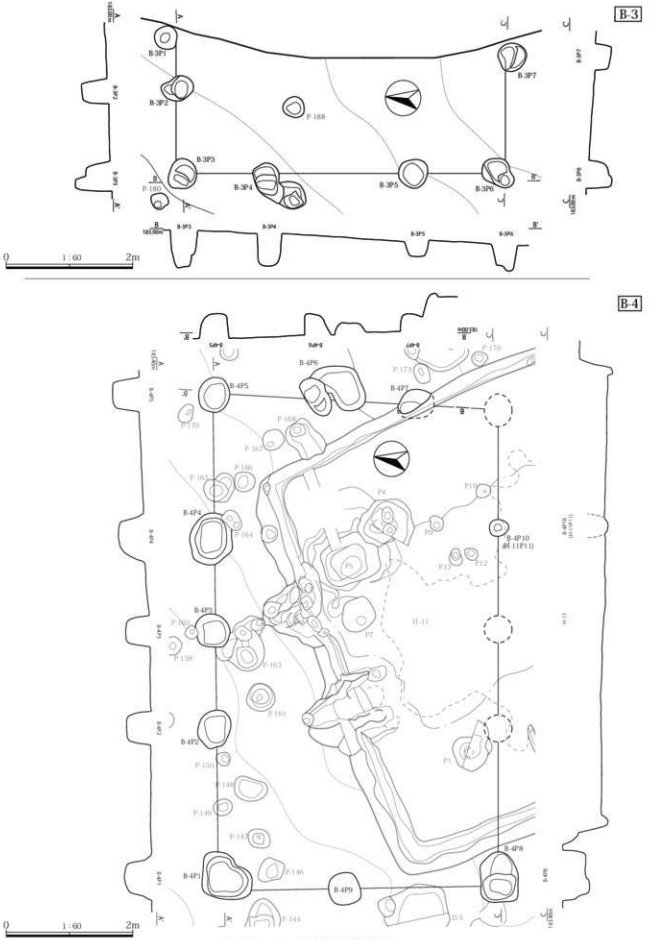


Fig.24　3・4号掘立柱建物跡

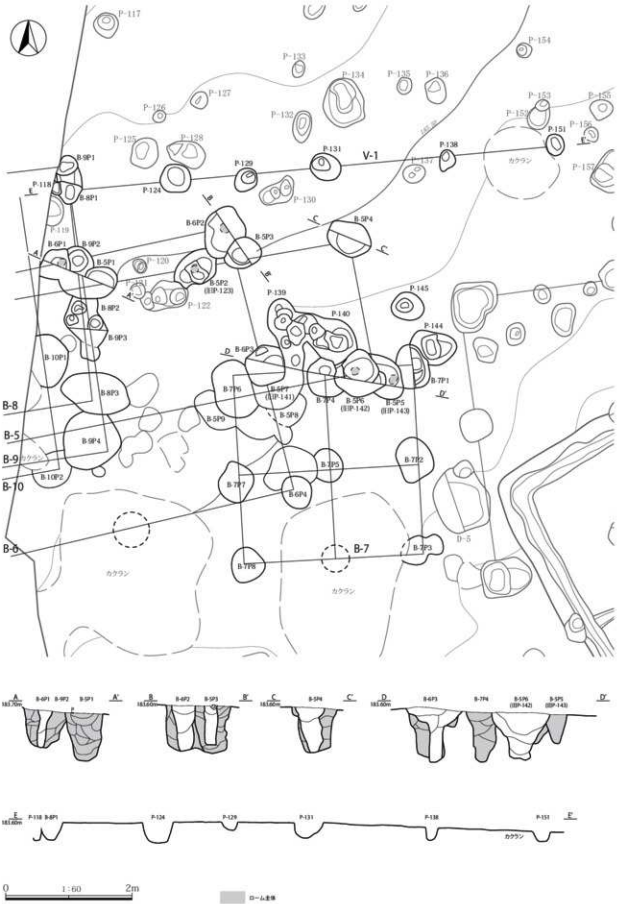


Fig.25　5～10号掘立柱建物跡と1号柵列

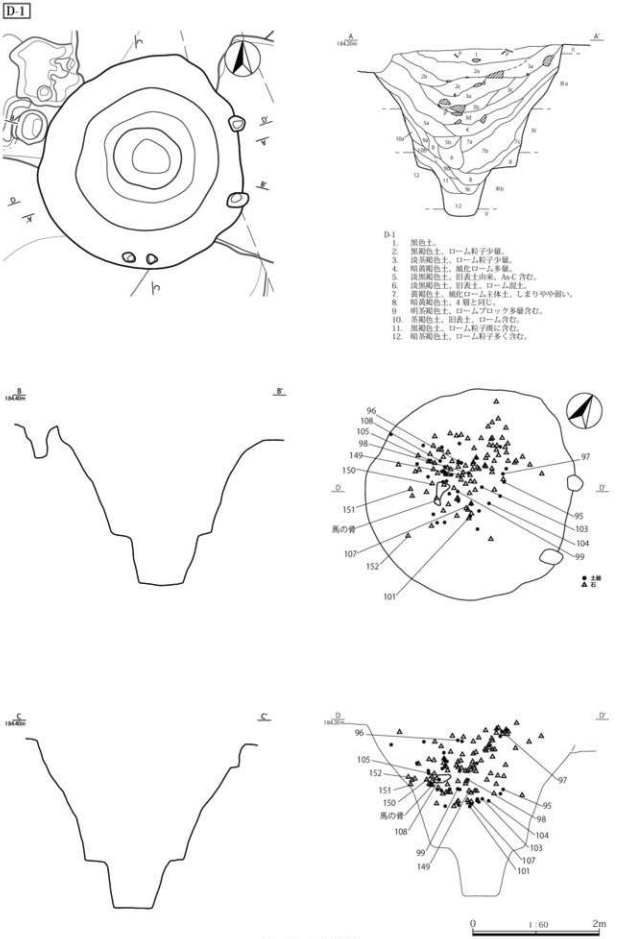

D-1
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
D-1
1. 黒色土。
2. 黒褐色土。ローム粒子少量。
3. 淡茶褐色土。ローム粒子少量。
4. 暗黄褐色土。風化ローム多量。
5. 淡黒褐色土。旧表土由来。As-C 含む。
6. 淡黒褐色土。旧表土。ローム混土。
7. 黄褐色土。風化ローム主体土。しまりやや弱い。
8. 暗黄褐色土。4 層と同じ。
9 明茶褐色土。ロームブロック多量含む。
10. 茶褐色土。旧表土。ローム含む。
11. 黒褐色土。ローム粒子微に含む。
12. 暗茶褐色土。ローム粒子多く含む。
馬の骨
0
1:60
2m

Fig.26　1 号土坑

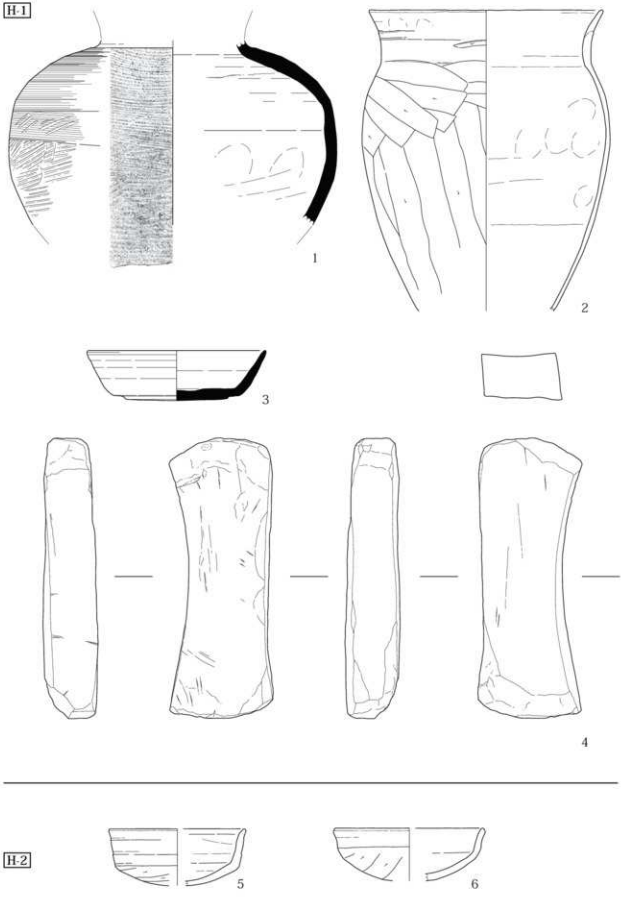


Fig.27　出土遺物（1）

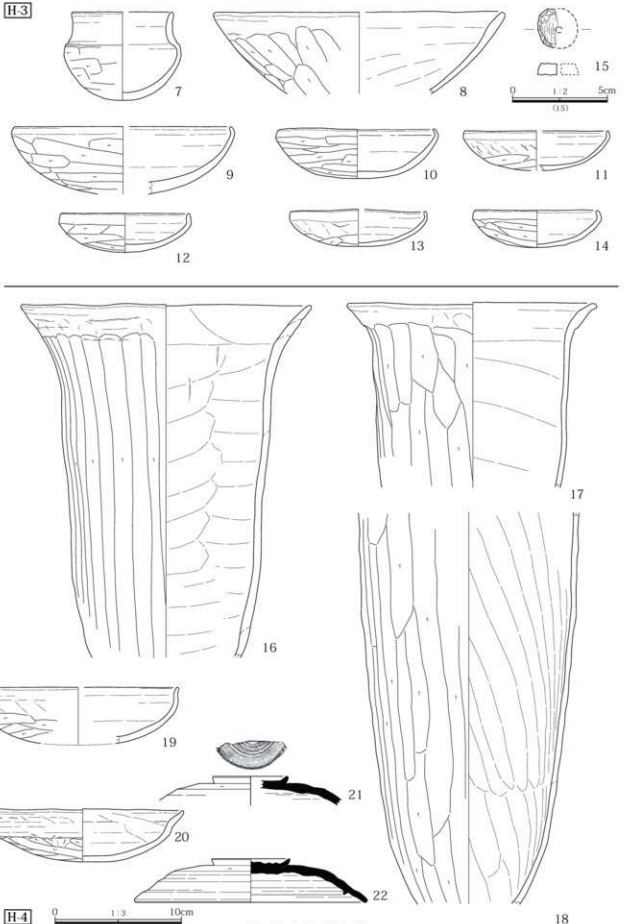


Fig.28 出土遺物（2）

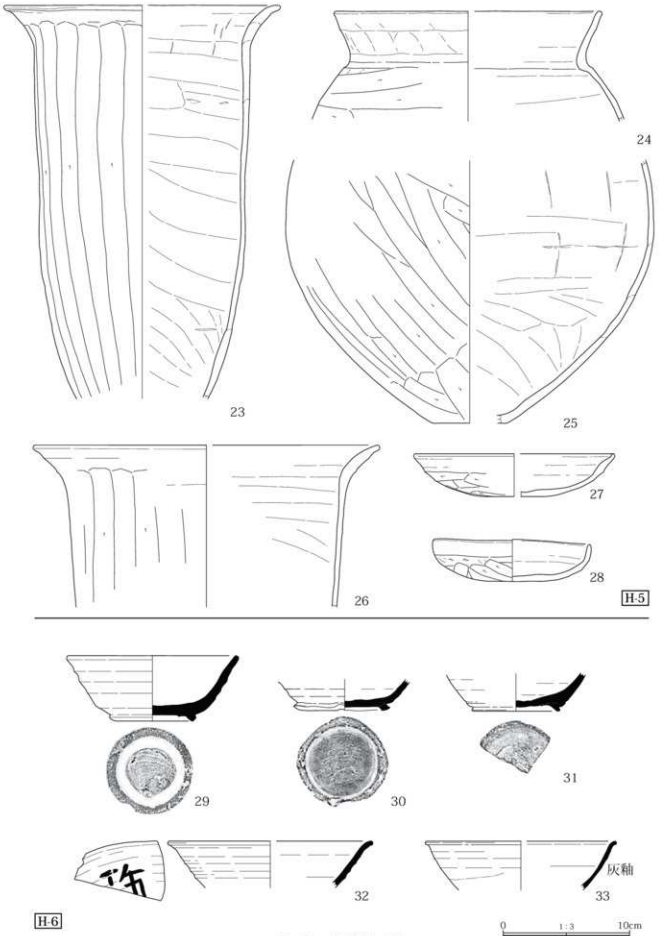


Fig.29　出土遺物（3）

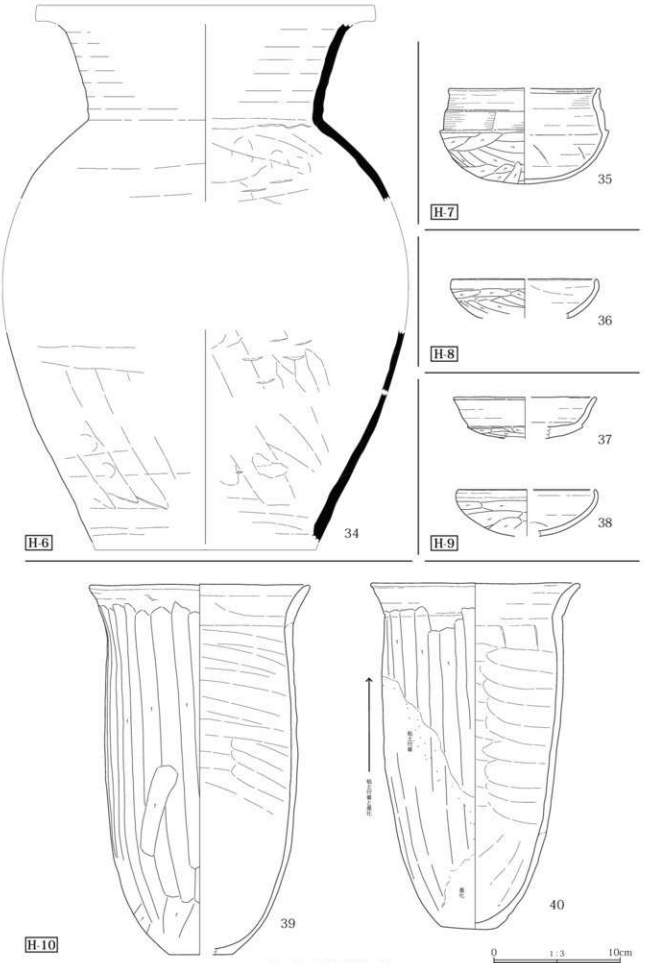
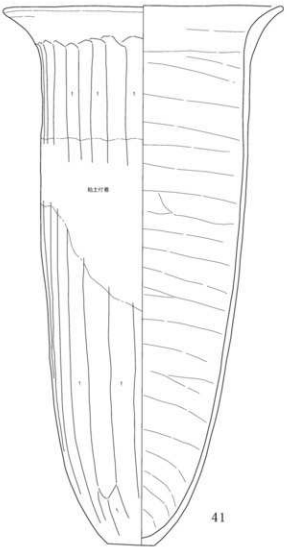
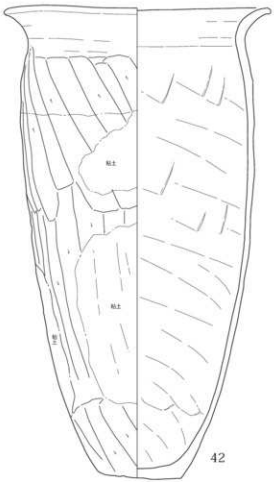


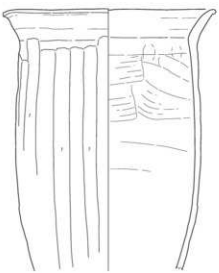
Fig.30　出土遺物（4）



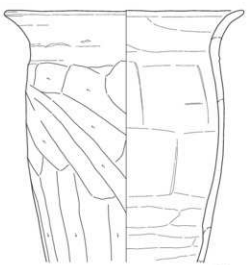
41



42



43



44

H-10

0 1:3 10cm

Fig.31　出土遺物（5）

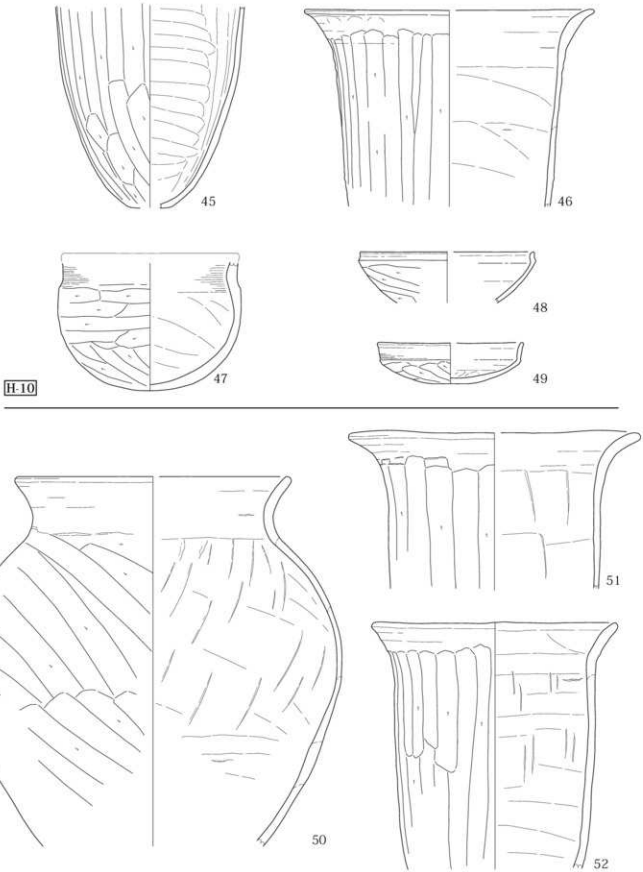


Fig.32　出土遺物（6）

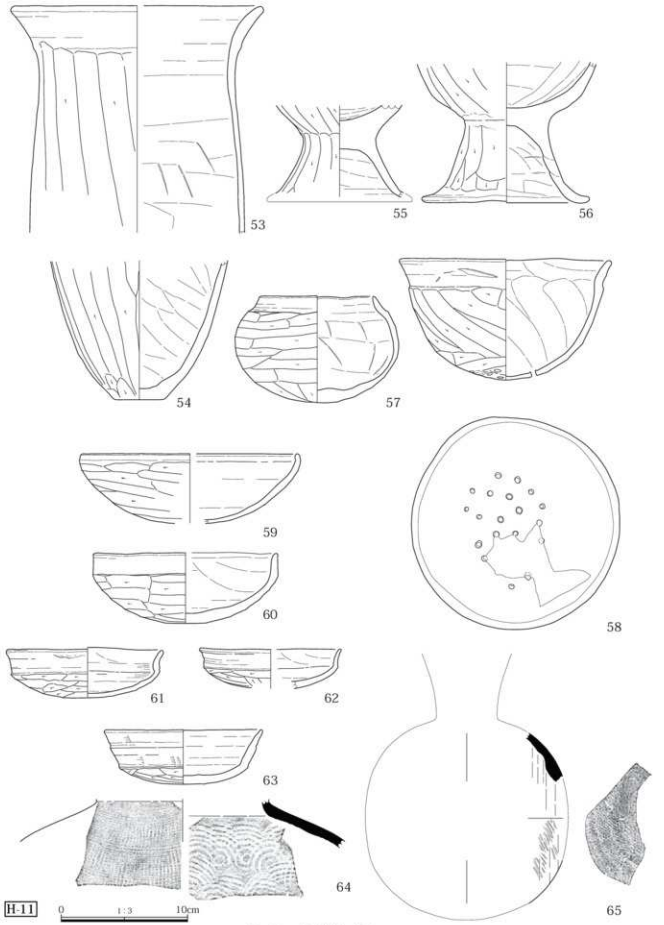


Fig.33　出土遺物（7）

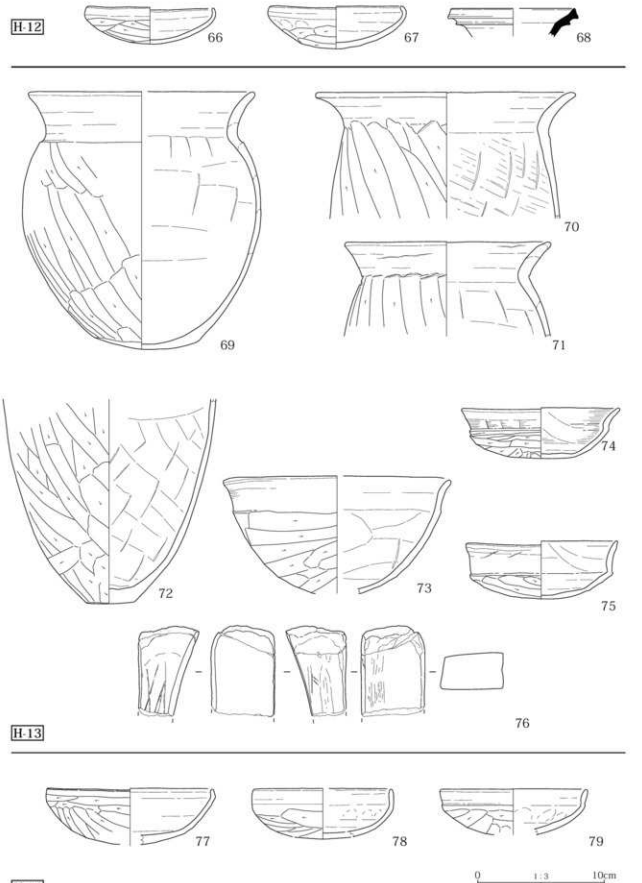


Fig.34　出土遺物（8）

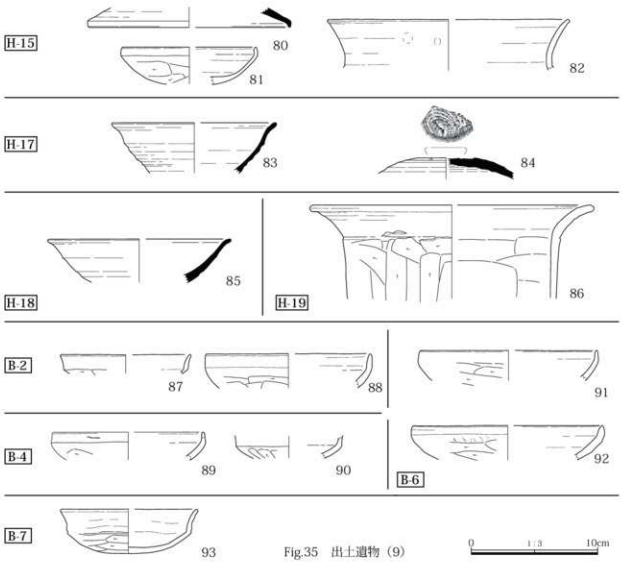


Fig.35　出土遺物（9）

Tab.11　竪穴建物跡出土土器・陶器一覧表（重量比）

	土師器（g）			須恵器（g）			灰釉陶器計（g）	土器計（g）
	小型品（坏・塊他）	大型品（甕類）	土師器 計	小型品（坏・塊他）	大型品（甕類）	須恵器 計		
H-1	320	1,752	2,072	290	114	404	0	2,476
H-2	152	158	310	0	0	0	0	310
H-3	1,144	1,858	3,002	0	24	24	0	3,026
H-4	622	4,357	4,979	42	54	96	0	5,075
H-5	364	2,804	3,168	66	0	66	0	3,234
H-6	64	792	856	254	678	932	12	1,800
H-7	270	438	708	0	0	0	0	708
H-8	84	28	112	0	0	0	0	112
H-9	246	414	660	0	0	0	0	660
H-10	596	8,359	8,955	0	18	18	0	8,973
H-11	1,898	10,711	12,609	314	1,156	1,470	0	14,079
H-12	900	2,062	2,962	172	336	508	0	3,470
H-13	524	2,547	3,071	0	4	4	0	3,075
H-14	562	1,343	1,905	34	32	66	0	1,971
H-15	110	96	206	4	0	4	0	210
H-16	0	0	0	0	0	0	0	0
H-17	144	424	568	148	92	240	0	808
H-18	6	20	26	32	0	32	0	58
H-19	0	174	174	0	0	0	0	174
合計	8,006	38,337	46,343	1,348	2,508	3,856	12	50,219

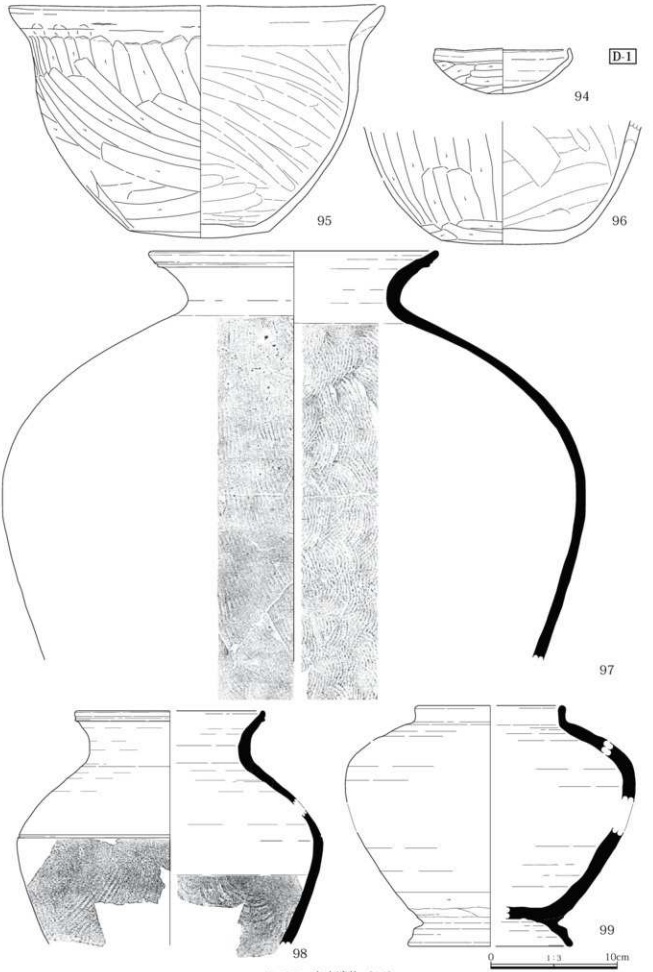


Fig.36　出土遺物（10）

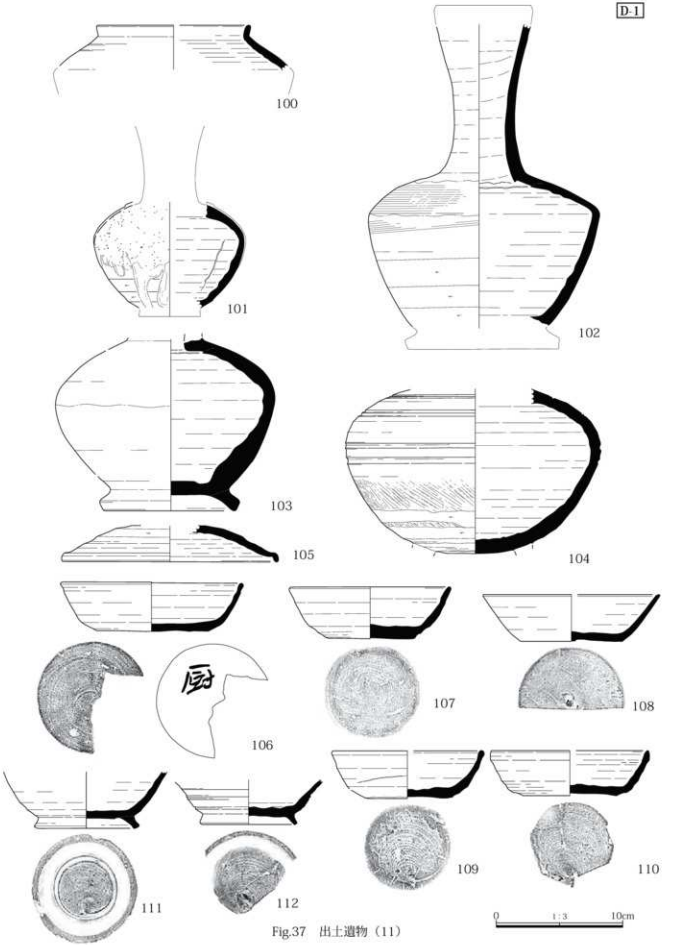


Fig.37　出土遺物（11）

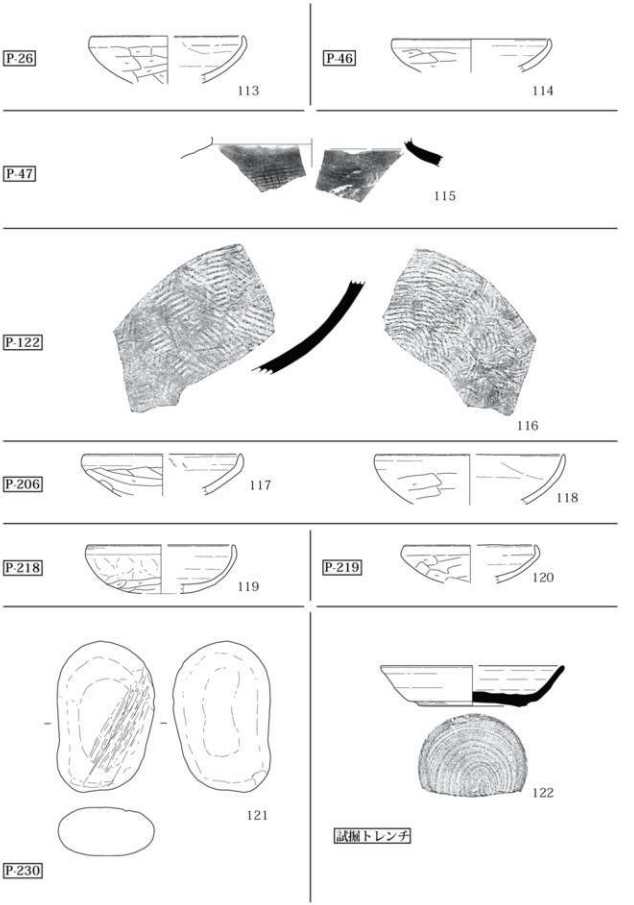


Fig.38　出土遺物（12）

Tab.12　出土遺物観察表（1）

掲載No	遺構	種別/器種	部位/残存	法量（cm）口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	調整・特徴	備考
1	H-1	須恵器 壺	肩~胴部 1/8	—	(14.5)	—	長石	普通	灰	外:ロクロ整形 下半タタキ 内:ロクロ整形 上位ヨコナデ	
2	H-1	土師器 甕	口縁~胴部 1/4	<18.4>	(24.3)	—	長石・角閃石・輝石	普通	明赤褐	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ナデ	
3	H-1	須恵器 坏	ほぼ完形	14.2	4.0	7.8	輝石・長石・角閃石	酸化	浅黄	外:ロクロ整形 底部ヘラ切ヘラナデ 内:ロクロ整形	
掲載No	遺構	種別/器種	部位/残存	法量（cm）長さ	幅	厚さ	重さ（g）	石材	調整・特徴		備考
4	H-1	石製品 砥石	ほぼ完形	22.3	5.8	3.8	1050 g	凝灰岩			
掲載No	遺構	種別/器種	部位/残存	法量（cm）口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	調整・特徴	備考
5	H-2	土師器 坏	口縁~体部 1/4	<10.6>	(4.5)	—	輝石・長石・角閃石	普通	黄橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ナデ	胴部風化
6	H-2	土師器 坏	口縁~体部 1/3	12.0	4.2	—	輝石・角閃石・長石・石英	良	にぶい橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ナデ	
7	H-3	土師器 小形短頸壺	口縁~底部 1/4	<8.0>	7.0	—	長石・輝石 各々微量	普通	にぶい黄橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ナデ	内面にモグラ爪痕
8	H-3	土師器 鉢	口縁~体部 1/3	22.4	(6.5)	—	角閃石・長石・輝石	普通	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ	
9	H-3	土師器 坏	口縁~体部 1/2	17.2	(5.4)	—	角閃石・長石・石英	普通	明褐	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ナデ	
10	H-3	土師器 坏	口縁~底部 3/4	12.2	3.9	—	角閃石・長石	良	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ナデ	内面にスス付着
11	H-3	土師器 坏	口縁~底部 1/2	11.2	3.2	—	角閃石・長石・輝石・小礫	良	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ナデ	口縁部下外面に無調整・タテ開裂
12	H-3	土師器 坏	口縁~底部 8/10	10.2	3.1	—	石英・角閃石・小礫	良	明赤褐	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ナデ	粘土多量に付着
13	H-3	土師器 坏	口縁~底部 3/4	10.6	2.9	—	角閃石・長石	良	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ナデ	口縁部の歪み大 外面底部に黒色斑
14	H-3	土師器 坏	口縁~底部 2/3	9.8	3.0	—	角閃石・長石・輝石	普通	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ナデ	
掲載No	遺構	種別/器種	部位/残存	法量（cm）長さ	幅	厚さ	重さ（g）	石材	調整・特徴		備考
15	H-3	石製品 臼玉	1/2 破片	径 2.1	孔径 <0.25>	0.6	2g	滑石製	上下面は節理面 側面は研磨面		
掲載No	遺構	種別/器種	部位/残存	法量（cm）口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	調整・特徴	備考
16	H-4	土師器 甕	口縁~胴部 2/3	22.8	(28.0)	—	長石・輝石・角閃石・石英	普通	明赤褐	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ヘラナデ→ナデ	
17	H-4	土師器 甕	口縁~胴部 1/4	19.4	(14.7)	—	長石・角閃石・輝石・石英	普通	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ヘラナデ	
18	H-4	土師器 甕	胴部 2/3	—	(31.0)	—	長石・角閃石・石英	普通	橙	外:ケズリ 内:ナデ	
19	H-4	土師器 坏	口縁~底部 1/4	<15.8>	(4.4)	—	角閃石・長石・石英	良	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ナデ	外面底部に黒色斑
20	H-4	土師器 坏	口縁~底部 5/6	16.6	4.1	7.5	輝石・長石・角閃石	普通	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ	
21	H-4	須恵器 蓋	鈕~体部 1/6	—	(2.3)	鈕径 <5.8>	長石・角閃石	良	灰	外:ロクロ整形 天井部回転ヘラケズリ 内:ロクロ整形	
22	H-4	須恵器 蓋	鈕~口縁 7/8	18.4	3.5	鈕径 6.0	長石・輝石	良	にぶい黄橙	外:ロクロ整形 天井部回転ヘラケズリ 内:ロクロ整形	西毛産
23	H-5	土師器 甕	口縁~胴部 1/3	21.7	(31.2)	—	長石・石英・輝石・角閃石	普通	明赤褐	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ヘラナデ→ナデ	
24	H-5	土師器 甕	口縁~肩部 1/8	21.0	(8.9)	—	角閃石・長石・輝石	良	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ナデ	
25	H-5	土師器 甕	胴~底部 1/3	—	(20.8)	<5.2>	角閃石・長石・輝石	普通	橙	外:ケズリ 内:ヘラナデ ナデ	
26	H-5	土師器 甑	口縁~胴部 1/8	<27.0>	(12.8)	—	石英・角閃石・長石・輝石	良	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ナデ	
27	H-5	土師器 坏	口縁~底部 1/4	16.5	3.5	—	角閃石・長石	良	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ナデ	
28	H-5	土師器 坏	完形	12.4	3.5	—	長石・角閃石	良	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ナデ	
29	H-6	須恵器 埦	口縁~高台部 2/3	<13.6>	5.2	6.6	石英・角閃石・小礫・長石・輝石	不良	灰白	外:ロクロ整形 底部回転糸切り 内:ロクロ整形	
30	H-6	須恵器 埦	体~高台部 7/8	—	(2.4)	6.0	長石・角閃石	不良	浅黄	外:ロクロ整形 内:ロクロ整形	切り離し技法不明、やや酸化
31	H-6	須恵器 埦	体~高台部 1/4	—	(3.1)	6.6	輝石・長石	普通	浅黄	外:ロクロ整形 内:ロクロ整形	
32	H-6	須恵器 埦	口縁~体部 1/8	<16.0>	(3.8)	—	長石・角閃石・輝石・小礫	普通	灰白	外:ロクロ整形 内:ロクロ整形	外面に墨書
33	H-6	灰釉陶器 埦	口縁~体部 1/10	<14.8>	(3.9)	—	長石・角閃石	普通	灰	外:ロクロ整形 上半灰釉つけがけ 内:ロクロ整形 灰釉	東濃産、光ヶ丘1号窯式（古）
34	H-6	須恵器 壺	頸~胴部	—	頸~肩部 (14.4)	—	長石・輝石	普通	暗青灰	外:ロクロ整形 下位ヘラナデ 内:ロクロ整形 ナデ	下位は2片から図上復元
35	H-7	土師器 坏	口縁~底部 1/2	12.2	7.7	—	長石・輝石	普通	明赤褐	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ヘラナデ	有段口縁埦 利根川中流域
36	H-8	土師器 坏	口縁~底部 1/8	<11.4>	(3.1)	—	長石・角閃石	普通	明赤褐	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ナデ	

〈 〉推定値　（ ）残存値

Tab.13　出土遺物観察表（2）

掲載No.	遺構	種別／部種	部位／残存	法量（cm） 口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	調整、特徴	備考
37	H-9	土師器 坏	口縁～底部 1/8	<11.4>	(3.1)	–	長石・角閃石・輝石	不良	浅黄	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ ナデ	
38	H-9	土師器 坏	口縁～底部 1/2	<10.8>	(3.7)	–	長石・角閃石・石英	普通	明赤褐	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ ナデ	底部に黒色斑
39	H-10	土師器 甕	口縁～底部 4/5	17.2	29.3	<5.0>	長石・輝石・角閃石	普通	にぶい黄	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ ナデ	
40	H-10	土師器 甕	口縁～底部 3/4	16.2	27.6	4.4	輝石・角閃石・長石・石英	普通	にぶい橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ ケズリ ナデ	外面に粘土付着と風化
41	H-10	土師器 甕	口縁～底部 8/10	21.7	42.7	3.7	長石・石英・輝石・角閃石	普通	明赤褐	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ ナデ	口縁部に整形時のぶみ
42	H-10	土師器 甕	ほぼ完形	20.6	37.3	6.6	石英・角閃石・小礫・長石・輝石	普通	橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ ヘラナデ	外面に粘土付着
43	H-10	土師器 甕	口縁～胴部 1/3	16.6	(20.7)	–	長石・石英・角閃石・輝石	普通	明赤褐	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ ナデ	
44	H-10	土師器 甕	口縁～胴部 1/2	18.4	(23.0)	–	長石・角閃石・輝石	普通	にぶい橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ ヘラケズリ ナデ	
45	H-10	土師器 甕	胴～底部 1/4	–	(17.7)	<3.5>	石英・長石・輝石	普通	にぶい黄	外：ケズリ 内：ナデ	
46	H-10	土師器 甕	口縁～胴部 1/4	22.6	(16.3)	–	石英・長石・角閃石	普通	橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ ヘラナデ	
47	H-10	土師器 ミニチュア壺	口辺～底 3/4	–	(10.2)	–	石英・長石・角閃石・輝石	普通	明赤褐	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ ナデ	
48	H-10	土師器 坏	口縁～底部 1/8	<13.8>	(4.0)	–	石英・角閃石・長石	普通	にぶい赤褐	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ ナデ	
49	H-10	土師器 坏	口縁～底部 1/3	<11.4>	3.2	–	角閃石・長石	良	明赤褐	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ 指頭痕	
50	H-11	土師器 甕	口縁～胴部 1/4	<21.4>	(29.4)	–	輝石・長石・角閃石	普通	にぶい黄橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ ヘラナデ	
51	H-11	土師器 甕	口縁～胴部 1/4	23.2	(12.4)	–	長石・輝石・石英・角閃石	普通	にぶい橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ ヘラナデ	
52	H-11	土師器 甕	口縁～胴部 1/2	19.5	(19.6)	–	長石・石英・角閃石・輝石	良	にぶい黄橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ ヘラナデ	
53	H-11	土師器 甕	口縁～胴部 1/4	<19.5>	(18.0)	–	長石・角閃石・石英・輝石	普通	明赤褐	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヘラナデ	外面に粘土付着 風化激しい
54	H-11	土師器 甕	胴～底部 1/4	–	(11.0)	4.0	長石・輝石	普通	にぶい橙	外：ケズリ 内：ナデ	外面に厚く粘土付着
55	H-11	土師器 付付壺	底～脚部 1/8	–	(7.3)	–	長石・石英・角閃石	良	にぶい褐	外：ケズリ 縦付近ヨコナデ 内：ナデ	脚部欠損
56	H-11	土師器 付付壺	胴～橋端部 1/6	–	(11.1)	<13.4> 橋端部	角閃石・長石・石英	良	にぶい赤褐	外：ケズリ 脚部ヨコナデ 内：ナデ	
57	H-11	土師器 ミニチュア壺	口縁～底部 2/3	8.9	8.4	–	長石・角閃石・石英	普通	明赤褐	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヘラナデ→ヨコナデ	
58	H-11	土師質土器 椀	口縁～底部 9/10	16.1	9.8	–	角閃石 長石	普通	橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデナデ	底部に径約 4mm の穿孔 2/2 以上
59	H-11	土師器 坏	口縁～底部 3/4	<17.0>	(5.5)	–	輝石・長石	良	にぶい橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデナデ	
60	H-11	土師器 坏	口縁～底部 3/5	<14.4>	5.7	–	長石・角閃石・小礫・輝石	良	橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデナデ	整形時口縁部にぶみ
61	H-11	土師器 坏	完形	12.5	4.0	–	石英・長石・角閃石	普通	橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデナデ	
62	H-11	土師器 坏	口縁～体部 1/2	5.6	3.1	–	角閃石・石英・長石 含々微量	良	にぶい橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ	
63	H-11	土師器 坏	口縁～底部 3/4	12.4	4.3	–	輝石・長石・角閃石	良	橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデナデ	有段口縁坏
64	H-11	須恵器 甕	肩部 破片	–	(3.8)	–	長石	普通	灰黄	外：ロクロ整形 平行タタキ 内：ロクロ整形 同心円当具	在地産（西毛ヲ）
65	H-11	須恵器 フラスコ瓶	胴部下位～体部 破片	–	(13.4)	–	長石・角閃石・石英	普通	灰	外：ロクロ整形 タタキ 内：ロクロ整形	東海産、68 と同一個体か
66	H-12	土師器 坏	口縁～底部 3/4	10.2	2.9	–	角閃石・長石	良	橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ	
67	H-12	土師器 坏	口縁～底部 8/10	10.4	3.3	–	角閃石・長石	良	橙	外：ヨコナデ ユビオサエ ケズリ 内：ヨコナデ	
68	H-12	須恵器 壺	口縁部 破片	<9.8>	(2.2)	–	長石・角閃石	良	灰白	外：ロクロ整形 内：ロクロ整形 自然釉	東海産、65 と同一個体か
69	H-13	土師器 甕	口縁～底部 3/4	<18.0>	20.4	9.1	長石・角閃石	良	にぶい橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ ヘラナデ	
70	H-13	土師器 甕	口縁～胴部 1/4	20.2	(10.0)	–	角閃石・長石	普通	にぶい黄橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ ヘラナデ（木口状）	
71	H-13	土師器 甕	口縁～胴部 1/5	16.0	(7.5)	–	輝石・角閃石・長石	良	にぶい橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ ヘラナデ	
72	H-13	土師器 甕	胴～底部 1/3	–	(16.2)	3.8	長石・角閃石	良	にぶい橙	外：ケズリ 内：ヘラナデ	
73	H-13	土師器 鉢	口縁～底部 2/3	<17.8>	(9.3)	–	長石	良	橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ ヘラナデ	外面にモグラ爪痕
74	H-13	土師器 坏	ほぼ完形	12.4	4.0	–	輝石・長石 含々微量	良	橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ	
75	H-13	土師器 坏	完形	12.0	4.5	–	長石・輝石	良	橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデナデ	

〈 〉推定値　（ ）残存値

Tab.14　出土遺物観察表（3）

掲載No	遺構	種別/器種	部位/残存	法量（cm）長さ	幅	厚さ	重さ（g）	石材	調整・特徴	備考
76	H-13	石製品 砥石	1/2	(7.1)	5.1	4.8	232 g	凝灰岩		

掲載No	遺構	種別/器種	部位/残存	法量（cm）口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	調整・特徴	備考
77	H-14	土師器 坏	口縁～底部 4/5	13.2	4.6	—	石英・角閃石・長石	良	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ	内外面に黒色斑
78	H-14	土師器 坏	口縁～底部 1/2	11.0	4.0	—	長石・石英・角閃石・小礫	良	明赤褐	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ 指頭痕	内面に黒色斑
79	H-14	土師器 坏	口縁～底部 8/10	11.6	3.7	—	長石・角閃石	普通	にぶい橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ 指頭痕	
80	H-15	須恵器 蓋	口縁部 破片	<16.0>	(2.5)	—	角閃石	普通	灰	外:ロクロ整形 内:ロクロ整形	
81	H-15	土師器 坏	口縁～底部 1/8	<10.6>	(2.9)	—	角閃石・長石・輝石	普通	明赤褐	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ	
82	H-15	土師器 甕	口縁部 破片	<19.0>	(4.0)	—	角閃石・長石・輝石	普通	橙	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	
83	H-17	須恵器 埦	口縁～体部 1/8	<13.0>	(3.7)	—	輝石・角閃石・長石	普通	灰白	外:ロクロ整形 内:ロクロ整形	
84	H-17	須恵器 蓋	天井～体部 1/8	—	(1.7)	—	輝石・長石・角閃石	不良	にぶい橙	外:ロクロ整形 天井部回転ケズリ 内:ロクロ整形	鈕剥落、天井部に回転糸切痕、表面のみ酸化
85	H-18	須恵器 坏	口縁～体部 1/8	<14.4>	(3.4)	—	角閃石・輝石・長石	普通	灰黄	外:ロクロ整形 内:ロクロ整形	
86	H-19	土師器 甕	口縁～胴部 1/8	<22.0>	(7.4)	—	角閃石・長石・輝石	普通	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ ヘラナデ	
87	B-2	土師器 坏	口縁～体部 破片	<10.2>	(1.5)	—	長石・角閃石	普通	にぶい黄褐	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ	
88	B-2	土師器 坏	口縁～底部 1/8	<13.0>	(2.7)	—	角閃石・長石・輝石	普通	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ	
89	B-4	土師器 坏	口縁～底部 破片	<12.0>	(2.2)	—	角閃石・長石・輝石・石英	普通	明赤褐	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ	
90	B-4	土師器 坏	体部 破片	—	(1.8)	—	長石・角閃石・石英	普通	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ	
91	B-6	土師器 坏	口縁～底部 破片	<14.0>	(2.4)	—	角閃石・長石・石英	普通	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ	
92	B-6	土師器 坏	口縁～底部 破片	<15.0>	(2.7)	—	角閃石・長石	普通	明赤褐	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ	
93	B-7	土師器 坏	口縁～底部 1/8	<10.6>	(3.5)	—	輝石・長石・角閃石	普通	明赤褐	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ	
94	D-1	土師器 坏	口縁～底部 2/3	10.6	3.6	—	長石・角閃石	普通	明赤褐	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ	
95	D-1	土師器 鉢	口縁～底部 2/3	<29.9>	18.4	11.2	長石・輝石・石英・角閃石	普通	にぶい橙	外:ヨコナデ ケズリ ナデ 内:ヨコナデ ナデ	
96	D-1	土師器 壺	胴～底部 1/4	—	(9.7)	10.0	角閃石・長石・輝石	普通	にぶい橙	外:ケズリ 内:ナデ	底部摩滅目立つ
97	D-1	須恵器 甕	口縁～胴部 1/3	<22.4>	(32.5)	—	長石・輝石	普通	灰白・にぶい赤褐	外:ヨコナデ 平行タタキ 内:ヨコナデ 同心円当具	表面やや酸化
98	D-1	須恵器 壺	口縁～胴部 合成	<14.8>	—	—	長石・輝石	普通	灰	外:ロクロ整形 平行タタキ 内:ロクロ整形 同心円当具	下位は２片から図上復元
99	D-1	須恵器 短頸壺	口縁～高台部 1/4	<12.0>	—	<12.8>	長石・輝石・小礫	良	灰	外:ロクロ整形 底部回転ヘラケズリ 内:ロクロ整形	肩部以上は２片から図上復元
100	D-1	須恵器 短頸壺	口縁～肩部 破片	<12.0>	(3.5)	—	長石・角閃石	普通	黄灰	外:ロクロ整形 内:ロクロ整形	
101	D-1	須恵器 長頸壺	肩～胴部 1/5	—	(8.4)	—	長石・輝石	普通	暗灰黄	外:ロクロ整形 上半降灰・下半釉ダレ 内:ロクロ整形	自然釉 湖西産？
102	D-1	須恵器 長頸壺	頸～底部 4/5	—	(24.0)	—	長石・輝石	普通	褐灰	外:ロクロ整形 肩部カキ目 降灰 下位回転ヘラケズリ 内:ロクロ整形	底部に高台部剥離痕
103	D-1	須恵器 長頸壺	胴～高台部 3/4	—	(13.7)	10.3	長石・輝石	良	灰白 灰	外:ロクロ整形 上半降灰 内:ロクロ整形	
104	D-1	須恵器 長頸壺	肩～底部 3/4	—	(13.0)	—	長石・輝石	良	灰白 暗灰	外:ロクロ整形 下位回転ヘラケズリ 内:ロクロ整形	高台部欠損
105	D-1	須恵器 蓋	天井～口縁部 1/2	<16.9>	(2.4)	—	輝石・長石	良	灰	外:ロクロ整形 上位回転ヘラケズリ 内:ロクロ整形	
106	D-1	須恵器 坏	口縁～底部 3/4	14.4	3.9	8.8	角閃石・長石・輝石微量・石英微量	普通	灰黄	外:ロクロ整形 腰部ケズリ 底部回転ヘラケズリ 内:ロクロ整形	底部に墨書「厨」
107	D-1	須恵器 坏	ほぼ完形	12.6	4.1	6.8	長石・角閃石	良	灰	外:ロクロ整形 ミズビキ 底部回転糸切り 内:ロクロ整形	手ずれ目立つ
108	D-1	須恵器 坏	口縁～底部 1/2	13.8	3.7	8.0	長石・輝石	良	褐灰	外:ロクロ整形 底部回転ヘラ切り 内:ロクロ整形	手ずれ目立つ
109	D-1	須恵器 坏	口縁～底部 1/3	<12.0>	3.8	6.6	長石・角閃石	良	灰白	外:ロクロ整形 底部右回転糸切り 内:ロクロ整形	巻上痕残る 軟質？
110	D-1	須恵器 坏	口縁～底部 1/3	<12.4>	3.6	7.4	長石・石英微量	普通	灰	外:ロクロ整形 底部右回転糸切り 内:ロクロ整形	底部やや酸化
111	D-1	須恵器 埦	体～高台部 1/3	—	(4.5)	7.7	輝石・長石	不良	灰黄	外:ロクロ整形 内:ロクロ整形	
112	D-1	須恵器 埦	体～高台部 1/2	—	(3.6)	7.2	長石・角閃石・小礫	普通	灰白	外:ロクロ整形 底部右回転糸切り 内:ロクロ整形	軟質
113	P-26	土師器 坏	口縁～底部 1/8	<12.0>	(3.7)	—	角閃石・長石・石英	普通	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ	
114	P-46	土師器 坏	口縁～底部 1/8	<12.4>	(2.2)	—	長石・角閃石・輝石・石英	普通	橙	外:ヨコナデ ケズリ 内:ヨコナデ	

〈 〉推定値　（ ）残存値

Tab.15　出土遺物観察表（4）

掲載No.	遺構	種別／器種	部位／残存	法量（cm）			胎土	焼成	色調	調整・特徴	備考
				口径	器高	底径					
115	P-47	須恵器 甕	胴～同部 破片	—	(2.9)	—	長石・角閃石・輝石	普通	灰	外：ロクロ整形 平行タタキ 内：ロクロ整形 同心円当具	断面のみ微化
116	P-122	須恵器 甕	胴部 破片	—	(8.2)	—	角閃石・長石	良	灰白	外：平行タタキ 内：同心円当具	
117	P-206	土師器 坏	口縁～底部 1/4	<12.4>	(3.3)	—	長石・角閃石	普通	明褐	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ	
118	P-206	土師器 坏	口縁～底部 1/8	<15.0>	(3.9)	—	角閃石・長石・輝石	普通	橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ	
119	P-218	土師器 坏	口縁～底部 1/3	<11.2>	(3.8)	—	角閃石・長石	良	橙	外：ヨコナデ 指頭痕 ケズリ 内：ヨコナデ	
120	P-219	土師器 坏	口縁～底部 1/8	<10.4>	(3.0)	—	輝石・長石・角閃石・石英微量	普通	橙	外：ヨコナデ ケズリ 内：ヨコナデ	

掲載No	遺構	種別／器種	部位／残存	法量（cm）				石材	調整・特徴	備考
				長さ	幅	厚さ	重さ（g）			
121	P-230	複合石製品	完形	12.0	7.8	3.8	592 g	安山岩	凱石・磨り石として使用か、表面に刃痕	

掲載No	遺構	種別／器種	部位／残存	法量（cm）			胎土	焼成	色調	調整・特徴	備考
				口径	器高	底径					
122	試掘	須恵器 坏	口縁～底部 1/2	<14.4>	3.2	4.2	輝石・長石	普通	灰黄	外：ロクロ整形 内：ロクロ整形	

（ ）推定値　〔 〕残存値

Tab.16　出土遺物観察表（5）

掲載No.	遺構	種別	器種	重さ（g）	石材	備 考
123	H-1	石製品	礫編石	446 g	粗粒玄武岩	
124	H-1	石製品	礫編石	544 g	安山岩	
125	H-5	石製品	礫編石	370 g	粗粒玄武岩	
126	H-7	石製品	礫編石	698 g	安山岩	摩滅痕あり
127	H-7	石製品	礫編石	394 g	安山岩	
128	H-7	石製品	礫編石	752 g	粗粒玄武岩	
129	H-9	石製品	敲石	564 g	安山岩	端部に敲打痕あり
130	H-9	石製品	礫編石	628 g	安山岩	端部に敲打痕あり
131	H-9	石製品	礫編石	398 g	安山岩	端部に敲打痕あり
132	H-9	石製品	礫編石	588 g	砂岩	端部に敲打痕あり
133	H-10	礫	—	610 g	安山岩	一部に被熱痕あり
134	H-11	石製品	礫編石	788 g	安山岩	端部に敲打痕あり
135	H-11	石製品	礫編石	732 g	安山岩	
136	H-11	石製品	礫編石	720 g	粗粒玄武岩	
137	H-11	石製品	磨石ヶ	424 g	粗粒玄武岩	
138	H-11	石製品	礫編石	390 g	安山岩	端部に敲打痕あり

掲載No.	遺構	種別	器種	重さ（g）	石材	備 考
139	H-11	石製品	礫編石	314 g	粗粒玄武岩	
140	H-12	石製品	礫編石	274 g	礫岩	端部に敲打痕あり
141	H-13	石製品	礫編石	734 g	安山岩	
142	H-13	石製品	礫編石	696 g	粗粒玄武岩	
143	H-13	石製品	礫編石	578 g	安山岩	端部に敲打痕あり
144	H-13	石製品	礫編石	452 g	安山岩	
145	H-13	石製品	礫編石	440 g	安山岩	被熱痕あり
146	H-13	石製品	礫編石	444 g	粗粒玄武岩	1/2
147	H-14	石製品	礫編石	818 g	安山岩	端部に敲打痕あり
148	H-16	石製品	礫編石	582 g	安山岩	端部に敲打痕
149	D-1	石製品	礫編石	980 g	安山岩	
150	D-1	石製品	礫編石	446 g	安山岩	被熱痕あり（煤付着）
151	D-1	小礫	—	66 g	粗粒玄武岩	磨り石として使用か
152	D-1	石製品	礫編石	590 g	安山岩	被熱痕あり
153	D-1	石製品	礫編石	268 g	安山岩	
154	D-1	石製品	礫編石	540 g	安山岩	被熱痕あり

※磁性結晶が、安山岩よりも小さくて数が少ないものは粗粒玄武岩と分類した。

Ⅵ　上泉下中峯遺跡から出土した炭化材の樹種

はじめに

上泉下中峯遺跡は、赤城山南麓斜面の台地上に位置する。発掘調査により、古墳時代後期～平安時代の竪穴建物跡、奈良時代の掘立柱建物跡、中近世の溝跡や井戸跡、奈良時代や縄文時代の土坑、奈良・平安時代のピットが検出されている。

本報告では、7 世紀代の竪穴建物跡である H-11 から出土した炭化材を対象として用材選択に関する資料を得るための樹種同定を実施する。

1. 試料

試料は、7 世紀代の竪穴建物跡である H-11 から出土した炭化材である。炭化材は主に壁際から出土しており、重複関係等を観察した上で 33 点（CW1 ～ 33）を採取した。

2. 分析方法

炭化材を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の割断面を作製し、アルミ合金製の試料台にカーボンテープで固定する。炭化材の周囲を樹脂でコーティングして補強する。走査型電子顕微鏡（低真空）で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）や Wheeler 他（1998）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

3. 結果

樹種同定結果を Tab.17 に示す。炭化材は広葉樹 2 分類群（コナラ属クヌギ節、コナラ属コナラ節）に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属クヌギ節　Quercus sect. Cerris　ブナ科

環孔材。孔圏部は 1 ～ 3 列、孔圏外で急激に道管径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性、単列、1 ～ 20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ節　Quercus sect. Prinus　ブナ科

環孔材。孔圏部は 1 ～ 2 列、孔圏外で急激に道管径を減じたのち、多数が集まって火炎状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性、単列、1 ～ 20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

4. 考察

7 世紀代の竪穴建物跡である H-11 から出土した炭化材は、主に北壁および西壁の壁際から床面にかけて出土しており、建築部材の一部が炭化、残存したと考えられる。これらの炭化材は、大部分がクヌギ節であり、他にコナラ節が 1 点のみ認められた。クヌギ節は、日本に 2 種（クヌギ、アベマキ）があるが、クヌギ節が関東地方に広く分布するのに対し、アベマキは主に西日本に分布しており、関東地方には分布していない。そのため、出土したクヌギ節はクヌギの可能性が高い。クヌギは、二次林や河畔等に生育する落葉高木である。コナラ節は、日本に 4 種（コナラ、ミズナラ、ナラガシワ、カシワ）が分布する。本遺跡周辺では二次林の主要な構成種で

Tab17.　樹種同定結果

遺構	時期	番号	出土位置	軸方向	形状	樹種	備考
H-11	7 世紀代	CW1	西壁北側の壁に近い床面	北西	分割材？（樹芯無）	コナラ属クヌギ節	垂木
		CW2	北壁西側の壁に近い床面	北東	柾目板状	コナラ属コナラ節	
		CW3	北壁西側の壁に近い床面	南北	柾目板状	コナラ属クヌギ節	
		CW4	2,3 の南側床面上	東西	破片	コナラ属クヌギ節	
		CW5	西壁北側の壁に近い床面	東西	分割材	コナラ属クヌギ節	
		CW6	北壁西側の壁に近い床面	北西	破片	コナラ属クヌギ節	3 と 4 の間
		CW7	北壁中央付近壁面	南北	破片	コナラ属クヌギ節	
		CW8	北壁中央付近壁面	南北	破片	コナラ属クヌギ節	
		CW9	北壁中央付近床面	垂直	半裁角材	コナラ属クヌギ節	
		CW10	北壁中央付近床面	南北	ミカン割状	コナラ属クヌギ節	9 に隣接
		CW11	北壁中央付近床面	東西	芯持丸木？	コナラ属クヌギ節	直径 6cm以上
		CW12	北半床面上	東西	分割材？	コナラ属クヌギ節	
		CW13	北半床面上	東西	ミカン割状	コナラ属クヌギ節	12 と平行
		CW14	北半床面上	南方	分割材	コナラ属クヌギ節	
		CW15	北壁東側の壁面	垂直	ミカン割状	コナラ属クヌギ節	垂木
		CW16	北壁東側の壁に近い床面	東西	分割材	コナラ属クヌギ節	
		CW17	北壁東側の壁に近い床面	東西	分割材	コナラ属クヌギ節	
		CW18	北壁東側の壁に近い床面	東西	分割材	コナラ属クヌギ節	
		CW19	北壁東側の壁に近い床面	南北	ミカン割状	コナラ属クヌギ節	
		CW20	北壁東側の壁に近い床面	南北	分割材	コナラ属クヌギ節	19 の下
		CW21	北壁東側の壁に近い床面	南北	芯持丸木？	コナラ属クヌギ節	
		CW22	北半床面上	東西	ミカン割状	コナラ属クヌギ節	
		CW23	北半床面上	南北	ミカン割状	コナラ属クヌギ節	
		CW24	北半床面上	南北	板目板状	コナラ属クヌギ節	26 の上
		CW25	北半床面上	東西	芯持丸木？	コナラ属クヌギ節	26 の下
		CW26	北半床面上	南北	ミカン割状	コナラ属クヌギ節	21 の延長か
		CW27	北半床面上	東西	不明	コナラ属クヌギ節	26 の下
		CW28	北半床面上	東西	不明	コナラ属クヌギ節	
		CW29	東壁北側の壁に近い床面	南方	芯持丸木？	コナラ属クヌギ節	
		CW30	東壁北側の壁に近い床面	東西	不明	コナラ属クヌギ節	
		CW31	西壁南側の壁に近い床面上	東西	不明	コナラ属クヌギ節	
		CW32	西壁南側の壁に近い床面上	東西	不明	コナラ属クヌギ節	
		CW33	西壁南側の壁に近い床面上	東西	分割材	コナラ属クヌギ節	

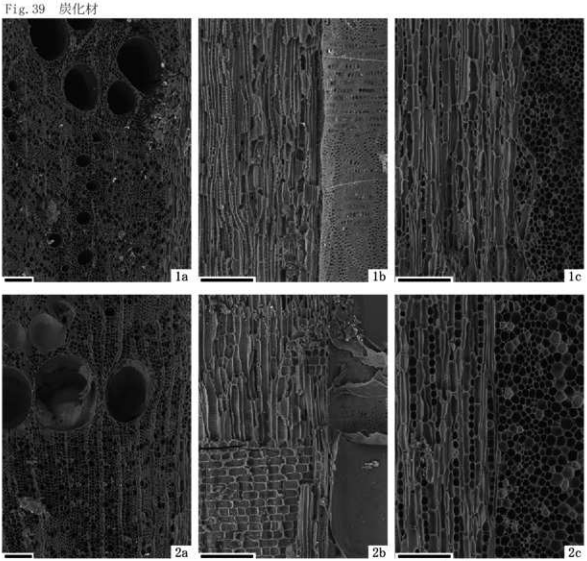
あるコナラが一般的であるが、赤城山の上部の落葉広葉樹林にはミズナラも生育している。また、石田ほか(2016)のデータベースによれば、現在の関東地方にはほとんど分布していないナラガシワが奈良時代頃までは関東地方に分布していたことが明らかとなっており、群馬県でも富田大泉坊 B 遺跡（前橋市）の古墳時代～奈良時代とされる種実試料中にナラガシワの果実が確認されている。本遺跡の東側には谷と、谷に続く緩斜面が形成されている。こうした緩斜面にクヌギ節（クヌギ）やコナラ節が生育していた可能性がある。

クヌギ節やコナラ節の木材は、いずれも重硬で強度が高い。材質を考慮すれば、建築部材として強度の高い木材を選択・利用したことが推定される。伊東・山田（2012）のデータベースによれば、赤城山南麓斜面では、長岡遺跡（旧粕川村）の 7 世紀後半とされる竪穴住居跡出土炭化材 5 点が全てクヌギ節に同定されており、今回の結果とも整合的である。

一方、本遺跡に比較的近い堀越中道遺跡（旧大胡町）では、9 世紀とされる竪穴住居跡出土炭化材について樹種同定が実施されており、クヌギ節やクリを中心として、コナラ節やウコギ属が混じる組成が報告されている。

また、湯之口遺跡（旧粕川村）では、平安時代とされる竪穴住居跡出土炭化材にコナラ節やクリを中心としてクマシデ属やイヌエンジュ属が混じる組成が報告されている。9 世紀や平安時代とされる資料では、クリの利用が多い点で 7 世紀代の用材選択と異なる傾向がある。赤城山南麓地域において、8 ～ 9 世紀の建築部材にクリが加わるような何らかの変化がおきた可能性がある。クリが増えた背景については、古植生の検討や発掘調査成果等も含めて検証する必要がある。（高橋 敦）

Fig. 39　炭化材



1. コナラ属クヌギ節（H-11;CW-23）
2. コナラ属コナラ節（H-11;CW-2）
　a：木口，b：柾目，c：板目

各写真のスケールは0.1mm

引用文献

林　昭三.1991.日本産木材　顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
石田弥紀・工藤雄一郎・百原　新.2016.日本の遺跡出土大型植物遺体データベース.植生史研究.24-1,日本植生史学会.18-24.
伊東隆夫.1995.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料.31.京都大学木質科学研究所.81-181.
伊東隆夫.1996.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料.32.京都大学木質科学研究所.66-176.
伊東隆夫.1997.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料.33.京都大学木質科学研究所.83-201.
伊東隆夫.1998.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料.34.京都大学木質科学研究所.30-166.
伊東隆夫.1999.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料.35.京都大学木質科学研究所.47-216.
伊東隆夫・山田昌久（編）.2012.木の考古学　出土木製品用材データベース.海青社.444p.
島地　謙・伊東隆夫.1982.図説木材組織.地球社.176p.
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）.1998.広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）.海青社.122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

前橋市
荻窪町
0058
0056
0059
0060
上泉下中峯遺跡
荻窪東原Ⅱ遺跡
荻窪東原Ⅲ遺跡
荻窪東原Ⅳ遺跡
荻窪東原Ⅴ遺跡
荻窪東原Ⅵ遺跡
荻窪東原Ⅶ遺跡
荻窪東原Ⅷ遺跡
荻窪東原Ⅸ遺跡
荻窪東原Ⅹ遺跡
荻窪東原Ⅺ遺跡
荻窪東原Ⅻ遺跡
荻窪東原ⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅡ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅢ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅣ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅤ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅥ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅦ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅧ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅨ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅠ遺跡
荻窪東原ⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩⅩ

Ⅶ　成果と問題点

今回の調査では、奈良・平安時代の遺構・遺物を中心に、想定以上の成果があった。以下、調査・報告書作成を通じて気が付いたことの中から、特に補足と掘下げた検討が必要と考えられる事象に触れておきたい。

1　改修を重ねた竪穴建物跡

確認された竪穴建物跡の内、７世紀後半～末の大形竪穴建物跡である H-11・12 では、竈とそれに伴う貯蔵穴の付け替え、柱の掘え直しが顕著で、H-11 では竈・貯蔵穴で３回と柱穴で２回、H-12 では竈・貯蔵穴で２回と柱穴で３回の改修が想定された。また、H-5（８世紀前半）・H-10（７世紀後半）では柱穴や壁周溝から２回の改修が想定されるが、竈は付け替えすること無く１箇所で、竈両側の壁を外側に 10cm程度拡張（壁の切直し）した結果、竈袖の付根が基盤ロームで掘り上がった。

こうした竪穴建物跡の在り方は、既にⅤ章にて指摘したように本遺跡を含む「荻窪遺跡群」の特徴であるが、他の集落遺跡では類例を聞かないものである。類例としては、かつて報告者が調査・報告を担当した伊勢崎市西太田遺跡６の６～７世紀代の大形竪穴建物跡の例（永井 2017）があり、遺跡が古利根川端で、古墳石室用材の集積が確認されるという状況証拠から、古墳築造に伴って石室用材を河原から拾い上げる等の労働が農閑期に行われた結果と考えた。つまり通年居住ではない、労働に伴う宿舎等を想定した。

本遺跡の竪穴建物跡に立ち返ると、西太田遺跡６と全く同じ使用方法とサイクルが想定されるが、７世紀後半以降という新規に古墳が築造されるとは考え難い時期であるという点、そもそも古墳が遺跡周辺に少ないという状況から、対象となる労働は少なくとも古墳築造で無いことは確かである。本遺跡を、より標高の低い位置に普遍的に分布する前時代（７世紀前半以前）集落の上限を超えて高地へ進出した遺跡と位置付けるならば、労働自体の目的は山野の開発であったと考えられる。ただ、そう捉えた場合、前代の古墳時代社会において開発されていなかった山野を何故開発したのか、前代にはある種の禁忌でもあったであろう山野の開発を如何に可能としたのか、開発に従事した人々の母村はどこであったのか、開発を指導したのは誰なのか、派生する問題は多岐に亙る。現在目下整理作業中の荻窪倉兼Ⅲ遺跡の成果も踏まえ、再考の機会をもちたい。

2　円形有段遺構についての補足

土坑のうち北側調査区の北端近くで確認された１号土坑（D-1）は、口径と深さが共に約 3m の巨大な円形土坑で、底面の中央は円形に一段下がり、結果として段を有している。こうした特徴の土坑は、主に栃木県域で円形有段遺構と称されているので今回もそれに倣う。円形有段遺構は中山晋氏の検討によって「氷室」と推定されており、本遺跡の事例はその可能性を肯定こそしないが否定する要素も無い。

本遺構の堆積土層をみると、最下層は薄く締りの弱い風成堆積層、その上にはロームや旧表土である As-C を含む黒色土を主体とする人為的な埋め戻しを思わせる層、中位以上は土器や石を多量に含む自然堆積的な層である。下層の埋め戻し的な層は、中山氏も指摘しているが遺構周囲に想定される周堤帯由来と考えられるものであるが、その大元は遺構を開鑿した際の発生土である。具体的な計算を経たものではないが、周堤帯上端から遺構底部までの深さは５m以上であったと思われる。

遺物は中層に集中し、上位になるほどに出土量は少なくなる。遺物のほとんどは須恵器・土師器で、８世紀前半～９世紀前半までと時間的な幅が広い。また、須恵器の比率が高いのも特徴で、須恵器には長頸壺や短頸壺、大小の甕といった貯蔵具が多い。甕の一部は西に至近の H-1 出土遺物と遺構間接合しており、開口時期の一致を教えてくれる。土器以外には馬歯があり、樋泉岳二氏に写真鑑定して頂いたところ、上下の歯が齟齬なく出土していることから頭部としてもたらされ、頭骨は消失して歯が遺ったものと予想される。

本遺構からの数ある出土遺物の中で最も注目されるのは、８世紀中頃の須恵器坏底部外面に墨書された「厨」である。言うまでもなく奈良時代における厨は、国府や郡衙といった公的機関の中に置かれた給食施設である。

墨書土器自体の出土が僅少である８世紀代ということを勘案すれば、今回出土した「厨」墨書土器は、それなりの階層にある識字者＝役人が、厨家の備品として記したものとすべきだろう。些か短絡的ではあるが、１号土坑＝円形有段遺構≒氷室、「厨」墨書土器＝厨家の備品と理解しておきたい。

なお、群馬県内で同種の土坑を探すと、前橋市内では柳久保遺跡群の頭無遺跡と西原古墳群・稲荷山遺跡（旧粕川村）、伊勢崎市では西太田遺跡６、川上遺跡・鷹巣遺跡（旧赤堀町）桐生市の峰岸遺跡（旧新里村）で確認され、基本的には赤城山南麓に分布しているが標高の低い西太田遺跡のような例もあり、必ずしも冷涼な気候を求めて高所に造られている訳ではないようである。

3 「厨」墨書と掘立柱建物跡群

前節で導いたように「厨」墨書土器は厨家の備品、つまり１号土坑は厨家の施設の一つである可能性が考えられた。そうした仮説に立った時、注目されるのが軸を揃えて北東から南西に並ぶ３～10号掘立柱建物跡であるが、調査区と調査期間の制約もあって全貌は明らかでなく、詳細な時期と変遷も現状では不鮮明である。

ところで厨家と考えられる遺構が発掘調査によって明らかとなっている事例は、思いのほか少ない。『上野国交替実録帳』は11世紀前半代の郡衙の実態を具体的に伝える基本史料であるが、それによれば郡衙の施設には「正倉」「郡庁」「館」「厨家」となっており、少なくとも厨家は帳簿上独立した施設であることが知れる。また、『実録帳』では厨家には「竈屋」の記載から調理場があり、「納屋」「備屋」「酒屋」の記載からは食料品や食器を収納する施設も設けられていたと理解されている。厨家と考えられる遺構群としては、常陸国鹿島郡衙（茨城県神野向遺跡）の郡庁東方地区、播磨国明石郡衙（兵庫県吉田南遺跡）の東北部建物群がある。それによると厨家は郡庁や館に比べて小規模な掘立柱建物によって構成されており、権威誇示の形式的側面をもたない、実務担当部署としての性格が表れたものと理解されている。また、吉田南遺跡出土木簡の解釈からは厨家には出先機関も存在していたと理解されている。さらに、「厨」墨書土器は竪穴建物を主体とする集落遺跡からの出土例もあり、これについては郡衙以外の、寺院や庄所に伴う厨家の存在も想定されている（山中1994）。

本遺跡に話を戻すと、「厨」墨書土器の出土を根拠に、１号土坑（円形有段遺構）が厨家の一施設としての氷室であった可能性が考えられる訳だが、その場合に想定される厨家は、郡衙ないしはその別院に直接伴う施設なのか、あるいは出先機関なのか、むしろ郡衙以外の施設に伴うのか、いくつかの可能性が考えられる。詳細な検討は今後の隣接地の調査を俟たなければならないことは言うまでもないし、今はそれに応えられる用意も無いのが実態である。とはいえ今回は、３～10号掘立柱建物跡が勢多郡衙別院に伴う厨家で、１号土坑（円形有段遺構）はそれに伴う氷室であったと考えたい。竪穴部の規模に比して大規模な石組煙道の竈をもつ４号竪穴建物跡については、厨家の調理場である「竈屋」の可能性もあるだろう。（永井）

4 上泉下中峯遺跡の竈について

（1） はじめに

本遺跡は７世紀前半より９世紀にわたる竪穴建物・掘建柱建物群・土坑が確認され、律令期の社会を垣間見ることができる遺構群である。近接して調査した荻窪倉兼Ⅲ遺跡や近隣の遺跡様相とも合わせて地域社会の解明の情報に溢れた遺跡である。今回の竈調査では、新たに認識できた事柄がある。

① 近年「空焚き」工程が必須であることが分かってきた。本遺跡調査では空焚き工程を含めた構築工程が確認できた。

② 本遺跡調査で初めて煙道空間を保持する装置として、焼土塊によるトンネル状の構造物が確認できた。このような構造物は全く想定していなかったが、数棟の竈で確認できた。特筆すべき事項である。

本稿では竈についての上記２項について具体的に提示して、竈の存在意義を解明する材料としたい。

（2） 本遺跡竈の概要

① 竈と建物

調査した竪穴建物 21 棟中 14 棟に竈が設置されていた。竈の作り替えと建物の改修の関連性が 21 棟中 8 棟で具体的にとらえられている。H-1 ～ 5、H-10 ～ 12 では新旧の竈位置と新旧貯蔵穴位置が対応し、柱穴も複数確認できた。また建物壁際に巡らされる壁周溝にも複数回の切り直しが確認できた。当初この現象を竪穴建物の拡張作業によるものと解釈していたが、拡張にしては数 10cm の広がり方しか認められず、また竈位置を動かさず燃焼室部分を改修していると思われる例もある（H-1 ～ 5・H-10）。拡張というより建て替え時に多少崩れた壁を切りなおしている痕跡ではないか。とすれば、柱穴を抜き取って（上屋解体）のちに再度竪穴建物を利用する際の痕跡であったかと考える。このような作業をする意味が問われている。

② 燃焼部

本遺跡調査時点では燃焼室はほとんど壊されていた。H-11a・12a のように袖部が一部残存するも、燃焼室本体は平らにならされていることが多い。支脚も遺存せず、また痕跡も確認できていない。建物を引き払う際には、燃焼室内の鍋釜類は外され、天井部は崩落し、建物外部に突出していた構造材が一気に建物内に流入した様子が見られる（H-4・H-11・H-12 で顕著である）。H-10 では焚口天井部を取り外し、使用時の褒類を外している。燃焼室上部は崩落土で埋まり、下部と袖の一部のみが残存する。

この行為の意味合いについてはにわかには断じがたい。ただ貯蔵穴や柱穴に竈の崩壊材が流入していたこと（H-4・H-11 の例）を考慮すると、竈の解体及び崩壊時には、すでに家屋の解体（上屋や柱材の撤去）が行われていたと考えられる。今回、燃焼室の規模が計測できるものは H-10 のみであった。（Tab.2）

③ 煙道部と煙道空間

煙道は、かなりの部分で残存していることが確認できた。従来、燃焼部と煙道部も含めて竈は、すべて天井部が氾濫しているという思い込みがあった。しかし、実は煙道部は堅牢に作られており、煙道空間までも遺存していることが本遺跡でも確認された。竪穴建物壁より外側にあたる部分では、構築手順まで確認できる。本遺跡では煙道及び煙道空間が確認できたのは、北調査区の竈 11 基中すべてである。また H-11b・H-12b のような作り替え竈においても遺存していることが確認できた。煙道型式はすべて A の倒炎方式であった。註①

また煙道の形状は傾斜形、L 字形の 2 種が確認できた。H-4・H-13 の 2 棟が L 字である。他はすべて傾斜形（Tab.2 参照）である。なお、H-4 の L 字形の煙道部は大形川原石を数段小口積にする長煙道で、荻窪倉兼Ⅲ遺跡を通じてもこの 1 棟のみである。石積の技術を持った人達の存在が推測できる。

（3） 構築手順　空焚き痕跡

今回確認された手順は以下の通りである。　①掘方　②粘土の貼り付け　③空焚き　④充填と煙道空間設置　⑤充填と成形　⑥使用　の各段階が平面確認段階、土層断面観察段階、掘方調査段階でそれぞれ追認された。Fig.41・42・43・44 に示したように少なくとも数段階の手順を経て堅牢な煮炊き施設が作られていたことになる。北調査区の竈 11 基のうち、すべての竈で同様の手順が確認されている。

① 掘方　掘方は相対的に大きめに掘り込んでいる。H-13 は現状で竪穴部が浅く、煙道が壁内で立ち上がりを見せている。類例の少ない竈形状である。

② 粘土の貼り付け　地山掘り込みの後、灰白色、暗褐色、青灰色の粘土を貼り付けている。芯にする地山を掘り残している場合もある。この段階で袖、燃焼室が形成される。

③ 空焚き　竈の掘方や成形粘土中に強い被熱痕跡を示す層が見受けられた。さらにその内側に被熱痕跡が見られる。本来の竈は強い被熱痕の内側に入れ子状態で構築されていたと考えられる。二重の被熱痕は、本遺跡北

調査区の竪穴建物 11 棟のうちすべてで確認できた。外側の強い被熱痕跡層は竈構築手順のうち、竈基盤を堅牢にする、また、水分の侵入を防いで燃焼効率を上げるための作業（空焚き）痕跡であると考えられる。これは、須恵器窯・炭焼き窯構築手順と同様の手法である。窯と竈の構築技術が一連のものであることの証明になるだろう。従来の調査認識では、一番下、外側の焼土化面を使用時の被熱痕としており、実はこの面は構築時の空焚き痕跡であった。空焚き痕跡は竈構造理解にとって重要な鍵となる。私達の関わったいくつかの調査では、竈構築時には必ず空焚き作業を必ず行っていることが確認できている。（西太田 6 遺跡、棟高八幡街道遺跡 3・安中市海竜寺 3 等）空焚き痕跡を使用時の面として計測を行えば集計結果にも誤りが出てくるはずで、今後、基礎計測データの修正と集成を行う必要がある。

竈伝来と受容期には、火を扱う新来の工業技術、例えば須恵器生産・鉄生産・炭生産も伝来しており、それらには窯という共通の技術基盤が存在している。窯構築の際には、空焚き作業が組み込まれている。燃焼室と煙道の構造についても共通性が認められる。これらについては荻窪倉兼Ⅲ遺跡の報告とともに検討を重ねたい。

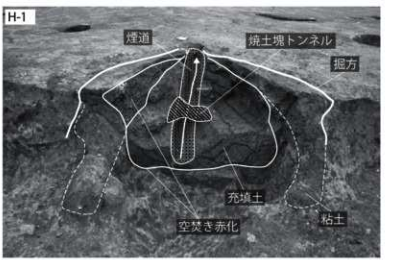
④ **充填と煙道空間設置**　空焚き後、燃焼部及び煙道部の天井を壊して大量の焼土と灰を土台にして、竹、板などで煙道空間をつくり周囲に粘性土を巻き付け、土器片なども補填材として使いながら混合土を充填している。

⑤ **充填と成形**　空焚き基盤の内側に粘土を充填しつつ、燃焼室（焚口等）の形成も行われる。④と一連の作業である。袖の積み上げの時点で、甕の設置も行われているだろう。

⑥ **使用**

H-1 竪穴建物の竈

構築手順が明確。①黄褐色の地山を大きく掘りぬく。②灰白色粘土を貼り込む。③空焚き。④粘土を充填して煙道空間確保の作業（焼土塊によるトンネル・ブリッジ）。⑤燃焼部と竈全体の成形・使用、引き払い後に燃焼室破壊（袖芯に暗褐色粘土が残る）。



H-2 竪穴建物の竈

構築作業が明確な竈。焼土塊によってトンネル状の構造物が作られている。空焚き後充填の痕跡が見える。袖部切り直し。

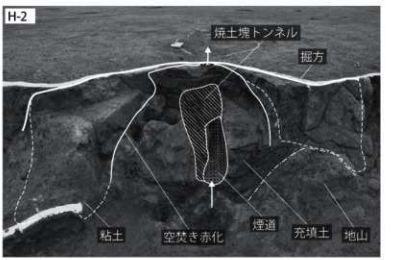


Fig.41　上泉下中峯遺跡の竈構築手順と焼土塊のトンネル施設（1）

H-11b 竈の作業手順

このカマドはH-11の旧竈で、燃焼部から煙道部の一部が壊されている。竪穴壁部の切り直しと壁崩落止の施設と思われる柱穴が確認されている。黄褐色の地山を掘り込んで、青灰色粘土を丁寧に貼り込む。左右で粘土の貼り込み方が異なる。この段階で空焚きを行って、粘土を充填しながら焼土塊によるトンネル状施設をつくる。燃焼部の破壊に対して煙道部が残存する好例である。

H-3 竪穴建物の竈

階段状に作られた煙道底面。断面からは焼土塊をトンネル状に覆う様子が観察できる。

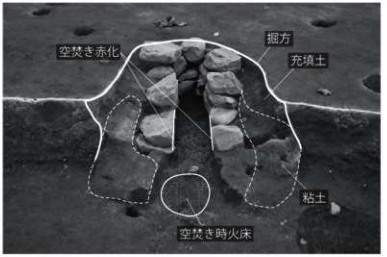
H-13 竪穴建物の竈

小規模竪穴建物の竈であるが、ここでも燃焼部は破壊され、煙道部に当たる部分が遺存。遺構が浅いので竈下部のみが観察される。煙道はL字状。中間に石を置き、上部から右部にかけて土器片を置き煙道空間を保持する。煙道出口は竪穴壁内に確認されるのみ。

Fig.42　上泉下中峯遺跡の竈構築手順と焼土塊のトンネル施設（2）

H-4 竪穴建物の竈

大形川原石を小口積みにして、煙道部壁体としている。長く平らに煙道を引き出してL字状に立ち上がる竈である。黄褐色の地山を掘り、石を安定させながら設置、前半部では灰褐色粘土を充填。石表面も粘土でカバーして空焚きを行う。手前の石内面に被熱痕跡が認められる。石全面に被熱痕が見られないのは粘土で覆っているためである。



煙道入り口の位置

大形川原石で築いた内側全体が煙道空間ではない。白線で示した左側の石の下部が本来の煙道である。周囲の土の状況はまず煙道空間とした下部に灰・炭層を敷き込み煙道空間を作り（竹などの材）周りを焼土や粘土で覆った様子が確認できる。H-4 は燃焼室が削平されたように壊されていたが、使用時の火床面と空焚き時の火床面が上下で確認できた。空焚き時の火床は大きめで、さらに床を充填して使用面としていることが分かる。

石組みの中に見える本来の煙道空間

上に示した竈横断面の煙道入り口とした土層は、ほぼ水平に延びて石積奥壁手前でL字形に屈曲する。この土の周囲は粘性の強い粘土で覆い土器片などで強化している。さらに上面は混合土で丁寧に充填して、竈上部を形作る。この堆積を観察すれば、上部構造が崩落したものとは解釈できない。川原石で積み上げた内面空間全体が煙道ではなく、実はその一部が煙道として機能していたことになる。このタイプの煙道を確認できたのは、初めてではないだろうか。調査と検証を行っていきたい。

Fig.43　H-4 竪穴建物の石組みと煙道の様子（1）

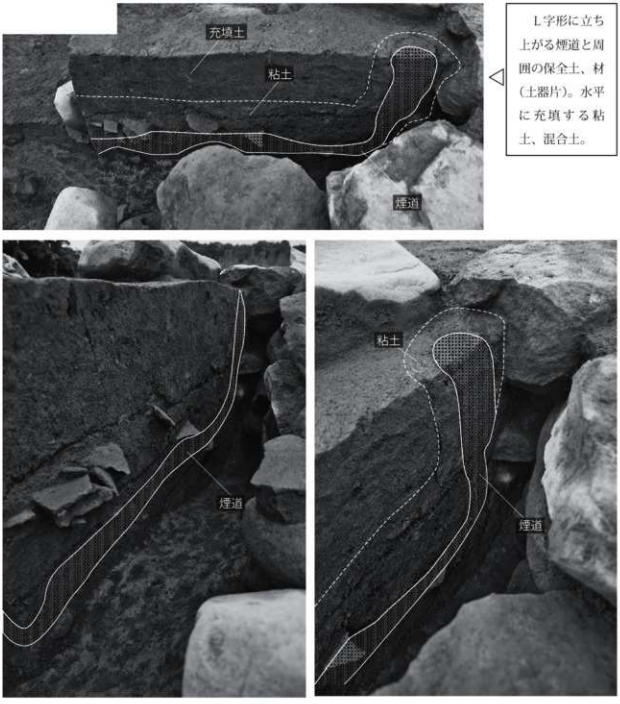


Fig.44　H-4 竪穴建物の石組みと煙道の様子（2）

（4） 焼土塊による構造物　煙道空間を保持するための仕掛け

煙道の途中に焼土塊を固めたような土で煙道空間を保護するようなトンネル、あるいはブリッジとも呼ぶような構造物が確認できた。焼土は強く均質に被熱しているが脆さもあり、その作り方は解明できていない。荻窪倉兼Ⅲ遺跡でも見られた施設だが、確信が持てず次回の検討課題にしようと話し合った遺構である。本遺跡ではH-1 ～ 3・5・11a・11b・12a の竈で検出できた。これらの竈は概ね 7 ～ 8 世紀代に所属し、煙道はAの倒炎方式、傾斜形である。L字の煙道では煙道途中に石を置いたり土器片で覆ったりと空間保持の努力が見られるが、役割としては同様のものと考えてよいだろう。傾斜形煙道に採用されている構造物である。本遺跡の調査で初めて確認できたことでもあり、時期的な手法であるのか、地域的な手法であるのかについては、今後注意深く資料を検討しなければならないだろう。ともあれ、当時の人々が竈を築くにあたって、煙道（排煙装置）をいかに重要視

していたかが推察できる構造物と言えよう。

以上本遺跡の竈について特徴を示したが、ここで確認できた事柄が各調査現場でも検討されるよう願っている。当時の産業技術と生活技術の関連性（技術連鎖）が明らかにされることに資するだろう。

註①　前提としての竈基本構造理解

竈は機能面から燃焼部と煙道の部位に分けられる。私達は二者の燃焼ガス排出の導き方に注目して基本構造を理解している。先学の研究においては、煙道部の形状による分類研究がなされているが、今回の分類視点の意味も研究史の検討等とともに次回の報告で示すこととする。

A　倒炎方式

燃焼室使用時の火床面高さと煙道入口高さが 5cm ～ 15 cm 程の高低差しかないもの。燃焼室に充満した燃焼ガスが一度上昇して、燃焼室奥壁下部に開口した煙道に下降して吸い込まれる構造である。

B　昇炎方式

燃焼室火床と煙道入口位置が 20cm 以上の高低差を持つもの。燃焼部では上昇する燃焼ガスを差し込んだ鍋釜（甕類）の上部後側から排煙する構造である。

C　還流方式

燃焼ガスは上昇し、燃焼室内を還流し焚口上部から排出される構造である。無煙道である。

これらの三方式は竈伝来・受容当初から存在しているが、時期的にも地域ごとにもばらつきがある。背景にある文化の違いが反映していると思われる。構造の違いが燃焼効率にかかわりがあるか否かには、実験的検証を行わなければならないと考えている。近々の課題である。

なお燃焼効率は火床と煙道出口の高さ（排煙高）、および距離により算出可能であるが、遺構の遺存状態によって統一的な対比資料となりえないため、今後の課題としたい。この三方式は竈受容当初から平安時代終末まで存在している。（外山）

参考文献

新井順二他 1987『小稲荷遺跡』前橋市教育委員会他
出浦崇 2016「寺と役所」『大室古墳の教室 考古学講演会・講座の記録 1』前橋市教育委員会事務局文化財保護課
伊藤順一他 2019 『海竜寺 3 遺跡』 安中市教育委員会
井上慎也他 2011 『加賀塚遺跡 2』 安中市教育委員会
尾崎喜佐雄 1971「オブ塚古墳」『前橋市史』第 1 巻
尾崎喜佐雄 1971「五代大日塚古墳」『前橋市史』第 1 巻
金子正人 1991『横俵遺跡群Ⅳ』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
川合功他 1988『芳賀東部団地遺跡Ⅱ』芳賀団地遺跡群 第 2 巻 前橋市教育委員会
木部日出雄 1980『富田遺跡群・西大室遺跡群・清里南部遺跡群』前橋市教育委員会
黒田晃他 2013 『宮谷戸遺跡』 高崎市教育委員会
群馬県教育委員会事務局 文化財保護課 2017『群馬県古墳総覧』群馬県教育委員会
駒倉秀一他 1990『横俵遺跡群 1』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
小峰篤他 2002『荻窪倉兼遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
小峰篤他 2001『荻窪鰯塚遺跡・荻窪東爪遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
坂口好考他 1997『鳥取福蔵寺遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
関口功一他 2003『中屋敷Ⅰ遺跡・明神山遺跡・伊勢山遺跡・中島遺跡・西裏遺跡』群馬県教育委員会
富沢敏弘 1981「桂正田稲荷塚古墳」『群馬県史』資料編 3　原始古代 3（古墳） 群馬県
外山政子 2018 「東日本の竈構造と構成要素再考―東西日本の煮炊きの違いを考えるために」『物質文化』98　物質文化研究会
外山他 2019 『棟高八幡街道遺跡 3』 高崎市教育委員会
中澤充裕 1981『松峯遺跡』前橋市教育委員会他
永井智教他 2017『西太田遺跡 6』有限会社歴史考房まほら
永井智教他 2000「3、荒砥地区の横穴石室」『群馬県内の横穴式石室』Ⅲ（中毛編）群馬県古墳時代研究会
長井正欣他 2000『五代竹花遺跡・五代木福 1 遺跡・五代伊勢宮 1 遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
西田健彦 1991『富士山Ⅰ遺跡 1 号古墳』群馬県教育委員
西田健彦 1997『西大室丸山遺跡』群馬県教育委員会
林信也他 1998『鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
藤坂和延他 1994『乙西尾引遺跡・西天神遺跡・柴崎遺跡』群馬県勢多郡大胡町教育委員会
前原照子他 1985『柳久保遺跡群 1』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前原豊他 1993『前二子古墳』前橋市教育委員会
前原豊他 1995『中二子古墳』前橋市教育委員会
前原豊他 1992『後二子古墳・小二子古墳』前橋市教育委員会
前原豊他 2006『東前沖遺跡・西前沖遺跡・西久保遺跡』樋越南部遺跡群 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
松田猛他 1986『上西原・向原・谷津』群馬県教育委員会
松田猛他 1999『上西原遺跡』群馬県教育委員会
松島榮治他 1991『芳賀西部団地遺跡』前橋市教育委員会
松島榮治他 1984『芳賀東部団地遺跡 1』芳賀東部団地遺跡群 第 1 巻 前橋市教育委員会
松本浩一 1981「堀越古墳」『群馬県史』資料編 3　原始古代 3（古墳） 群馬県
松本浩一 1981「臼山古墳」『群馬県史』資料編 3　原始古代 3（古墳） 群馬県
山中敏史 1994『古代地方官衙遺跡の研究』塙書房
山下歳信他 1996『堀越芝山遺跡』群馬県勢多郡大胡町教育委員会
山下歳信他 1998『横沢向田遺跡・堀越丁二本松遺跡・横沢向山遺跡他・茂木二本松遺跡』大胡西北部遺跡群　群馬県勢多郡大胡町教育委員会
山下歳信 1986『上大屋・樋越地区遺跡群』群馬県勢多郡大胡町教育委員会
山下歳信 1997『堀越中道遺跡』大胡西北部遺跡群 大胡町教育委員会

写　真　図　版

PL1

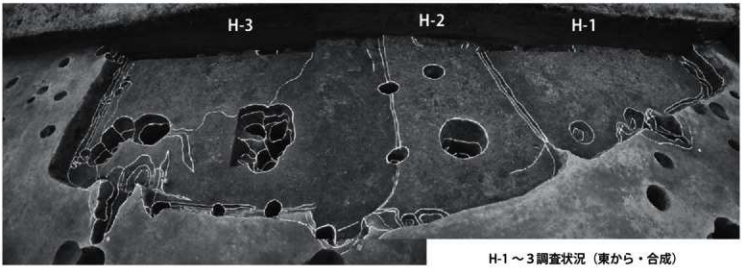
南方から見た上泉下中峯遺跡と赤城山

南東から見た上泉下中峯遺跡

上泉下中峯遺跡　調査区垂直（上が北）

北調査区　垂直（上が北）

南調査区　垂直（右が南）



H-1～3調査状況（東から・合成）

H-1　完掘（西から）

H-1　竈　調査状況（南西から）

H-2　完掘（西から）

H-2　竈　調査状況（北西から）

H-3　完掘（西から）

H-3　竈　調査状況（西から）

H-4　完掘（西から）

H-4　竈　その１（確認状況・西から）

H-4　竈　その２（袖部切開・西から）

H-4　竈　その３（煙道部切開・南西から）

H-4　竈　その４（煙道部土層断面・南から）

H-4　竈　その５（完掘・西から）

H-4　竈　その６（左壁石積・南から）

H-4　竈　その７（右壁石積・北から）

H-5　完掘（西から）

H-5　竈（西から）

H-7　完掘（西から）

H-6　完掘（南から）

H-6　竈（西から）

H-7　竈　検出状況（西から）

H-8　完掘（南から）

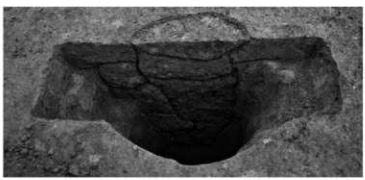
H-9　完掘（南西から）

H-10　完掘（北西から）

H-10　遺物出土状況（南東から）

H-10　竈　遺物出土状況（北西から）

H-10　竈　完掘（北西から）



H-10　柱穴 P2 断面（南から）

H-10　柱穴 P4 断面（南から）

H-11　完掘（南西から）

H-11　遺物・炭化物出土状況（西から）

H-11　遺物・炭化物出土状況（南から）

H-11　a・b 竈と炭化材の関係（南東から）
b 竈は袖が切られた上に炭化材が乗る。

H-11　a竈　完掘（南東から）

H-11　a竈　土層断面（東から）

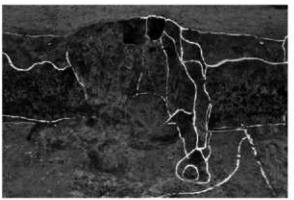
H-11　a竈　土層断面（南東から）

H-11　a竈　左袖部外側の被熱状況（南から）

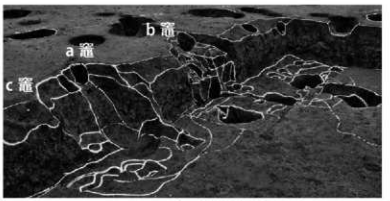
H-11　a・b竈の位置関係（完掘時・南東から）

H-11　b竈　完掘（南東から）

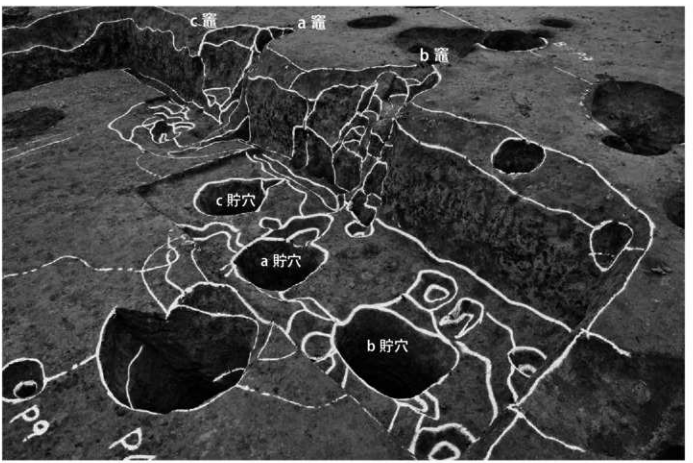
H-11　b竈　土層断面（北東から）



H-11　c竈（白線の無い部分・南東から）

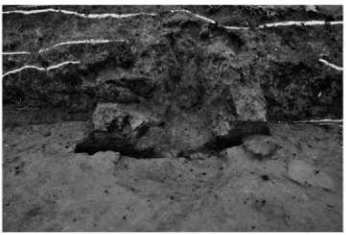


H-11　a・b・c竈の位置関係（南から）



H-11　a～c竈とa～c貯蔵穴の位置関係（ホリカタ段階・東から）

H-12　調査状況（南東から）



H-12　a 竈　完掘（南東から）

H-12　a 竈　（白線有・東から）

H-12　a 竈　土層断面（東から）

H-12　a 貯蔵穴　（P7・南東から）

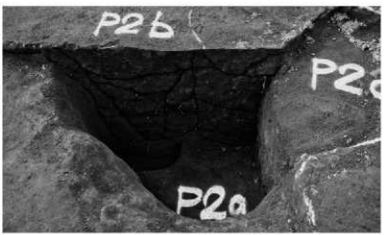
H-12　b 竈　調査状況（北から）

H-12　b 竈と b 貯蔵穴（P3・南から）

H-12　P1a 土層断面（南から）

H-12　P1b・c 土層断面（南から）

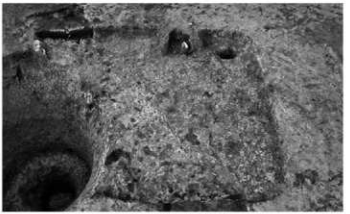
H-12　P2a・c 土層断面（東から）



H-12　P2a・b 土層断面（南東から）

H-12　P5 土層断面（南から）

H-12　P6 土層断面（東から）



H-13　完掘（南から）

H-13　出土遺物（南東から）

H-13　竈　調査状況（南から）

H-13　竈　土層断面（西から）

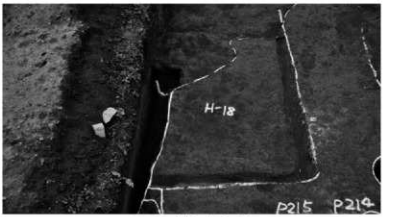
H-14・19　調査状況（南から）

H-14　貯蔵穴・柱穴調査状況（東から）

H-15　完掘（東から）

H-16　床面検出状況（西から）

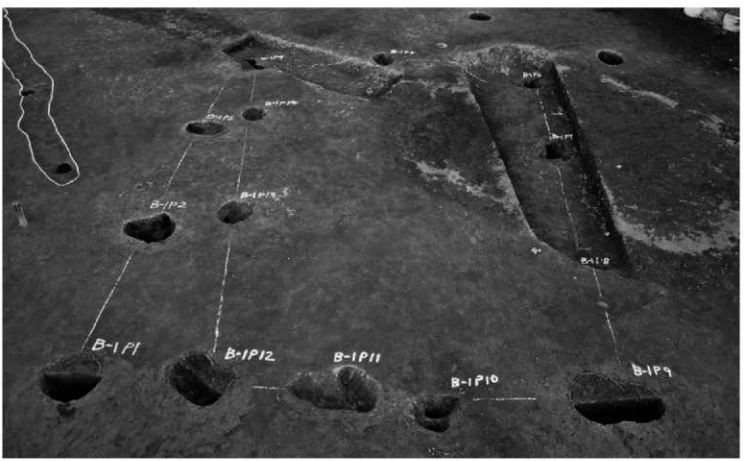
H-17　完掘（南から）



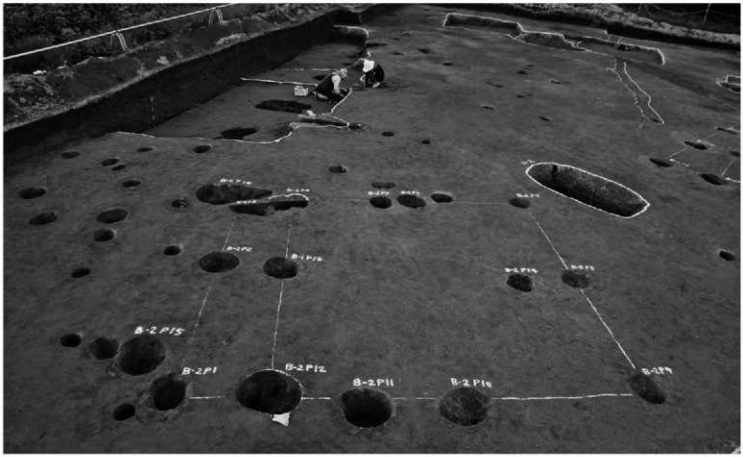
H-18　完掘（東から）

H-21　完掘（北西から）

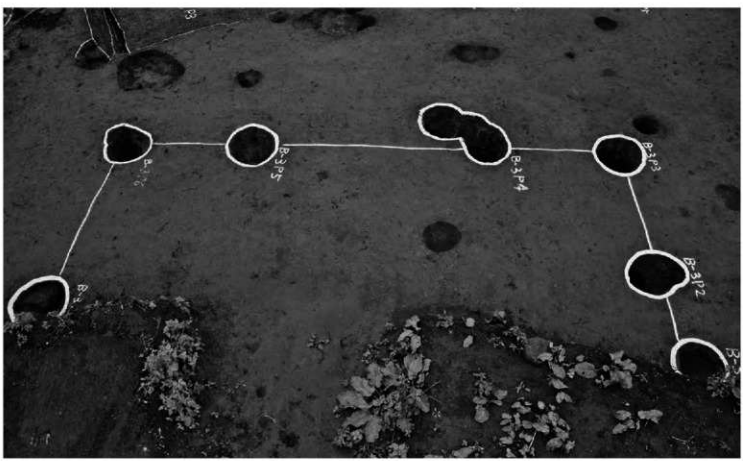
H-20・I-1　調査状況（西から）



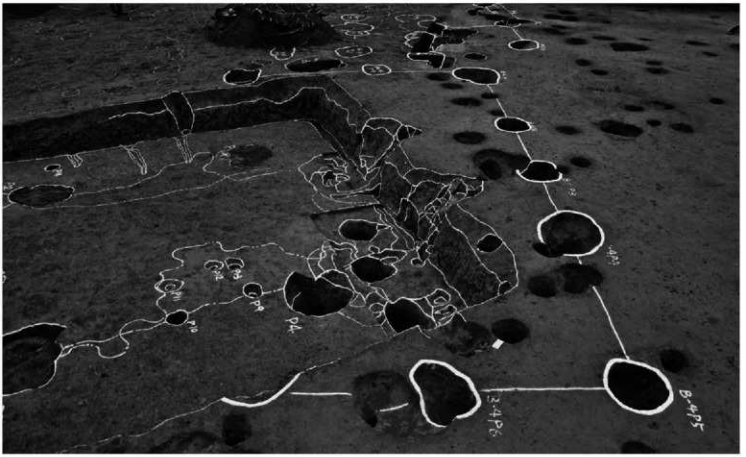
B-1　調査状況（南西から）



B-2　調査状況（南東から）



B-3　完掘（東から）



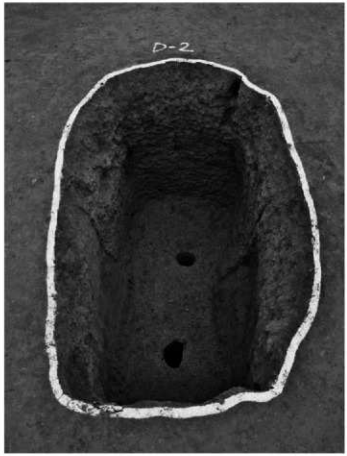
B-4　完掘（東から）

B-5 ～ 10　調査状況（北東から）

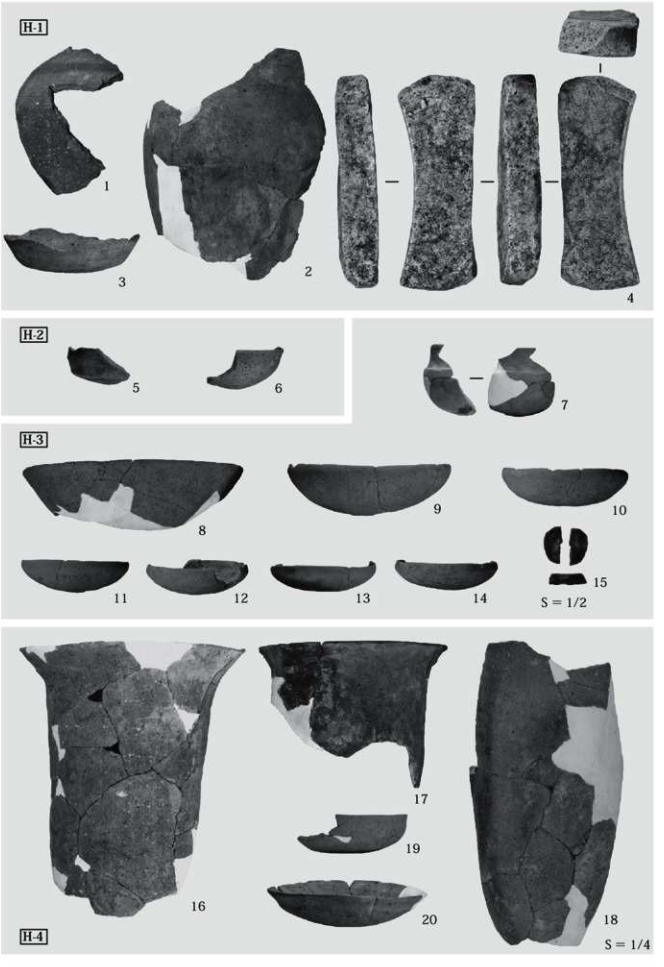
D-1　完掘（南東から）

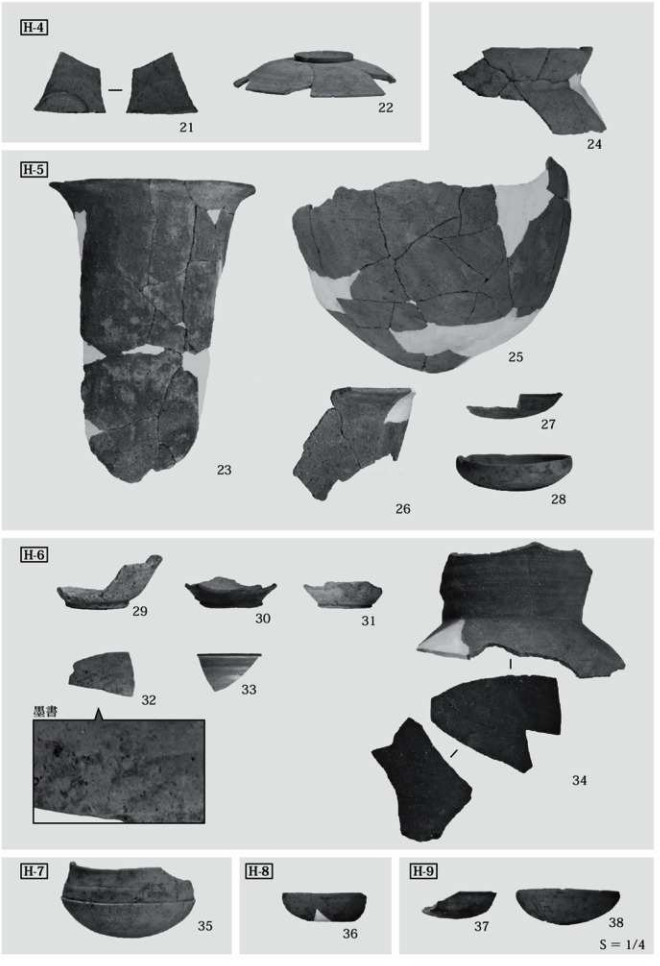
D-1　土層断面（北西から）

D-1　中層遺物出土状況（北西から）



D-2　完掘（北東から）


H-1
1
2
3
4
H-2
5
6
7
H-3
8
9
10
11
12
13
14
15
S = 1/2
16
17
18
19
20
H-4
S = 1/4


H-4
21
22
24
H-5
23
25
26
27
28
H-6
29
30
31
32
33
墨書
34
H-7
35
H-8
36
H-9
37
38
S = 1/4

H-10

39

40

41

42

43

44

45

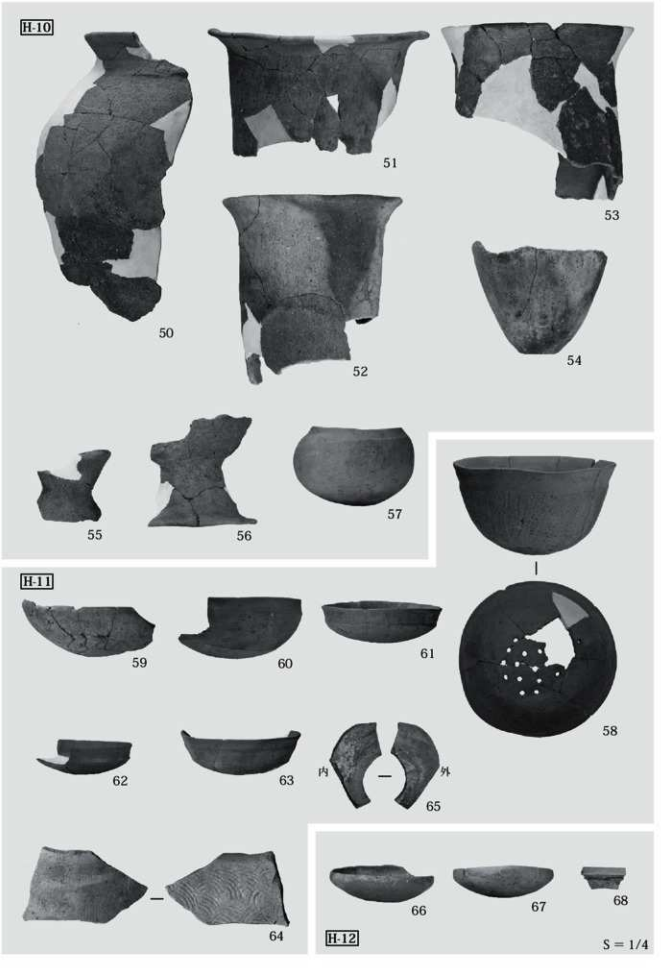
46

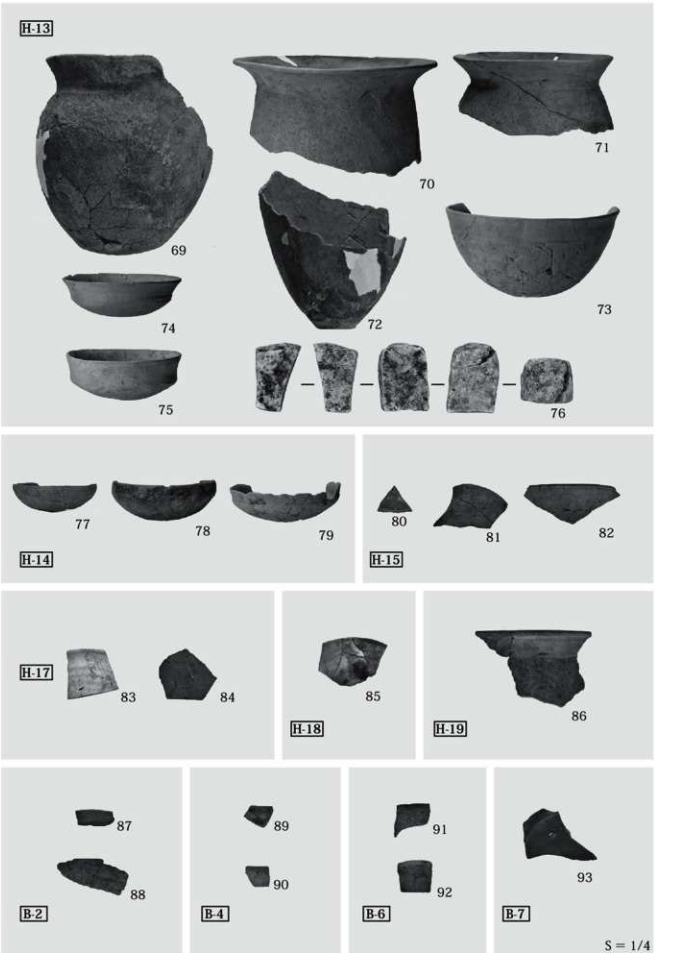
47

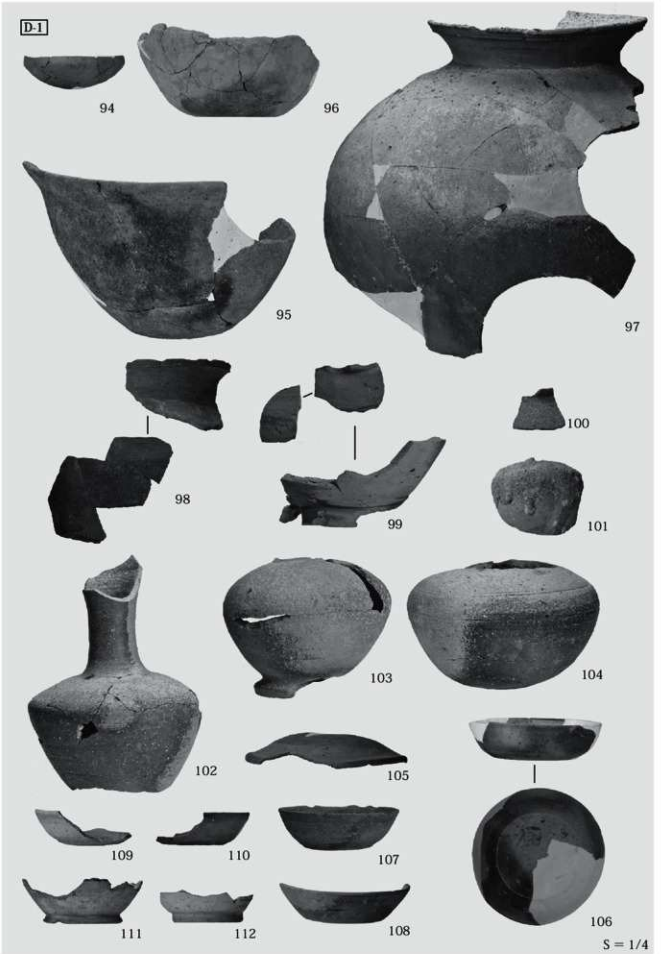
48

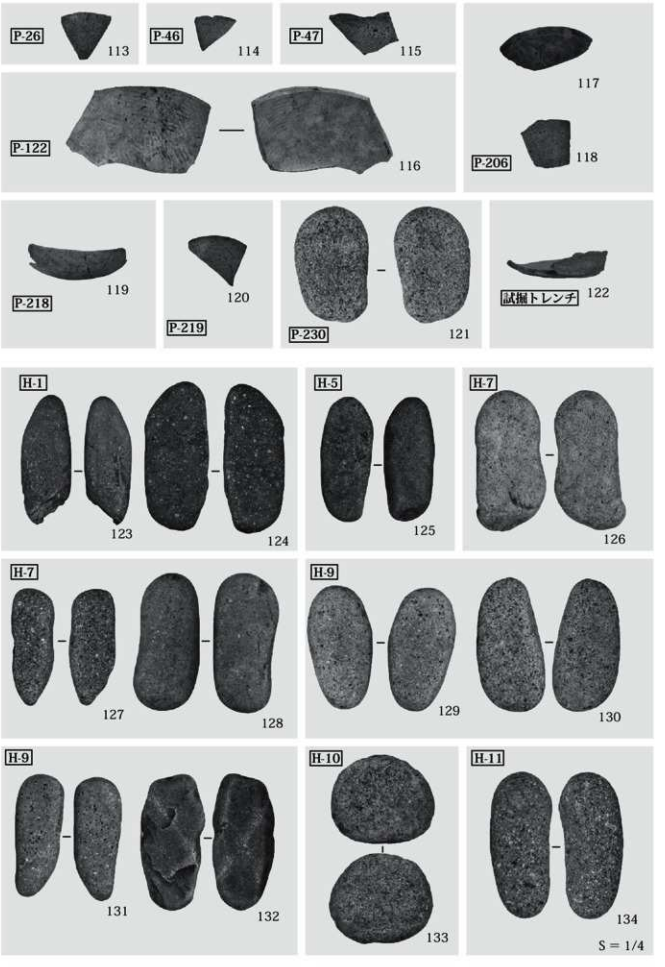
49

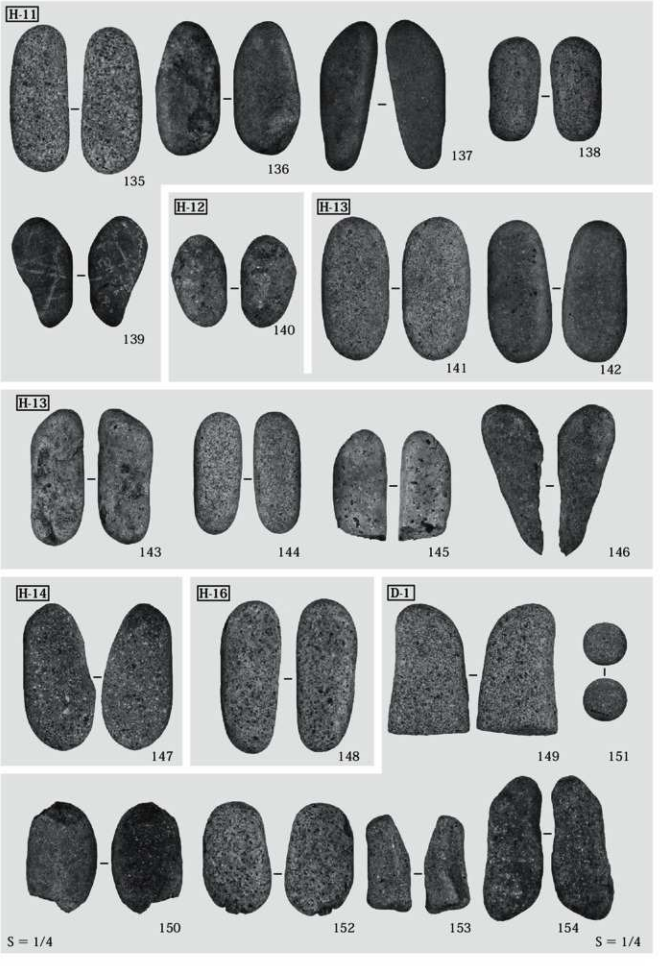
S = 1/4


H-10
50
51
52
53
54
55
56
57
H-11
58
59
60
61
62
63
内
外
65
64
66
67
68
H-12
S = 1/4


H-13
69
70
71
72
73
74
75
76
H-14
77
78
79
H-15
80
81
82
H-17
83
84
H-18
85
H-19
86
B-2
87
88
B-4
89
90
B-6
91
92
B-7
93
S = 1/4


D-1
94
96
95
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
S = 1/4


P-26
113
P-46
114
P-47
115
117
P-122
116
P-206
118
P-218
119
120
P-219
P-230
121
試掘トレンチ
122
H-1
123
124
H-5
125
H-7
126
H-7
127
128
H-9
129
130
H-9
131
132
H-10
133
H-11
134
S = 1/4


H-11
135
136
137
138
H-12
139
140
H-13
141
142
H-13
143
144
145
146
H-14
147
H-16
148
D-1
149
151
150
152
153
154
S = 1/4
S = 1/4

D-1 出土　馬歯（室内精査後）

調査を終えて

報告書抄録

ふりがな	かみいずみしもなかみねいせき
書名	上泉下中峯遺跡
副書名	荻窪公園県道南ゾーン公園造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
編著者名	永井智教　外山政子　高橋 敦　岡田 萌
編集機関	山下工業株式会社
	〒371-0244　群馬県前橋市鼻毛石町 207-8
発行機関	前橋市教育委員会　文化財保護課
発行年月日	2021年3月15日

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査対象面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上泉下中峯遺跡	群馬県前橋市上泉町2342-1、2344-1、2345	102016	2D31	36°25′22″	139°7′33″	R2.7.30 / R2.10.7	1084m²	公園造成
	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
	奈良・平安時代	竪穴建物跡 掘立柱建物跡 円形有段遺構 土坑 柵列 ピット		土師器：甕、坏 須恵器：甕、坏 砥石 滑石製品 など		氷室の可能性を持つ、円形有段遺構より「刷」墨書土器が出土。 厨家の可能性を持つ、掘立柱建物跡群の検出。		

上泉下中峯遺跡

―荻窪公園県道南ゾーン公園造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

2021年　3月15日　印刷・発行

編　集　山下工業株式会社
発　行　前橋市教育委員会
印　刷　朝日印刷工業株式会社

氷室の可能性がある円形有段遺構

円形有段遺構出土の須恵器坏底部外面に墨書された「厨」